以テ其ノ取扱方ハ物品取扱ノ規程ヲ適用スレバ足リ別ニ其ノ出納ニ關スル規程ヲ設クルノ必要ナカルベキガ故ニ特ニ圖書取扱ノ規程ヲ設クルヲ要セザルガ如シト雖其ノ設備スル處多數加之出入自ラ頻繁ナルヲ以テ取扱ノ便宜上別ニ其ノ手續ヲ定ムルヲ可ト認メ本局ノ圖書ニ付テハ本局處務規程中ニ特ニ規定セリ

局處務規程ハ第一編第十一章第四節第二款第二項ニ掲ゲタルモ閲覽ノ便宜上該規程中圖書取扱ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

局處務規程中拔萃（大正十年四月　其ノ後數回改正セリ　局訓令第一號　昭和十年三月末日現在）

第四十七條　主務課ニ於テ刊行ノ必要アリト認ムルモノハ其ノ原稿ヲ作成シ之ニ印刷上ノ注意ヲ添ヘ庶務課長ニ請求スヘシ

第四十八條　本局備付ノ圖書及刊行物ハ庶務課之ヲ保管シ第十四號樣式ノ圖書原簿ニ記入スヘシ

第四十九條　圖書及新聞雜誌ノ購入又ハ廢棄ヲ要スルトキハ庶務課長之ヲ審査決定スヘシ

第五十條　主務課ニ於テ圖書新聞雜誌ノ購入ヲ要スルトキハ庶務課長ニ請求スヘシ

第五十一條　圖書ヲ借覽セムトスル者ハ第十五號樣式ノ圖書借覽用紙ニ必要ノ記入ヲ爲シ申込ムヘシ

借覽期間ハ圖書ニ在リテハ三週間以内雜誌類ニアリテハ一週間以内トス

第五十二條　借覽期間ヲ經過シタルトキハ直ニ返納スヘシ但シ期間内ト雖必要アルトキ又ハ本章ノ規定ニ違反シタルトキハ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第五十三條　借覽ノ圖書ハ之ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第五十四條　法令集及地圖等課ニ於テ日常必要ノ圖書ハ課ノ請求ニ依リ其ノ課備付トシテ期限ヲ定メス貸付スルコトヲ得但シ必要ナル場合ニ於テハ庶務課長ハ期限ヲ指定シ返納ヲ要求スルコトアルヘシ

課ニ於テ前項ノ請求ヲ爲ス場合ハ取扱者ノ記名調印シタル請求書ハ主務課長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ庶務課ニ送付スヘシ

第五十五條　借覽圖書ヲ滅失毀損シタル者ニハ其ノ損害ヲ賠償セシム

第五十六條　庶務課ハ第十六號樣式ノ圖書貸與書ヲ調製シ貸與圖書ノ出納ヲ明ニスヘシ

第十四號樣式（美濃十行）

圖書原簿

圖書番號	著作者又ハ出版所名	名簿	著作年月又ハ出版年月	部冊數	受入年月日	備考

第十五號樣式

庶務課長承認印	

第十六號樣式(美濃十行)

圖書貸與書

圖書番號	圖書名	部冊數	貸與年月日	貸與期間	借覽者名	返納年月日	備考

圖書借覽用筆	圖書名	部冊數	閱覽又ハ借覽及其事由	借覽期間	年月日　課氏名	備考

支局處務規程中ニモ圖書ニ關スル事項ヲ規定セルガ其ノ內容本局ノ規程ト略同一ナルヲ以テ之ヲ省略セリ

尙局會計事務取扱規程第百三條ヲ以テ新聞雜誌等ノ閱覽濟ノモノニシテ不用ニ歸シタルモノヲ利用セントスルトキハ第十一類消耗品ニ受入否ラザルモノハ第十二類物品ニ受入ノ手續ヲ爲スコトニ規定セリ

第二項　博覽會共進會出品ノ取扱

製造煙草ハ商品タルヲ以テ製品ノ品質、價格及材料等ヲ公示シ煙草ノ知識ヲ一般ニ普及セシムルコトハ必要ノ手段タリ故ニ博覽會、共進會、品評會ノ如キ勸業ノ性質ヲ有スル公會ニハ努メテ之ヲ出品スルヲ可ト認ム

特ニ博覽會、共進會、品評會ニ出品スル場合ノ取扱手續ヲ規程セザルモ出品物ノ種類數量ハ適當ニ之ヲ定メ又出品用物品取扱主任ヲ特命シ物品會計官吏保管ノ儘出品セシテ機械ノ出品ニ付テハ物品會計官吏ヨリ拂出ヲ受ケ出品ノ事務ヲ取扱ハシム而シテ出品用物品取扱主任ヨリ直ニ物品會計官吏ニ引繼ガシムルモノトス

昭和四年總督府施政二十周年記念博覽會ヲ京城ニ於テ開催シタル際內外產葉煙草及製品ヲ出品シ且現場ニ於テ口付ハ廣瀨式紙卷機ヲ以テ兩切ハ「スタンダード」式紙卷機ヲ以テ其ノ製造ヲ實演シテ一般ニ觀覽セシメ又昭和六年京城日報社ノ主催ニテ京城ニ於テ滿蒙博覽會ヲ開催セシガ其ノ際

同樣出品シ殊ニ其ノ際ハ最モ進歩セル紙卷機「シンプレックス」式兩切紙卷機ヲ以テ兩切紙卷煙草ノ製造ヲ實演セシヲ以テ頗ル一般ノ好評ヲ博シタリ而シテ兩會共煙草製造ノ實演中ハ常ニ肩摩轂擊ノ雜閙ヲ極メ一般ニ煙草ノ知識ヲ普及セシムル上ニ於テ少カラザル效果ヲ擧ゲタリ

葉煙草ノ出品ニ付テハ第一編第十七章第一節第三款第二項ニ述ブルガ如ク耕作者名義ヲ以テ出品セシメタルガ元來葉煙草ハ全部政府ニ收納セザルベカラザルヲ以テ一旦政府ニ於テ收納シ然ル後特ニ見本トシテ拂出ノ手續ヲ採リタリ其ノ詳細ハ同項ニ記述シタルヲ以テ玆ニ再錄セズ

第三項　鑑定用及取締參考標本用材料素品ノ取扱

鑑定用材料素品トハ不正製造煙草ヲ考覈スルニ方リ其ノ眞僞ヲ對照檢案スルノ用ニ供スルモノヲ云フ專賣令ノ規定ニ違反シテ密造等ノ犯則ヲ敢行シ專賣令ノ施行ヲ困難ナラシムルハ既ニ專賣取締ノ章ニ於テ記述シタル處ナリ故ニ裁判所ニ於テ其ノ犯則ニ係ル物件ヲ檢案シテ斷罪ヲ適正ナラシムル場合ニ犯則物件精巧ニシテ巧ニ模擬シタルモノハ正當品ト對照スルニ非ズンバ其ノ眞僞ヲ判別シ難シ故ニ製品、包裹紙函及卷紙等ノ監査ヲ要ス而シテ製品ニ付テハ見本取扱手續アリ材料素品ニ付テモ同拂出ノ手續ヲ定ムル必要アリ又取締上ノ參考ニ供スル爲製品ニ付テハ鑑定用ト共ニ見本取扱手續アリ材料素品ニ付テモ同樣拂出ノ手續ヲ定ムル必要アリ是ニ於テカ局會計事務取扱規程中ニ夫々規定シタリ

製品見本取扱方ニ關シテハ既ニ第一編第二十一章第五節ニ記述シタルヲ以テ玆ニ之ヲ再錄セズ

今局會計事務取扱規程中鑑定用及取締參考標本用材料素品ノ取扱方ニ關スル規定ヲ抜萃スレバ左ノ如シ

局會計事務取扱規程中抜萃（大正十年十月局訓令第一八號改正大正十一年三月局訓令第六號）

第百二十二條　裁判上ノ鑑定用ニ供スルモノ又ハ專賣取締參考標本用ニ供スル材料素品受拂ノ爲各所ニ特別物品取扱主任ヲ置ク

各局所長ハ必要ニ應シ前項ノ官吏ヲ命免シタルトキハ本局及所屬ノ支局物品會計官吏ニ之ヲ通知スヘシ

第百二十三條　裁判上ノ鑑定用材料素品ハ本局ノ物品會計官吏ヨリ無償拂出ヲ爲スヘシ

前項ノ專賣取締參考標本用材料素品ハ左ノ種類數量ヲ限度トス

一　各種煙草包裹用紙　一回ニ付一箇所每拂出數量　二〇枚以內
二　各種小函　同　二〇箇以內
三　各種包裹用封緘紙　同　二〇枚以內

第百二十四條　特別物品取扱主任鑑定用トシテ裁判所ヨリ材料素品ノ請求ヲ受ケタルトキ又ハ專賣取締參考標本用トシテ材料素品ヲ必要トスルトキハ品名數量及事由ヲ詳記シテ第百二十三條ノ物品會計官吏ニ請求スヘシ

第百二十五條　特別物品取扱主任ハ物品受拂簿ヲ備ヘ各品名每ニ口座ヲ付ケ其ノ受拂貸出ノ整理ヲ爲スト共ニ嚴ニシテ濫用ヲ防クヘシ

第百二十六條　特別物品取扱主任其ノ保管ニ係ル材料素品ニシテ不用ニ歸シタルモノハ原拂出物品會計官吏ニ返納スヘシ

第五款　物品整理

物品ノ整理トハ品名ノ整理ト價格ノ整理トヲ云フ故ニ品名ト價格ノ整理トニ分チテ述ベントス

第一項　品名整理

品名整理トハ同一物品ニ對シ稱呼ヲ異ニスルモノヲ統一シ一定ノ名稱ニ歸セシメ其ノ類別ヲ明確ナラシムルヲ云フ同一物品ニ對シ局所ト人ヲ異ニスルニ依リテ其ノ稱呼ヲ異ニスルハ事務ヲ統一シ事務ヲ整頓セシムル所以ニ非ザルヲ以テ一般ノ物品ニ付テハ本府會計事務章程第百五十條ヲ以テ第一類應用品、第二類作業品、第三類材料素品、第四類生產品、第五類獄用品、第六類工事材料品、第七類動物、第八類政府保管有價證券ノ七種ニ分類セリト雖專賣事業ニ要スル物品中ニハ特殊ノモノモ存シ一般ノ規定ニ依リ難キモノアルガ故ニ同規定ニ於テ專賣局ニ於ケル物品ニ付テハ右類別ニ依ラザルコトヲ得ル旨規定シアルヲ以テ該規定ニ基キ實情ニ適スル樣局會計事務取扱規程中ニ局ノ物品ヲ十二ニ類別シ更ニ其ノ品名ヲ一定セリ該規程中物品ノ類別及品名ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

局會計事務取扱規程中拔萃（大正十年十月局調令第一八號改正大正十一年三月局調令第六號）

第九十二條　物品ハ左ノ類別ニ基キ第十九號表ニ依リ整理シ且總テ價格ヲ附シテ計算スヘシ

第一類　甲種備品
第二類　乙種備品
第三類　丙種備品
第四類　葉煙草
第五類　人參
第六類　醬
第七類　阿片
第八類　製造煙草
第九類　材料素品
第十類　機械運轉用品
第十一類　消耗品
第十二類　前各號ニ屬セサル物品

第十九號　物品類別表

第一類　甲種備品

何々刻機　レック式、アット式、酒井式等
何々裁切紙卷機　ボンサック式、ウインストン式等
何々口付紙卷機
箱紙製造機
加香機
濕潤機
乾燥機
冷却機
刻煙草手入機
砂揚機
煮漬機
卷煙草解放機　木製ヲ除ク
口紙卷機
何々塡充機　木製ヲ除ク
何々紙截機　木製手截機ヲ除ク

何々活版印刷機
何々石版印刷機
何々凸版印刷機
アルミ版印刷機
何々函製造機
糊漉機　木製ヲ除ク
金剛砂砥石機　木製ヲ除ク
砥石機　丸砥石機ノ類ニシテ木製ヲ除ク
自動庖刀研機
旋盤　ダライ盤
筋付機　ボール紙筋付機、包裹筋付機
穿孔機　ボール盤
平削機　シカル盤
精削機
螺旋切機
送風機
金庫　手提金庫ヲ除ク
臺秤　卓上用小形ノモノヲ除ク
消防喞筒
水道防火栓用具
壓搾機　封鐵用ポンスノ類共但シ動力ヲ使用セサル木製ヲ除ク
顕微鏡

第二類　乙種備品

卓子、椅子及臺類
卓子　小形ノモノヲ除ク
作業臺　分析臺、製作臺、細工臺、仕上臺、檢査臺及裝置臺ノ類ニシテ小形ノモノヲ除ク
簿記臺
製圖盤　小形ノモノヲ除ク
椅子
腰掛　工場職工用ノモノヲ除ク
見張臺
寢臺
教壇
箱棚類
書箱
箪笥
戸棚
隅棚
下駄箱
手提金庫
帳簿立
醫療用箱
計量用器具類
丈量器　鋼卷尺、鋼尺ノ類

觀測器
バロメーター
時計
權衡　卓上用臺秤、權衡ノ類
工具類
定盤
分度盤　齒割盤ノ類
小形穿孔器
鐵工用萬力　取付用バイスノ類手萬力ヲ除ク
捻子型
巢床
金床　アンビルノ類
スケーヤー
草眞、製圖及印刷用器具
寫眞機
青寫眞燒枠　小形ノモノヲ除ク
縮圖器
平行定規
製圖道具　箱入ノモノ
タイプライター
コツピープレス
インキ煉臺
インキ煉盤　金屬製ノモノ
分析及試驗用器具
反映鏡　顯微鏡用カメラルジタノ類
携帶用分析道具　分析用器具ヲ裝置セルモノ
微密檢厚器　デツキグラスゲージ、マイクロメータースクリユーノ類
檢力器　葉煙草切斷力檢定器ノ類
粉碎器
乾燥器　空氣乾燥器、蒸氣乾燥器ノ類、但シ硝子製ノモノヲ除ク
冷却器　硝子製ノモノヲ除ク
油煎器
土壤分析用圓壔
蒸溜器
白金蒸發皿
白金坩堝
白金製品
雜器具
軌道運搬車
鏡　姿見ノ類
雙眼鏡
電話機
卓上電燈機
マグネツトベル　磁石鈴

衝立
名札掛
　名札掛臺ノ類
帽子掛
　簡單ナル構造ノモノヲ除ク
夜具
蚊帳
天幕
煖爐
水槽
油槽
號鐘
救護器
小形氣銃器
粉煙草篩器
壓搾器
封緘打込器
　チェンアロック
　ウヤシク
備考　第一類ニ屬スル品名中特ニ除外シタルモノハ第二類トシテ整理スヘシ

第三類　丙種備品　物品類別上備品ノ取扱ヲ要スルモノニシテ第一類及第二類ニ屬セサルモノ

圖書
文具類
計量用具
　踏ミシン、手ミシンノ類
　第一類ニ屬スルモノヲ除ク
　カメリヤ用篩器ノ類
　葉煙草用、製本用、荷縛用但シ第一類ニ屬スルモノヲ除ク(編枠ハ第三類トス)
　鎖封紅蠟器
　起重器

分析及試驗用具
印章及印刷器類
火具及煖房具
點燈用具
工具及農具類
炊爨用具
雜器具
醫療用具

第四類　葉煙草

葉煙草
　葉
葉屑
刻屑
泥粉
油染

第五類　人蔘

水蔘
白蔘
紅蔘
蔘製品

第六類　麝

麝香

包裝鹽

醫藥用阿片
製藥用阿片

第七類　阿片

第八類　製造煙草

口付巻煙草（敷島、朝日、松風、白鷺）
兩切巻煙草（カイダ、ビジョン、ヒオニー、メロン、メープル）
葉巻煙草
刻煙草（あやめ、さつき、はぎ）
外國製紙巻
外國製葉巻
外國製刻

第九章　材料素品　煙草製造用ノモノニ限ル

何ミリ何線巻紙　口付又ハ兩切用
何斤口紙用紙
巻取口紙用紙
ラム
グリスリン
硼酸
砂糖
葡萄酒
丁子油

オレンジ油
トンカ豆
錫紙　寸法別又ハ一磅ノ枚數ニ依リ區分ス
中包紙　品名又ハ用途ニ依リ區分
紙吸口
竹吸口
何々包嚢用紙
何々外小函
何々中小函
包嚢用封緘紙　大又ハ小ニ區分ス
何々ボール函　裝置區分別アルモノハ之ヲ區分ス
何々ボール函用レッテル
ボール箱外包用蠟紙
何々木箱　製品荷造用、裝置區分別アルモノハ之ヲ區分ス
帯鐵　製品木箱荷造用
何オンスボール紙　裏白又ハ黄色ニ區分ス
金粉　印刷用
銅鐵用何色インキ
活版用何色インキ
石版用何色インキ
ワニス　印刷用
何板　製品荷造木箱用

何々木箱仕組板　製品荷造木箱用、號置區分別アルモノハ之ヲ區分ス

第十類　機械運轉用品

薪
石炭
石油
調革
綴革
木綿綱索
調革綴合具
外ニ動力用瓦斯電氣水道ノ料金ハ本費支辨トス

第十一類　消耗品　物品類別上消耗品ノ取扱ヲ要スルモノニシテ他ノ類別ニ屬セサルモノ

諸用紙
諸帳簿
切手印紙切符類
筆墨印肉繪具
文具類
薬品及塗料
燃料及油類
硝子及陶磁器類
布絲綿類
試驗及見本用標本
被服類（借人ニ給與スルモノ）

機械其ノ他補修用金具
機械其ノ他補修用雜品
金屬材料
木材及竹類
雜用品

第十二類　前各類以外ノ物品

沒收品（取扱廳ニ於テ直ニ相當類別ニ受入レ得ヘキモノヲ除ク）
差押品
甲種不用品（官有財產及第一類物品ヨリ生シタルモノ）
乙種不用品（前項以外ノモノ）
動物
保管物（本府會計事務章程第百二十六條ニ該當スルモノ）

器具機械管理上ノ必要ニ依リ局會計事務取扱規程中第十九號物品類別表第一類甲種備品及第二類乙種備品ノ整理方ニ關シ大正十三年三月專庶第三八九號ヲ以テ各支局長ニ左ノ如ク通牒シタリ

物品類別表改正ニ關スル件（大正十三年三月六日專庶第三八九號支局長宛　局長）

機械器具管理上ノ必要ニ依リ朝鮮總督府專賣局會計事務取扱規程樣式中第十九號物品類別表第一類甲種備品及第二類乙種備品ノ整理方ニ關シ左記ノ通規定改正ヲ要シ候處追テ之カ手續ヲ了スル迄大正十三年四月一日以降本改正ノ要領ニ依リ實施方御取計相成度及通牒候也

第十九號物品類別表

第一類（甲種備品）左ノ通改正ス

品名	解疏
煙草製造用機械	
葉組用輸送機	葉組秤分品輸送機械ノ類
砂掃機	「プラッシングマシン」ノ類
砂掃壓展機	
砂掃除骨機	
葉柄截斷機	足踏又ハ手押品ヲ除ク
葉脈調理機	小型品ヲ除ク
積葉壓搾機	手廻又ハ卓上用小型品ヲ除ク
積葉截斷機	木製又ハ手押式ノモノヲ除ク
濕沽機	「ソフチングマシン」ノ類
加香機	「ケーシングマシン」ノ類
乾燥機	火力乾燥機ヲ除ク
乾燥刻輸送機	乾燥機冷却機間ノ刻輸送機械
冷却機	「クーリングマシン」ノ類
印刷用機械	
何々オフセット印刷機	自動若ハ手送等制式又ハ構造ヲ冠記區分スヘシ
何々活版印刷機	同上
何々石版印刷機	同上
何々凸版印刷機	同上
裝置用輸送機	裝置作業用輸送機械
何々卷煙草解放機	手廻又ハ小型ノモノヲ除ク 兩切又ハ口付等制式又ハ構造ヲ冠記區分スヘシ
刻煙草手入機	木製「ドレッシングマシン」ノ類
何々袋貼機	數島型、朝日型、朝日松風型等用途別構造ヲ冠記區分スヘシ
何々塡充機	木製足踏式又ハ卓上用小型ノモノヲ除ク制式又ハ構造ヲ冠記區分スヘシ
何々口紙截斷卷取機	
何々箱紙紙卷機	「チューブメーキングマシン」ノ類制式又ハ構造ヲ冠記區分スヘシ
何々口付紙卷機	箱紙製造及塡充又ハ口紙挿入マテノ機械裝置ヲナセルモノ制式又ハ構造ヲ冠記區分スヘシ
何々兩切紙卷機	ボンサック式、アタラン式等制式又ハ構造ヲ冠記區分スヘシ
何々截斷機	レッケ式、クエースター式、酒井式等制式又ハ構造ヲ冠記區分スヘシ

製面用機械	アルミ版印刷機	制式又ハ構造ヲ冠記區分スヘシ
	何々金付機	制式又ハ構造ヲ冠記區分スヘシ
	何々金拂機	同上
	インキ練機	同上
	アルミ版研磨機	同上
	外小面製造機	木製又ハ小型卓上用ヲ除ク
	中小面製造機	同上
	ボール面針金平止機	同上
	ボール面針金角止機	同上
	ボール面鋏止機	同上
	小面用筋付截斷機	同上
	小面用筋付機	同上
	ボール面用筋付截斷機	同上
	ボール面用筋付機	同上

工作用機械	ボール面用角截機	同上
	何々旋盤	六尺又ハ八尺等構造ヲ冠記區分スヘシ 卓上用小型ヲ除ク
	穿孔機	制式構造ヲ冠記區分スヘシ 卓上用小型ヲ除ク
	平削機	制式構造ヲ冠記區分スヘシ
	何々綉削機	同上
	螺旋切機	同上
	丸鋸機	同上
	帶鋸機	同上
	トリプレックスマシン	同上
	自在研磨機	上下左右等自在ニ廻轉研磨シ得ル機械
	金剛砂砥石機	工具研磨機械
雜機械	天然丸砥石機	木製又ハ手廻用小型ヲ除ク 平庖丁研磨機械
	丸庖丁自動研磨機	丸庖丁カ圓形ニ自動シテ研磨スルモノ
	平庖丁自動研磨機	平庖丁カ左右ニ自動シテ研磨スルモノ

第二類（乙種備品）中卓子、椅子及臺類ノ「作業臺」ヲ削除シ在ノ通追加ス

煙草製造用具類	品名	解疏
何々填充器	送り付キ填充器又ハ手送り填充器等其ノ構造ヲ冠記區分スヘシ	
金庫	手提金庫ヲ除ク	
臺秤	卓上用小型ヲ除ク	
顯微鏡		
送風機	鍛工用送風機ノ類	
縫底締機		
眞空喞筒		
何々消防喞筒	カソリン消防喞筒若ハ手押消防喞筒等制式又ハ構造ヲ冠記區分スヘシ（水管車及ホースヲ除ク）	
紙截機	木製ヲ除ク	
煙濾機		
糊綿機	木製小型ノモノヲ除ク	
砥石自動研磨機	砥石カ左右ニ自動シテ研磨スルモノ	

雜器具	品名	解疏
水車	消防喞筒用品（ホースヲ含ム）	
水管		
水道防火栓用具		
工具類		
酸素鎔接具		
電氣研磨器		
電動鑽孔器		
何々作業臺	除骨作業臺、袋貼作業臺、袋詰作業臺等用途別構造ヲ冠記區分シ各作業共通ニ使用シ得ルモノハ雜作業臺トスヘシ	
積葉箱	上ゲ下ゲ裝置ナキモノ	
積葉器	上ゲ下ゲ裝置付ニ限ル	
先切器	填充仕上用先切器ノ類	
積葉小截器		
積葉大截器		
送り付キ積葉截斷器		
卷紙矯正器		
卷紙幅截器		

ボール紙切斷器	
テスト喞筒	

葉揃機及竪型空氣調和器ノ物品類別整理方ニ關シ昭和八年一月專賣第四〇號ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

物品類別整理方ニ關スル件（昭和八年一月二十四日專賣第四〇號支局長宛　庶務課長）

葉揃機及竪型空氣調和器ノ類別整理方ハ左記ニ依リ取扱ハレタシ

記

品名	類別	保存年限
葉揃機	第一類	十五年
竪型空氣調和器	第二類	

紙卷煙草包裝機ノ物品類別整理方ニ關シ同月專賣第五八號ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

品物類別整理方ニ關スル件（昭和八年一月二十六日專賣第五八號支局長宛　庶務課長）

紙卷煙草包裝機ノ類別及保存年限ハ左記ニ依リ整理相成タシ

記

品名	類別	保存年限
紙卷煙草包裝機	第一類備品	二十年

口貼機ノ物品類別整理方ニ關シ同年二月專賣第一一七號ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

口貼機類別整理竝保存方ノ件（昭和八年二月二十四日專賣第一一七號支局長宛　庶務課長）

首題物品ノ類別整理竝保存方ハ左記ニ依リ御取扱相成タシ

記

品名	類別	保存年限
口貼機	第一類甲種備品	十五年

金切鋸機ノ物品類別整理方ニ關シ同年五月專賣第二八四號ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

物品類別整理方ニ關スル件（昭和八年五月六日專賣第二八四號支局長宛　庶務課長）

最ニ貨局納トシテ購入シタル金切鋸機ノ類別整理方左ニ依リ御取扱アリタシ

記

品名	類別	保存年限
金切鋸機	第一類甲種備品	十五年

電動「ホイスト」ノ物品類別整理方ニ關シ昭和九年三月專賣第二二九號ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

電動「ホイスト」ノ類別整理竝保存年限ノ件（昭和九年三月專賣第二二九號支局長宛　庶務課長）

首題物品ノ類別整理竝保存年限ハ左記ノ通御了知相成タシ

記

品名	類別	保存年限	摘要
電動ホイスト	第一類	十年	

荒刻包裝機及荒刻包裹詰機ノ物品類別整理方ニ關シ同年四月專賣第三二二號ヲ以テ左ノ如ク通

物品類別整理方ニ關スル件（昭和九年四月專庶第三二二號　各支局長宛　事業、庶務課長）

荒刻包裝機及荒刻包裹詰機ノ類別及保存年限ハ左記ニ依リ整理相成ダシ

記

品名	類別	保存年限
荒刻包裝機	第一類備品	二十年
荒刻包裹詰機	第一類備品	二十年

配給員用及販賣所傭人用被服ノ類別整理方ニ關シ同年十一月專庶第七一九號ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

配給員用被服類別整理方ノ件（昭和九年十一月二十一日專庶第七一九號　各支局長宛　事業、庶務課長）

配給員用被服ハ客年四月十八日附專事第一四三號配給員被服給與ニ關スル件ヲ以テ總テ給與スルコトニ通牒濟ノ處爾今之ヲ類別整理方左記ノ通決定アリタルニ付御了知相成タシ

追テ配給員以外ノ販賣所傭人（配給船乘組船夫ヲ含ム）用被服ニ付テモ右ニ準ジ御取扱相成度申添フ

記

名稱	類別	使用期間	摘要
冬服	第十一類	一ケ年	
外套	同	二ケ年	
冬帽子	同	二ケ年	
夏服	同	一ケ年	
夏帽子	同	一ケ年	
手袋	同	三ケ月	
卷脚絆	同	一ケ年	
地下足袋	同	三ケ月	
雨衣	同	二ケ年	
防寒胴着	第三類		
防寒帽子	同		
防寒手袋	同		

第二項　價格整理

價格整理トハ製造ニ要スル材料素品ヲ拂出シ請負人ニ交付シテ加工セシメタルニ依リ其ノ價格ニ差額ヲ生ズルニ當リ之ヲ整理シテ受拂ヲ符合セシメ其ノ他物品ノ受入拂出價格ニ厘位アルモノ、購入物品ノ分割受入ノ爲又ハ國庫出納金端數計算法ニ依リタル爲代金支拂額ト物品出納簿受入價

格ト一致セザルモノ、在庫物品ニシテ拂出ノ際受入價格ニ依リ價格ノ計算ヲ爲ス能ハザルモノ等ニ對スル價格整理ノ方法ヲ云フ右價格ノ整理方ニ關シ局會計事務取扱規程中ニ夫々規定シタリ該規定ニ依リ價格ノ整理ヲ爲スモノトス今該規程中價格整理方ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

局會計事務取扱規程中拔萃（大正十年十月局訓令第一八號改正大正十一年三月局訓令第六號）

第百十八條　加工ノ爲材料素品ヲ製作請負人ニ交付スルトキハ物品出納簿ハ拂出整理ヲ爲サスシテ領書ヲ徵シ第二十五號樣式ノ材料素品加工整理簿ニ依リ整理シ置キ仕上品ノ生産受入ト同時ニ材料素品ノ生産拂出ヲ爲スヘシ但シ生産受入價格ニハ材料素品ノ價格ニ加工請負價格ヲ加算スヘシ

第百十九條　生産ノ爲物品會計官吏ヨリ工場ニ拂出ヲ爲シタル原料及材料素品ニシテ未加工ノモノアルトキハ每年三月末日ニ於テ第百條ニ準シ取扱フヘシ

第百二十條　生産ノ爲加工中ノ物品ハ每年三月末日ニ於テ第二十六號樣式ノ現在高價格調査表ニ依リ其ノ價格ヲ調査シ資本價格ノ計算ヲ爲スヘシ

第百二十一條　物品ノ價格整理ノ方法ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　物品ノ受入及拂出價格ニ厘位アルモノハ總テ之ヲ存ス

二　購入物品ノ分割受入ノ爲又ハ大正五年法律第二號國庫出納金端數計算法ニ依リタル爲代金支拂額ト物品出納簿受入價格ト一致セサルモノハ相當補助簿ヲ備ヘ其ノ顚末ヲ明瞭ナラシメ每年三月末日ニ於テ物品出納簿ノ受入價格ヲ更正シ且作業計算受拂ト一致セシムヘシ

三　在庫物品ニシテ拂出ノ際受入價格（改定シタルモノ）ニ依リ價格ノ計算ヲ爲ス能ハサルモノハ拂出ノ際ニ於ケル在庫數量ニ對スル平均單價ニ依リ算出スヘシ

四　平均單價ヲ算出スルニ當リ厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ單位ヲ繰上ケ（十又ハ百ト）尙端數アルトキハ之ヲ切捨ツヘシ

五　第四類乃至第十類物品ニ對シテハ每年三月末日ニ於テ當該帳簿ノ價格集計增減ノ整理ヲ爲スヘシ但シ價格ノ改定ヲ爲サムトスルモノアルトキハ改定ヲ爲シタル後本號ノ手續ヲ爲スヘシ

六　平均單價ニ依リ整理スル物品ニ付テハ每年三月末日ニ於テ平均單價ヲ改算シ此ノ平均單價ヲ以テ在庫數量ニ對スル價格ヲ算出シ當該帳簿ノ在庫價格ニ對シ增減アルトキハ前號ノ手續ヲ爲スヘシ

七　價格集計增減ノ調査方ハ第二十七號樣式ニ依リ整理スヘシ

第二十四號樣式

（品名）　　（調査人某）

年月日	原料素材高			完成品受入高	完成品受入高未濟數定高	備考
	原料素品名	數量	摘要			

備考

一　本簿ハ完製品名、加工請負人名、契約事項及單價ノ異ナル毎ニ口座ヲ設クヘシ

二　交付原料品名二種以上アルトキハ品名ノ異ナル毎ニ其數量ヲ記載スヘシ若原料品一種ナルトキハ欄外ニ其ノ品名ヲ記載シ原料品名欄ハ之ヲ省略スルコトヲ得

三　左ノ事項ハ備考欄ニ記載スヘシ

第五編　會計　第三章　國有財産及物品

イ　契約年月日、交付品及加工費ノ單價竝其ノ合計單價

ロ　每回交付物品ノ內加工濟受入ノ場合ニ於テ之ニ對スル交付物品ヲ物品出納簿ヨリ生產拂出ヲ爲シタルトキハ其ノ年月日及數量但シ每回交付物品ノ加工完了ノトキ生產拂出ヲ爲シタルトキハ數量ノ記載ヲ要セス

ハ　完製品受入未濟豫定高ニ對シ過不足ヲ生シタルトキハ其ノ理由

ニ　請負人ニ辨償ヲ命シタル事項アルトキハ其ノ數量、金額、事由及顚末

第二十六號樣式

大正何年度末(何々)生產中物品現在高價格調査表

製品名	生產中物品ノ種類	數量	單價	價格	備考
			圓	圓	
		計			
		計			
合計					

備考

一　場外作業請負人ニ於テ生產中ニ係ルモノハ本表ニ朱書スヘシ

第二十七號樣式

大正何年度末葉煙草價格集計增減調査表

品名(種類)	葉分	乾燥區分	收納等級	一貫匁當賠償價格	現在量目	同上ニ對スル賠償價格	物品出納簿 現在價格	物品出納簿 同上ニ對シ增△減	物品出納內譯簿 現在價格	物品出納內譯簿 同上ニ對シ增△減
何々葉			八	圓 一、八〇〇	圓 一五、三〇〇	圓 二七、五四〇	圓 —	—	圓 二七、五四〇	〇
同			四	二、六〇	一六七、九〇〇	四二六、二八〇	—	—	四三六、二八〇	〇
同			二	一、二〇〇	二、九〇〇	三、四八〇	—	—	三、四八〇	〇
同			一五	〇、七〇〇	〇、二六〇	〇、一八〇	—	—	〇、一八一	〇、〇〇一
同			一六	〇、六〇〇	〇	〇	—	—	〇、〇〇二	△〇、〇〇二
合計					一八六、二六〇	四六七、四八二	四六七、四八三	△〇、〇〇一	四六七、四八三	△〇、〇〇一
葉屑				〇、〇一〇	四三、三二〇	〇、四三二	〇、四三二	〇、〇〇一	〇、四三二	〇、〇〇一
總計					二二九、五八〇	四六七、九一五	四六七、九一五	〇	四六七、九一五	〇

備考

一　本調査表ハ物品出納簿ノ各口座品名每ニ區分シテ其ノ增減額ヲ計算スヘシ

二　物品出納內譯簿ノ設アルモノハ其ノ口座每ニ掲載計算シ尙價格ノ登記シアルモノハ增減額ノ整理ヲ爲スヲ要ス

三　葉煙草以外ノ物品價格ニ對スル集計增減ノ調査表ハ本樣式ニ準シテ適宜作成スヘシ

第三十七號樣式ノ二

第何類物品出納簿

品名		單位稱呼	

年月日	物品出納命令官印	受		拂		現在			摘要	物品會計官吏印	受領者印
		數量	價格	數量	價格	平均單價	數量	價格			
			圓		圓	圓		圓			

第六款　物品處理

物品處理トハ物品ヲ購入シテ受入ヲ爲シ又ハ廻送シテ保管ヲ轉換シ又ハ賣却シテ拂出ス等ノ手續ナリ

本款ニ於テハ物品ノ購入、保管轉換、不用品ノ處分ノ三項ニ分チテ述ベントス

第一項　物品購入

物品購入ノ一般手續ヲ云ヘバ支局ハ配付セラレタル歲出豫算ノ範圍內ニ於テ自ラ購入ヲ決定シ物品出納順序ニ依リ受入ヲ爲シタル後其ノ代金ヲ仕拂フヲ本旨トス然レドモ其ノ物品ニシテ各支局ニ供用セラルルニ拘ラズ各支局共通的ノモノニシテ其ノ數量性能、供給者其ノ他特殊ノ事情ニ因リ支局單獨ニ購入スルヲ不利トスル場合アリ斯ル場合ニ本局ニ於テ一時ニ多數ヲ購入スルトキハ廉價トナリ送付ノ手數ト運搬費トヲ控除スルモ尙餘裕アルモノノ如キハ支局ニ直接購入セシムルコトナク特別ノ取扱手續ニ依ラシメタルガ故ニ本項ニ於テ之ヲ說述セントス

一　原料及製品

煙草製造原料タル葉煙草ハ能フ限リ鮮產品ヲ之ニ充當スル方針ナルモ嗜好ノ關係及鮮產數量ノ不足等ノ爲內地產葉及外國產葉ヲ必要トスル場合アリ內地產葉ノ購入ニ關シテハ內地專賣局外國產葉ニ對シテハ適當ノ輸入業者ヲ選定シ尙原料葉煙草ハ其ノ價額モ多額ニ上リ且原料計畫ハ

本局ニ於テ樹立セザルベカラザルヲ以テ總テ本局ニ於テ購入シ現品ハ支局ニ納入セシムルコトトセリ

鮮外製品ノ購入ニ關シテハ本局ニ於テ全鮮ニ於ケル需給ノ統制ヲ圖ラザルベカラザルヲ以テ內地製煙草ハ內地專賣局、臺灣製煙草ハ臺灣專賣局ヨリ又外國製煙草及鹽ニ付テハ適當ノ輸入業者ヲ選定シ煙草原料同樣本局ニ於テ購入シ現品ハ支局又ハ出張所ニ納入セシムルコトトセリ

二　機械器具及材料素品

機械器具及材料ハ事業上何レモ重要ナル物件ナリ其ノ品質ハ優良ナルヲ要シ其ノ形體ハ正確ナルヲ要ス又取纏メテ之ガ購入契約ヲ爲スニ於テハ價格ヲ低廉ナラシムル利アリ故ニ其ノ品目中或物件ヲ定メテ本局ノ購入ト爲シ其ノ他ハ支局ヲシテ購入セシムルコトトシ大正十年七月專賣第三六二號ヲ以テ各支局長ニ左ノ如ク通牒セリ

物品ノ購入配給ニ關スル件（大正十年七月七日專賣第三六二號　支局長宛　局長　其ノ後數回改正セリ昭和十年三月末日現在）

煙草製造用又ハ製造煙草材料等本局ニ於テ購入シ供給者ヲシテ直接各支局ニ納付セシムヘキ物品ハ左ノ通リ決定致候條及通牒候也

記

第一類

全部（臺秤、金庫、消防ポンプ、水道防火栓用具ヲ除ク）

第二類

煙草製造用機械及收納用壓搾機

第三類

現業職員及職工用被服

第四類

內地產及外國產葉煙草

第八類

內地製及外國製煙草

第九類

卷紙

口紙

ラム

酒精

特許香料

アリスリン

砂糖

トンカ豆

クマリン

鑄紙

中包紙

竹製又ハ木製パイプ

包裏用紙

小函（兩切ノ外、中小函）

包裏用封緘紙

ボール函用印刷紙	
ボール函用レッテル	
ボール函外包紙	
木箱仕組板	
鋼版用インキ	
吸口用キルク	
アルミニユーム箔	
小函上包紙	
第十類	
調帶（平調革、丸調革、木綿調帶、金革調帶ノ類但シ機械附屬無端調帶ヲ除ク）	
第十一類	
鋼版	
截斷機用刻庖刀	
兩切紙卷機用庖刀	
紙截庖刀（口紙截斷卷取機用紙截庖刀ヲ除ク）	
鋼帶	
針革	
鎖帶	
金剛砂丸砥石（但シ截刻機用刻庖刀及庖刀研磨用）	
ボール函中止用角針金	
無端テープ	
備考	

一　前記ノ物品ニシテ毎日所要ノモノハ其ノ見込數量ヲ計算シ前前月一日迄ニ本局ニ申請スルコト

二　前記以外ノ物品ニシテ從來本局契約ニ基キ支局ニ納付シタルモノモ今後ハ支局ニ於テ直接購入契約ヲ爲スコト

三　前記以外ノ物品ニシテ其ノ支局所在地ニ於テ購入ヲ不便トスルトキハ豫メ其ノ品名數量所要ノ時期等ヲ申報スルコト

四　被服ハ別途定ムル通牒ニ基キ一箇年ノ所要見込數量ヲ計算シ二月末日迄ニ本局ニ申報スルコト但シヤツニ限リ五月二十日迄トナスコトヲ得

三　其ノ他普通事務用品

前二項ニ述ベタルモノノ外販賣所ノ開設ニ伴ヒ煙草賣渡事務ノ爲ニ要スル自轉車、金庫、計量器、番號器、暖爐、「ポンプ」、謄寫版、算盤、時計、釘拔、諸用紙、帳簿、配給員及販賣所傭人被服等ハ一括註文スルヲ價格協定上有利トスルガ故ニ之亦本局ニ於テ購入シ現品ハ使用官署ニ納入セシムルコトトセリ

物品供給者ヨリ購入物品ヲ納付シタルトキハ本府會計事務章程第百二十三條ノ二ノ規定ニ依リ納入物品ノ檢査ヲ爲スベキ者ヲ命ジ現品ニ就キ檢査ヲ執行セシムルモノトス而シテ右檢査ノ場合ニ技術的鑑識ヲ要スルモノニ付テハ相當技術者ヲ參加セシメラルベキモノナルニ其ノ取扱區々ニ渉リ其ノ適否ハ自然生產費ニ影響ヲ及ス所少カラザルヲ以テ檢査上技術的鑑識ヲ要スル物品ニ付テハ技術者ヲ參加セシムベキ旨大正十三年八月專庶第一二二七號ヲ以テ各支局長ニ左ノ如ク通牒セリ

納入物品檢査方ニ關スル件（大正十三年八月、專庶第一二七號　支局長宛　局長）

本府及所屬官署會計事務章程第百二十三條ノ二ノ現品檢查ニ際シ技術的識識ヲ要スルモノニ付テハ相當技術者ヲ參加セシメラルヘキ義ニ有之候處取扱區々ニ渉ル向モ有之候ニ付テハ其ノ適否ハ生產費ニ影響スル所可不尠被認候ニ付爾今左記事業用物品ノ受入ニ付テハ相當技術者ヲ參加セシメ責任ヲ明ニシ檢查上遺漏ナキヲ期セラレ度爲念及通牒候也

左記

一　本局配給品　全部
一　支局購入品　石炭
一　同　コークス
一　同　繊類
一　同　金屬材類
一　同　木竹材類
一　同　雜物類
一　其ノ他技術上ノ識識ヲ必要トスル物品

（會計事務章程第百二十三條ノ二ハ第二章第二節第十款ニ併錄シタルヲ以テ玆ニ再錄セズ）

第二項　保管轉換

保管轉換トハ甲廳ニ於テ保管シタル物品ヲ命令ニ依リ乙廳ニ移送シ其ノ保管タラシムルヲ云フ

本府會計事務章程中ニ物品ノ保管轉換ニ關スル規定アリ其ノ概要ヲ述ブレバ物品ノ保管轉換ヲ爲サントスル場合ニ一廉五十圓未滿ノ物品ノ保管轉換又ハ專賣局、專賣支局及出張所間ノ保管轉換ハ其ノ廳ノ長ニ於テ專行シ其ノ他ノ場合ハ事由ヲ具シ本府ニ申請シ認可ヲ受クルヲ要ス又物品ノ保管轉換ヲ爲ス場合ニハ現保管ノ物品會計官吏ハ一定ノ保管轉換引繼書ヲ作成シ保管ノ引繼ヲ受クベキ物品會計官吏ニ引繼ヲ爲シ其ノ領收證ヲ徵スルモノトス

保管轉換引繼書ノ記入方、現品ノ到着及引繼既未濟整理簿ノ設備方等ニ關シ局會計事務取扱規程ニ夫々規定シアリ

今本府會計事務章程及局會計事務取扱規程中物品ノ保管轉換ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月本府訓令第四二號　其ノ後屢次改正セラル）昭和十年三月末日現在）

第百五十九條　物品ノ保管轉換ヲ爲サムトスルトキハ其ノ品名、數量、價格及保管轉換ヲ要スル事由ヲ具シ本府ニ申請スヘシ但シ左ニ揭クル物品ニ付テハ其ノ廳ノ長ニ於テ專行スルコトヲ得

一　一廉五十圓未滿ノ物品
二　移監囚徒ノ被服
三　配給ノ目的ヲ以テ製作シタル在監人ノ被服類及食器類、看守ノ被服竝刑務所用ノ諸用紙類

內務局出張所間、專賣局專賣支局及各出張所間、稅務監督局及稅務官署間、營林署間、道廳府郡島廳警察署間及府郡島廳、警察署間、淸生院、道慈惠醫院間、稅關及其ノ支所出張所間、農事試驗場、同支場及同出張所間、穀物檢查所同支所間、大學、大學醫學部附屬醫院及大學豫科間、地方法院同支廳及同出張所間、刑務所、刑務所及其ノ刑務所ノ支所間ノ保管轉換ハ其ノ廳ノ長之ヲ專行スヘシ但シ府郡島廳及警察署間ニ在リテハ道知事、大學總長、地方法院同支廳及同出張所間ニ在リテハ地方法院長（覆審法院所在地ノ地方法院ニ在リテハ覆審法院長）ノ認可ヲ受クヘシ

第百六十條　物品ノ保管轉換ノ場合ニ於テハ現保管ノ物品會計官吏ハ第三十五號書式ノ保管轉換引繼書ヲ作リ保管ノ引繼ヲ受クヘキ物品會計官吏ニ引繼ヲ爲シ其ノ領收證ヲ徵スヘシ

備考
一　事實局ノ煙草ニ限リ本府ノ認可ヲ受ケ本書式ニ依ラサルコトヲ得
二　保管轉換ニ係ル物品ノ發送ニ於ケル拂出月日ハ本受領書記載ノ月日ニ依ルコト

受領書

第　號

品名	員數	單價	金額	摘要
		圓	圓	

右保管轉換ヲ以テ御引繼相成正ニ領收候也
昭和　年　月　日
何縣物品會計官吏　官氏名殿
何縣物品會計官吏　官　氏　名印

保管轉換引繼書

第　號　　月　日　便ヲ以テ發送

品名	員數	單價	金額	摘要
		圓	圓	

右保管轉換ヲ以テ及引繼候也
昭和　年　月　日
何縣物品會計官吏　官氏名殿
何縣物品會計官吏　官　氏　名印

右受入ヲ命ス
何縣ノ長
物品會計官吏
昭和　年　月　日出納簿登記濟

拂出票

第　號　　何縣ノ長　　物品會計官吏　　月　日　便ヲ以テ發送

品名	員數	單價	金額	摘要
		圓	圓	

送先
右保管轉換トシテ拂出ヲ要ス
昭和　年　月　日
年　月　日出納簿登記濟

第三十五號書式

局會計事務取扱規程中拔萃（大正十年十月局訓令第一八號改正大正十一年三月局訓令第六號）

第百十四條　保管轉換引繼書ニハ物品ノ類別ヲ其ノ摘要欄ニ記入スヘシ
煙草ノ回送ニ關スル引繼書及受領書ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第百十五條　保管轉換ニ依ル受入ノ記帳ハ保管轉換引繼書又ハ回送案内書ニ依ル
前項ノ現品カ一部分到着シタルトキハ全部ノ到着ヲ俟タスシテ其ノ都度直ニ受入ヲ爲スヘシ

第百十六條　保管轉換ニ依ル拂出ノ記帳ハ保管轉換ノ拂出票又ハ回送案内書ノ原本ニ依ル

第百十七條　前二條ニ依ル保管轉換引繼書又ハ回送案内書ニ對スル到着既未濟又ハ引繼既未濟ノ品名、數量及金額ハ第二十四號樣式ノ整理簿ヲ備ヘ其ノ顚末ヲ明瞭ナラシムヘシ

第二十四號樣式ノ一

回送受入整理簿

（品　名）　（何出張所）

年月日	案内書受高			受入濟高			受入未濟高		備考
	發送元拂出月日	數量	價格	發送元拂出月日	數量	價格	數量	價格	
			圓			圓		圓	

備考
一　本簿ハ物品ノ類別毎ニ別冊トシ物品出納簿ノ各口座別ニ發送元ノ異ナル毎ニ口座ヲ設クヘシ
二　回送案内書又ハ其ノ他ノ書類ニ依リ整理シ得ヘキトキハ本簿ノ設備ヲ省略スルコトヲ得
三　數量欄ハ物品出納簿ノ區劃ニ依ルヘシ

四　本帳ノ摘要ヲ準用ニ關スル口座ヲ設ケ繰越及通知ヲ記入スヘキ旨ヲ定メタルトキハ其ノ第四欄乃至第八欄以外ノ物品ニ限リ當該ノ事項ヲ記入スヘキコトヲ得

第二十四號樣式ノ二

回送物品繰替帳

（向出張所）

年月日	摘要	回送先受入済高			備考
		數量	金額		

備考　第二十四號樣式ノ一ニ準ス

屑煙草又ハ作業上生ズル不用ノ材料品ヲ地方廳勸業模範場及監獄等ニ於テ害蟲驅除豫防其ノ他ニ利用シ得ル場合ニ之ガ保管轉換ハ本府會計事務章程第百五十九條ノ申請ヲ爲サザルベカラザルモ此ノ如キ物件ニ對シテモ之ガ保管轉換ハ右ノ如キ手續ヲ履マシムルハ頗ル煩雜ナルヲ以テ支局長限決行セシムルコトトシ其ノ旨大正十年八月專賣第二三九九號ヲ以テ各支局長ニ通牒セリ

葉煙草及製造煙草ノ保管轉換ハ往々行違ヲ生ジ收支計算書作成上支障ヲ生ズルコトアルヲ以テ收支計算作成ノ資料トシテ毎年四月十五日迄ニ發送元官署ト回送先官署ト明細書ヲ送付シ照合セシムル必要アルヲ以テ之ガ照合方ニ關シ昭和四年四月專賣第二〇六號ヲ以テ各支局長ニ左ノ如ク通牒セリ

物品保管轉換照合方ニ關スル件（昭和四年四月專賣第二〇六號支局長宛　庶務課長）

第四類及第八類物品保管轉換照合方左記ノ通一定シ昭和三年度分ヨリ實施致度ニ付御了知ノ上遺漏ナキ樣取扱アリタシ

追テ本件照合ハ行違ヲ生シ易ク延イテ收支計算書作成上支障ヲ生スヘキニ付特ニ注意セラレタシ

記

一　發送元官署ハ回送先官署ニ對シ毎年度翌年四月十五日迄ニ別紙樣式ノ明細書二通ヲ送付シ照合ヲ要ムヘシ

二　回送先官署ハ前項ノ明細書ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ照合シ其ノ符合ヲ認メタルトキハ其ノ旨發送元官署ニ通知スルト同時ニ明細書一通ニ付符合ノ旨記載シ責任認印ノ上所轄支局ニ送付スヘシ

三　回送先官署ヲ所轄スル支局ハ前項ニ依リ送付ヲ受ケタル照合濟明細書ヲ集計シ發送元官署ヲ所轄スル支局ト照合ノ上收支計算書作成ノ資料ニ供スヘシ

支局間ノ照合ハ情況ニ依リ之ヲ省略スルヲ妨ケス

四　回送費ハ發送元官署ヲ所轄スル支局ニ於テ集計ノ上回送先官署ヲ所轄スル支局ニ通知スヘシ

回送先官署ヲ所轄スル支局ハ通知ヲ受ケタル回送費ヲ其ノ儘收支計算書作成資料ニ供スヘシ

五　第四類物品ニ付テハ發送元官署ヲ所轄スル支局ニ於テ明細書ヲ取纏メ第一項ノ期日迄ニ回送先支局ニ送付シ照合ヲ要ムルヲ妨ケス此ノ場合ニ在リテハ前項ノ回送費ハ之ヲ明細書ニ記入シ通知ニ代フルコトヲ得

六　照合ニ付相手方官署ノ取扱ニ付注意ヲ要スト認メタル點ハ本局ニ通報スヘシ

第五編　會　計　第三章　國有財産及物品　一四一九

昭和　年度葉煙草保管轉換拂出明細書

回送先　　發送元

產地	種類	數量		資本價格		內譯 最先受入年度	數量		資本價格		回送費	
		貫		圓			貫		圓		圓	
備考												

記載例

1 用紙美濃判三枚重トシ複寫紙ヲ用ヒ記載シ一通ヲ原本トシ二通ヲ回送先官署ニ送付スルモノトス

2 回送費ノ記入ハ第五項ノ場合ノ外省略スルモノトス

3 現存スル用紙ヲ取繕ヒ使用スルモ妨ケナシ

樣式乙

昭和　年度製造煙草保管轉換拂出明細書(局製品 移入品)

回送先　　發送元

種類	品名	數量 相又ハ個	數量 本又ハ匁ニ換算シタルモノ	資本價格		回送費		備考
口付	敷島			圓		圓		
	朝日							
	松風							
	〃 〃							
兩切	〃 〃							
	〃 〃							
	〃 〃							
	〃 〃							
細刻	〃 〃							
	〃 〃							
荒刻	〃 〃							
	〃 〃							

	〃	〃						
輸入刻	〃	〃						
	〃	〃						
	〃	〃						
輸入葉卷	〃	〃						
	〃	〃						
	〃	〃						
計								

記載例　樣式甲ニ準ス

樣式丙

昭和　年度製造煙草保管轉換拂出明細書（輸入品）

回送先　　發送元

種類	製造所名	名	稱裝置	數量		賣本價格	回送費	備考
				個數	本又ハ匁ニ換算シタルモノ			
						圓	圓	

	計	

記載例　樣式甲ニ準ス

煙草ノ保管轉換ニ付テハ他ノ物品ノ場合ト其ノ取扱ヲ異ニスル必要アルヲ以テ前揭局會計事務取扱規程第百十四條第二項ニ依リ別ニ之ヲ定ムルコトトシ特ニ煙草回送規程ヲ設ケ該規程ニ依リ取扱フコトト爲シタリ而シテ煙草ノ回送ニ關シテハ第一編第二十四章ニ記述シタルヲ以テ玆ニ之ヲ再錄セズ

純粹ノ保管轉換ニ非ザルモ其ノ實質略保管轉換ニ類スル煙草、器械、卷紙等ノ引繼ニ關スル件ヲ便宜本項ニ併錄スルコトトセリ

關稅法ニ依リ收容シタル煙草器具機械及卷紙ニシテ稅關官署ニ於テ公賣ヲ要スルトキ、間接國稅犯則處分令、關稅法、遺失物令、水難救護令其ノ他法令ノ規定ニ依リ當該官署ニ於テ公賣ヲ要スルトキ、監獄令ニ依リ監獄ニ於テ在監者ヨリ沒入シタル製造煙草ニシテ品質惡變包裹破損又ハ包裹ノ色彩變褪スル等ノコトナク販賣ニ適スルモノ及以上ノ外之等ノ物件ヲ所有、所持又ハ保管スル官公署ニ於テ該物件ノ處分ヲ要スルトキノ引繼方ヲ定ムル必要アルヲ以テ大正十年八月專庶第五八七號ヲ以テ政務總監ヨリ各關係官署長ニ左ノ如ク通牒セラレタリ

煙草、器械、卷紙ノ引繼ニ關スル事務取扱方ノ件（大正十年八月專庶第五八七號道知事、稅關官署長、監獄官署長、專賣局長宛　政務總監）

煙草、器械、卷紙ノ引繼ニ關スル事務左記ニ依リ取扱相成度此段及通牒候也

記

一　左ニ記載シタル場合ハ最近距離ノ專賣官署（專賣官署トハ專賣支局及專賣支局出張所ヲ略稱ス以下皆同シ）ニ對シ有價ニテ之カ引繼ヲ爲スヘシ

（一）關稅法ニ依リ收容シタル煙草、器械（器械トハ煙草製造專用ノ器具機械ヲ略稱ス以下皆同シ）及卷紙ニシテ稅關官署ニ於テ公賣ヲ要スルトキ

（二）間接國稅記則處分令、關稅法、遺失物令、水難救護令其ノ他法令ノ規定ニ依リ當該官署ニ於テ公賣ヲ要スル物品カ煙草、機械及卷紙ナルトキ

（三）監獄令ニ依リ監獄ニ於テ在監者ヨリ沒入シタル製造煙草ニシテ品質惡變包裹破損汚損又ハ包裹ノ色彩變褪スル等ノコトナク且政府ノ證票アリテ其ノ販賣ニ適スルモノナルトキ

二　前項ニ記載スル場合ノ外煙草、器械及卷紙ヲ所有、所持又ハ保管スル官公署ニ於テ該物品ノ處分ヲ要スルトキハ最近距離ノ專賣官署ニ對シ無償ニテ之カ引繼ヲ爲スヘシ朝鮮外ヨリ渡來スル旅客カ稅關構內ニ拋棄シタル同種物件ヲ稅關官署ニ於テ引繼ク場合ニ於ケル取扱方ニ付テ亦同シ

三　第一項ニ依リ專賣官署ニ對シ煙草、器械及卷紙ヲ有價引繼ノ場合ニ於ケル價格ハ專賣官署ノ鑑定シタル金額ニ據ルヘシ

四　引繼ヘキ物品カ普通ノ眼識ニ依リ使用ニ堪エスト認メタルトキ若ハ運搬費ヲ要スルモノニシテ其ノ物品ノ價格カ運搬費ヲ償ハスト認メタルトキハ當該官署ニ於テ之ヲ廢棄シ其ノ旨專賣官署ニ通知スヘシ

沒收、收容等ニ依ル煙草、器械、卷紙引繼事務ニ關シ前揭ノ如ク通牒セラレタルニ付テハ之ガ引受事務取扱手續ヲ定ムル必要アルヲ以テ大正十年　月局訓令第十五號ヲ以テ該手續ヲ左ノ如ク定メタリ

沒收收容等ニ依ル煙草、器械、卷紙引受事務取扱手續（大正十年八月局訓令第一五號改正大正十四年一月同第一號）

第一條　專賣官署ニ於テ通告其ノ他取締上ノ處分ニ依リ受領シタルモノ又ハ法令ノ規定ニ依リ官公署、鐵道會社等ヨリ引繼ヲ受ケタル煙草、機械及卷紙ハ各其ノ用途及價格ヲ鑑定シ之ニ依リテ受入ヲ爲シ有償引受ノ場合ハ右價格ニ依リ支拂フヘシ

前項ノ價格ハ左ノ區別ニ從ヒ鑑定スヘシ

一　製造煙草

イ　朝鮮ニ於テ現ニ販賣スル製造煙草ニシテ販賣ニ適スルモノハ受入年次ノ生產費又ハ受入當時ノ政府ノ購買價格

ロ　右以外ノ製造煙草ニシテ再製品ノ原料ト爲スヘキモノ又ハ更裝スヘキモノハ其ノ用途ニ對スル生產費中物品價格又ハ之ニ比準シタル價格

二　朝鮮產葉煙草ハ受入當時ノ賠償價格ニ比準シタル價格

三　內地產及外國產葉煙草ハ受入當時ノ政府ノ購買價格ニ比準シタル價格

四　器械及卷紙ハ適宜ノ方法ニ依リ調査シタル價格

第二條　前條ノ物品ニシテ左ニ記載スル場合ニハ受入前之ヲ廢棄シ其ノ旨引繼ヲ受ケタル官公署又ハ鐵道會社等ニ通知スヘシ

一　專賣官署ニ於テ使用ニ堪エスト認メタル物品

二　他ニ回送ヲ要スル物品ニシテ受入當時ノ價格カ回送費ヲ償ハスト認メタルトキ

第三條　專賣支局長ハ煙草、器械及卷紙ノ拾得者ニ對シ事宜ニ依リ左ニ記載スル區別ニ依リ謝金ヲ給與スルコトヲ得

一　遺失物ノ拾得者ニ對シテハ遺失物法第四條ノ報勞金ニ相當スル金額

二　漂流物沈沒品ノ拾得者ニ對シテハ水難救護法第二十四條ノ報酬ニ相當スル金額

第四條　第一條ニ依リ物品ノ引繼ヲ受ケタル專賣官署ハ其ノ運搬費ヲ負擔スヘシ關稅法第九十條第三項ニ依ル公賣ニ

代フル爲メ引繼ニ係ル場合ノ保管費ニ付テ亦同シ

第五條　引繼ヲ受クヘキ物品ニ對シ鑑定ヲ爲ス者アラサル專賣官署ニ在リテハ物品ノ全部ヲ別紙樣式ノ囑託書正副二通ト共ニ當該物品ヲ使用スル最寄專賣支局(朝鮮外ニ於テ製造シタル煙草ニ在リテハ京城專賣支局)ニ送付シテ鑑定方ヲ囑託スヘシ但シ器械ニシテ長大又ハ重量多ク運送上不便且支局ニ於テ製造ノ用ニ供シ得ルヤ否ヤニ就キ疑アルモノハ現品ヲ送付セス器械ノ構造ヲ詳記シタル書面ヲ以テ意見ヲ求メ之ニ依リ相當處理スヘシ

第六條　前條ニ依リ鑑定ノ囑託ヲ受ケタル專賣支局ハ鑑定ノ上用途價格又ハ廢棄等ノ指定ヲ爲シ囑託書ニ相當記入シ若他ノ支局ニ回送ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ回送先局名ヲ附記シ副本ハ之ヲ囑託官署ニ返付スヘシ但シ回送先ニ付テハ物品ノ性質上止ムヲ得サル場合ノ外受囑官署自ラ使用又ハ販賣ニ供スルコトトシ其ノ廢棄スヘキモノハ囑託官署ニ代リテ之ヲ決行シ其ノ旨ヲ通知シ成ルヘク轉送又ハ返送ノ煩ヲ避クルコトヲ要ス

第七條　受入前廢棄スヘキ物件又ハ鑑定ノ爲解剖若ハ試喫シタルモノアルトキハ適宜ノ帳簿ニ依リ受入前廢棄又ハ價格決定用トシテ消費ノ顚末ヲ明ニスヘシ但シ前條ニ依ル囑託鑑定ノ場合ニ於テハ受託官署ニ於テ以上ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　第一條又ハ回送ニ依リ受入ヲ爲シタル物品ハ左ノ區別ニ從ヒ取扱フヘシ但シ第六條ニ依リ指定アリタルモノハ其ノ指定ニ依リ取扱フヲ要ス

一　葉煙草ハ相當原料ニ使用スルコト但シ葉煙草ヲ使用セサル專賣官署ニ在リテハ煙草回送規程ノ定ムル所ニ據ル

二　朝鮮ニ於テ現ニ販賣スル製造煙草ニシテ販賣ニ適スルモノハ手續第三十條ニ依リ又包裝ヲ更裝セハ販賣ニ適スル製造煙草ハ同第四十八條ニ準シ處理スルコト

三　前號ニ該當セサル製造煙草、器械及卷紙ハ相當原料又ハ其ノ用途ニ使用スルコト但シ當該原料又ハ器械ヲ使用セサル專賣官署ニ在リテハ之ヲ使用スル最寄專賣支局ニ回送スルコト

第九條　物品ノ送付回送ハ本手續其ノ他ニ規定アルモノヲ除ク外運送費少ナク且迅速ニ到達スル場所方法ヲ擇ムヘシ

第十條　物品ノ受入類別ハ專賣局會計事務取扱規程第九十二條ノ類別ニ依リ區分スヘシ

附　則

本手續ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(樣式)

年　月　日

何々專賣支局宛

何々鑑定方ノ件

左記物品何々便ニテ及送付候條煙草、器械、卷紙引受事務取扱手續第五條ニ依リ鑑定及囑託候

何々專賣支局何々出張所

番號	種類名稱	裝置區分	總數量	用途指定
一	葉巻	何々 五〇本	一〇〇本	販賣用一箇何程
二	紙巻	何々 一〇〇	二〇〇	再製原料百匁何程
三	刻	何々 四〇匁	一二〇匁	同
四	板	何々 一〇	二〇	販賣用一箇何程
五	葉煙草	種類葉分別	一、〇〇〇	等級、産出年次
六	器具	手捲用	一箇	廢棄
七	機械	煙草刻機何々	一箇	何程
八	卷紙	手捲用 一〇枚	五〇冊	廢棄

右第一號乃至第五號及第七號ハ當局ニ回送ノコトニ處理相成候
追テ廢棄ヲ要スルモノハ便宜當局ニテ廢棄方取扱置候

年　月　日

何々專賣支局何々出張所宛

備考

一　本囑託書ハ總數量以上ノ各事項ヲ囑託官署ニ於テ記載シ用途指定以下ヲ受託官署ニ於テ記載スヘキモノトスト雖豫メ定ノ上ニアラサレハ記載スルコト能ハサル事項アレハ其ノ記載ヲ省キ現品ニ囑託書ト同一ノ番號ヲ附シ送付スルコト

二　受託官署ハ名稱カ空欄ナルトキハ相當ノ記入ヲ爲スコト既ニ記入セラレタルモノト雖之ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキ亦同シ

三　本樣式ニ示ス所ハ單ニ一例ニ過キサルモノナレハ取扱手段ニ從ヒ各場合ニ應シ詳細ニ記載シ雙方ノ取扱ニ錯誤ナキヲ期スルコト

法令ノ規定ニ依リ沒收ニ係ル阿片煙、阿片又ハ紅蔘、水蔘、白蔘ノ引繼方モ煙草ニ準ジテ取扱フノ必要アルヲ以テ大正十五年三月官通牒第一二號ヲ以テ政務總監ヨリ左ノ如ク通牒セラレタリ

沒收ニ係ル阿片、麻藥類、紅蔘、銃器、支那產絹織物等ノ取扱ニ關スル件

（大正十五年三月官通牒第一二號　檢事局ノ長宛　政務總監）

沒收ニ係ル阿片煙等ハ自今左記ノ通御取扱相成度此段及通牒候也

記

一　阿片煙又ハ阿片ハ朝鮮總督府衞生課物品會計官吏ニ引繼ク可キコト

二　紅蔘專賣法其ノ他ノ法規ニ依リ沒收シタル紅蔘、人蔘（特別耕作區域內ニ於テ生產シタル水蔘及白蔘ハ專賣局開城出張所物品會計官吏ニ引繼クコト

三及四　（省略）

五　沒收ニ係ル（モルヒネ）、（コカイン）及其ノ鹽類等ノ麻藥類ハ本府衞生課又ハ道物品會計官吏ニ引繼クコト

沒收ニ係ル阿片、モルヒネ、コカイン及其ノ鹽類等ノ麻藥類ハ前記通牒ニ依リ本府衞生課又ハ道ノ物品會計官吏ニ引繼グベキコトト爲シアリタルガ是等ノ事務ハ專賣局所管ト爲リタルガ故ニ該物品ハ京城專賣支局物品會計官吏ニ引繼グベキ旨昭和四年九月官通牒第四三號ヲ以テ政務總監ヨリ通牒セラレタリ

昭和五年度ヨリ鹽ノ輸移入管理ヲ施行シタル結果鹽ノ輸入又ハ移入ニ關スル制令第一號第五條第二號ノ規定ニ依リ沒收シタル鹽モ最寄ノ專賣官署ノ物品會計官吏ニ引繼ガシムル必要アルヲ以テ右引繼方昭和五年十二月官通牒第五八號ヲ以テ政務總監ヨリ各檢事局ノ長ニ通牒セラレタリ

第三項　不用品ノ處分

局所屬ノ物品中時勢ノ變遷ニ依リ不用ニ歸シ或ハ年所永クシテ破損ヲ生ジ漸次其ノ效用ヲ失フモノアリ又製造計畫ノ變更其ノ他ノ原因ニ依リ使用セザル材料素品アリ尙製造作業上生ズル不用物品アリ是等ノ物品ヲ保管シテ倉庫ニ堆積スルガ如キハ無益ニシテ且又甚ダ不利ナリ是ニ於テ之ガ處分ノ必要ヲ生ズ而シテ物品ノ處分ニ關シテハ本府會計事務章程第百七十條ヲ以テ特ニ規定アルモノヲ除クノ外各廳ノ長ニ於テ決行スルヲ得ルコトト爲シアリ依テ局ノ不用品ハ可成之ヲ賣却

スルヲ以テ方針トシ取締上危險ナキヲ限度トシテ其ノ物品ヲ民間ニ拂下グルコトトセリ拂下ノ手續ハ大體會計法及會計規則ニ依據スルモノナレドモ局トシテ特定ノ方法ニ依リ處分スルノ必要アルヲ以テ局會計事務取扱規程中ニ夫々規定セリ

今本府會計事務章程及局會計事務取扱規程中不用品ノ處分ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月本府訓令第四二號　其ノ後屢次改正セラル　昭和十年三月末日現在）

第百七十條　物品ノ處分ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外本府ニ在リテハ總督官房會計課長其ノ他ニ在リテハ各廳ノ長之ヲ決行スヘシ

局會計事務取扱規程中拔萃（大正十年十月改正大正十一年三月局訓令第一八號　局訓令第六號）

第百三條　新聞雜誌等ニシテ閱覽濟ノ上不用ニ歸シタルモノ又ハ第十二類物品ニ受入ヘシ

第百四條　材料素品、機械運轉用品又ハ其ノ他ノ物品ニシテ不用ニ歸シタルモノハ總テ損失トシ不用品ニ組替ヘ適當ノ時期ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第百五條　煙草製造計畫ノ變更又ハ其ノ他ノ原因ニ依リ三年間毫モ使用セサル材料素品ハ本局長ノ承認ヲ經テ前條ノ手續ヲ爲スヘシ特ニ本局ヨリ命令アリタルモノ又ハ價格ノ輕微ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百六條　取締ノ必要アル煙草製造用卷紙、箱紙、封緘紙、證票、包裝用紙及外小函等ニシテ作業上生シタル損傷品ハ適宜帳簿ヲ備ヘ毎日其ノ數量ヲ記載スヘシ但シ他ノ簿表ニ於テ其ノ事實ヲ認メ得ヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百七條　前條ノ損傷品ハ適當ノ時期ニ於テ第十二類物品トシテ物品會計官吏ニ引繼ヲ爲シ最モ有利ナル方法ニ依リ利用又ハ賣却スヘシ

前項ノ場合ニ於テ利用又ハ賣却ノ途ナキモノニ付テハ之ヲ燒却シ關係者ニ於テ之カ調書ヲ作成スヘシ

第百八條　前條第一項ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ不取締ナキ樣豫メ左記各號ノ加工ヲ爲スヘシ

一　卷紙ハ縱斷又ハ濕潰シテ爲スコト

二　箱紙封緘紙及證票類ハ濕潰シテ爲スコト

三　包裝用紙及外小函類ハ中央部ヨリ兩斷スルコト但シ利用上兩斷スルヲ不利トスル場合ハ表面適當ノ部分ニ消印又ハ黑線ヲ施シ兩斷セサルモ妨ナシ

第百九條　第百六條以外ニ工場等ニ於テ生スル不用品ハ當該主務省ニ於テ遺漏ナク蒐集ノ上管理ノ責ニ任シ相當帳簿ヲ備ヘ之ヲ整理シ適當ノ時期ニ於テ物品會計官吏ニ引繼クヘシ但シ他ノ簿表ニ於テ其ノ受拂ヲ整理スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第百十條　第百七條又ハ前條ニ依リ引繼ヲ受ケタル物品ハ第三十九號樣式ノ二ニ準シタル物品出納簿ニ依リ之ヲ整理スヘシ

第百十一條　各支局長ハ工場ニ於テ作業上當時生スル不用品ニ對シ每月其ノ生產高ノ當否ヲ精査スヘシ

工場等ニ於テ生ズル不用品ニシテ物品會計官吏ニ引繼前當該主務者ニ於テ之ヲ生產費ニ關セザル用途ニ直接使用スル必要ヲ生ズル場合アルヲ以テ不用品整理簿ヲ備ヘ其ノ受拂ヲ明瞭ナラシメ置クノ必要アルガ故ニ大正十三年五月十四日專賣局第七七八號ヲ以テ各支局長ニ左ノ如ク通牒セリ（大正十三年五月十四日專賣局第七七八號支局長宛）

不用品利用整理方ニ關スル件

工場等ニ於テ生スル不用品ハ適當ノ時期ニ物品會計官吏ニ引繼ヲ爲スヘキ取扱ニ有之候處物品會計官吏ハ引繼前當該主務者ニ於テ之ヲ生產費ニ關セサル用途ニ直接利用セムトスル必要ヲ生スル場合モ可有之被認候條該不用品ノ整理方ニ關シテハ關令當該主務者ニ於テ左記樣式ニ依リ不用品整理簿ヲ備ヘ受拂整理相成度及通牒候也

追テ當該主務者ニ於テ不用品ヲ直接利用セムトスル場合ハ生產費ニ關セサル用途ニ誤ルコトトシ其ノ他ノ用途ニ供スル場合ニ在リテハ從前ノ通相當物品類別ニ受入ノ上使用可相成義ト了知相成度申添候

記

不用品整理簿様式

品名

（單位稱呼）

主任	係	年月日	摘要	生産受	拂出			備考
					利用拂	會計官吏へ引繼	現在高	

販賣制度改正後空木箱ニシテ丙種販賣所及配給所ニ於テ生ズルモノハ各其ノ長ニ荷置場ニ於テ生ズルモノハ當該荷置場管理人ニ給付シ甲種及乙種販賣所ニ於テ生ズル空木箱ハ第十二類物品トシ若空木箱ヲ賣拂フ場合ハ元來空木箱ハ保管ニ困難ナルノミナラズ時日ヲ經過スルニ從ヒ變色發黴其ノ他惡變ヲ來シ賣拂益々困難トナルヲ以テ迅速ニ處分セシメ一面所轄販賣所長ヲシテ各地方ニ於ケル空木箱利用ノ方法ヲ講究セシメ其ノ販路ヲ開拓シ又空木箱賣下ハ一定ノ傳票ニ依リ見積其他ノ手續ヲ省略シ可成簡易ニ處理セシムル事ニ昭和六年七月專賣第四八八號及同年十一月專賣第七二一號ヲ以テ各支局長ニ左ノ如ク通牒セリ

空木箱處分ニ關スル件（昭和六年七月專賣第四八八號支局長宛　事業課長、庶務課長）

製造煙草販賣上生ズル空木箱ハ左ノ通處分相成タシ

記

一　丙種販賣及配給所ニ於テ生ズルモノハ各其ノ長ニ荷置場ニ於テ生ズルモノハ當該荷置場管理人ニ給付スルコトトシ受拂手續ヲ省略スルコト

二　甲種及乙種販賣所ニ於テ生ズル空木箱ハ第十二類物品トシ再使用其ノ他有利ニ處分ノ途ヲ講ズルコト（此ノ場合ニ於テハ總テ受拂整理ヲ要スルコト勿論ナリ）

（追書省略）

煙草空木箱ニ關スル件（昭和六年十一月專賣第七二一號支局長宛　庶務課長）

煙草空木箱ニシテ支局ニ回送再使用スルモノニ關シテハ別途實施計畫方照會シタル處其ノ空木箱ニシテ賣拂處分ヲ要スルモノハ左記御參照ノ上急速處分方晉運セラレタシ

記

一　空木箱ハ保管ニ困難アルノミナラス時日ヲ經過スルニ從ヒ變色發黴其ノ他惡變ヲ來シ益々賣拂困難トナルヲ以テ可成迅速處分スルコト

二　空木箱ノ利用ニ關シテハ出張所長又ハ販賣所長自ラ地方ノ實況ニ應スル適當ノ方法ヲ發見スルニ努メ販路ヲ開拓スルハ機宜ノ措置ト認ム現ニ春川出張所長ハ道、郡及警察官憲ノ諒解ノ下ニ從來民家ノ柵枝垣ニ代フルニ空木箱利用ニ依ル簡單ナル板塀ヲ推奬シ地方官憲モ亦林政上之ニ贊同シ相當效果アリト謂フ

三　空木箱賣拂代金收入ハ雜算ニモ從前元賣捌會社時代ニ於ケル事例ニ依リ賣却相當額ヲ計上シアル關係上等閑ニ付スル能ハサルヲ以テ此ノ點ニ關シテモ御留意ノ上適宜督勵ノ方法ヲ講スルコト

四　空木箱賣下票ハ別紙樣式ニ依リ見積其ノ他ノ手續ヲ省略シ（單價契約等ノ場合ハ此ノ限リニ在ラサルモ差當リ適宜賣拂フコトトシ）可成簡易ニ處理セシムルコトトシ歲入金領收濟報告書收入明細書等ハ別ニ作成セス右賣下票ノ提出

テ以テ之ニ代フルコト

別紙樣式

ス　廳
告　所
報　殿
付

號　第

官吏掌者　收入官吏　徵收官吏　通常收入徵收事務　收入徵收金額主任分　票下拂箱　日　月　年　木　空　和　昭
歲入徵收官（歲入歲收事務分掌者）　票本　歲入歲收金額主任分　票下拂箱　日　月　年　木　空　和　昭　煙　草

決議				人受買		金額	價單	數量
經常部				印	氏名	圓		
科目	款	入收雜		領受				
	項	代下拂物有官						
	目	代下拂物有官						
販賣所長								
審查								
係								
現品出拂ヲ命ズル物品		歲入徵收簿登記	昭和　年　月　日					
現金出納簿登記		擔任者	印					
現品出納簿登記		擔任者	昭和　年　月　日					
販賣所		出張所	本月累計	圓				合計
局支賣專								

第七款　物品檢查手續

物品ノ檢查ハ物品會計規則第十條ノ二、第十二條ノ二、第十三條及本府會計事務章程第二百三十八條乃至第二百四十一條ニ依リ執行スルモノトス今其ノ概要ヲ述ブレバ各廳ノ長ハ三年毎ニ檢查官吏ヲ命ジテ物品會計官吏ノ保管スル物品全部ニ對シ出納ノ實況及帳簿ト現品トノ對照檢查ヲ爲サシム若總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ隨時檢查ヲ命ズルコトアリ而シテ右檢查ヲ了シタルトキハ檢查官吏ヲシテ一定ノ檢查調書ヲ作成セシメ之ヲ本府ニ提出セシムルモノトス尙物品會計官吏ハ毎年三月又ハ特ニ必要ト認メタルトキ其ノ所管物品取扱主任及專用者ノ物品ニ對シ帳簿ト現品トノ對照檢查ヲ爲スモノトス

物品會計規則及本府會計事務章程中物品ノ檢查ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

物品會計規則中拔萃（明治二十二年六月　其ノ後改正セラル　勅令第八四號　昭和十年三月末日現在）

第十條ノ二　各省大臣ハ檢查ノ官吏ヲ命ジ四年以內ヲ以テ一期トシ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ保管スル物品ノ全部ヲ精細ニ檢查セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ但シ廳費ニ屬スル物品ハ各省大臣適宜ニ檢查ノ方法ヲ設クヘシ

第十二條ノ二　各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ檢查ノ官吏ヲ命ジテ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ帳簿物品ヲ檢查セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條　第十條ノ二、第十一條、第十二條及前條ノ調書ニハ檢查官吏及檢查ヲ受ケタル物品會計官吏又ハ物品出納員若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月　本府訓令第四二號　其ノ後屢次改正セラル　昭和十年三月末日現在）

第二百三十八條　各廳ノ長（本府ニ在リテハ總務課長、會計課長）ハ三年毎ニ檢查官吏ヲ命シ物品會計官吏ノ保管スル物品全部ノ檢查ヲ行フヘシ

朝鮮總督ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス檢查ヲ命スルコトアルヘシ

第二百三十九條　前條ニ依リ檢查ヲ行ヒタル場合ニ於テハ第六十三號書式ノ檢查調書ヲ作リ本府ニ提出スヘシ

第二百四十條　物品會計官吏ハ毎年三月及特ニ必要ト認メタルトキハ其ノ所管物品取扱主任及專用者ノ物品ノ檢查ヲ爲スヘシ

物品會計官吏前項ノ檢查ヲ爲シタルトキハ第六十三號書式ニ準シタル調書ヲ作リ之ヲ其ノ長ニ報告スヘシ

第二百四十一條　物品取扱主任ハ毎年二回物品ノ狀況使用ノ適否現在數ヲ檢查シ物品會計官吏ニ報告スヘシ

第六十三號書式

物品檢查調書（年　月　日提出）

何廳物品會計官吏ノ物品出納簿及其ノ現況ヲ檢查シ帳簿高ト現在品ト符合ヲ認ム

年　月　日

檢查官吏　官　氏　名印

立會官吏　官　氏　名印

記載例

檢查上不合規ノ點又ハ事實ニ適合セサル點ヲ發見シタルトキハ其ノ顚末ヲ記載スヘシ

局會計事務取扱規程第百七十二條乃至第百八十二條ニ物品ノ檢查方法、時期及檢查ノ結果ノ報告方等ニ關シ規定シアリ該規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

局會計事務取扱規程中拔萃（大正十年十月局訓令第一八號改正大正十一年三月局訓令第六號）

第百七十二條　本府會計事務章程第二百三十八條ニ依リ行フ物品全部ノ檢查ハ大正九年四月一日ヨリ起算シ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　物品出納簿ト補助簿及其ノ他關係簿書トノ對照

二　物品ノ現在高ト物品出納簿及其ノ他ノ關係簿書トノ對照但シ回送中ニ係ルモノハ關係書類ニ依リ調查スヘシ

前項ノ檢查ハ物品出納計算書ノ下檢查ノ際同時ニ之ヲ行フコトヲ得

第百七十三條　物品ノ類別ニ依リ前條ノ外左ノ各號ニ依ルヘシ

一　第一類乃至第三類（備品）ニシテ番號ヲ附シタルモノハ關係簿書ト番號トノ對照

二　第四類（葉煙草）ハ在庫品ノ內可成各種類ニ亘リ適宜秤量シ各表示量目トノ對照

三　第五類（人蔘）及第七類（阿片）ハ在庫品ノ內ヲ適宜秤量シ其ノ表示量目トノ對照但シ此ノ場合ニ於テ容器アルモノハ容器共之ヲ秤量シ別ニ容器ノ量目ヲ調查シテ其ノ實量目ヲ推定スルコトヲ得

調運裝置濟品ハ裝置ニ異狀ノ有無

四　第六類（鹽）ノ在庫數量ハ容積ヲ以テ其ノ量目ヲ推量シ包裝鹽ハ在庫ノ內適宜秤量シ其ノ包裝量目トノ對照

容器詰ノモノハ裝置ニ異狀ノ有無

五　第八類（製造煙草）ハ裝置ニ異狀ノ有無

第百七十四條　物品會計官吏本府會計事務章程第二百四十條ニ依リ毎年三月及其ノ他ノ時期ニ於テ一回以上其ノ所屬物品取扱主任及專用者ノ物品ノ檢查ヲ爲スヘシ

特種物品取扱主任保管ノ物品ニ對シテハ前項ノ檢查ヲ各支局及各所物品會計官吏ニ委託スルコトヲ得

第百八十條　監督檢查ノ結果異狀ヲ認メタルトキハ當該課所長ハ直ニ其ノ事實ヲ所屬支局長ニ報告スヘシ

事態ノ重大ナルモノニ關シテハ本局長ニ報告シ且狀ヲ具シテ指揮ヲ請フヘシ

第百八十一條　各課所長ハ監督檢查ノ成績及之ニ關スル必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第百八十二條　各局ハ本府會計事務章程第二百五十一條ノ規定ニ準シ檢查又ハ監督檢查ノ日誌ヲ備ヘ各種ノ檢查濟否原簿ヲ備フヘシ

會計檢查院法第十六條ニ依リ檢查委託ヲ受ケタル物品ノ計算證明及檢查ノ執行方ニ關シ大正十一年七月專庶第四三六四號ヲ以テ各支局長出張所長ニ左ノ如ク通牒セリ

物品出納計算證明ニ關スル件（大正十一年七月二十五日專庶第四三六四號支局長及出張所長宛局長）

會計檢查院法第十六條ニ依リ檢查委託ヲ受ケタル物品ノ出納計算證明ニシテ會計檢查院規則第十八條ノ二ニ依リ帳簿ヲ以テ證明セシムル事ニ決定候條貴廳物品會計官吏取扱ニ係ル十年度分出納ニ關シ左記ニ依リ貴官ニ於テ特ニ檢查官吏ヲ命シ檢查ヲ執行シ檢查報告書ヲ作リ八月十日迄ニ提出相成度及通牒候也

道ヲ專賣物品ニ就テハ檢査委託無之ニ付計算證明規程（新規程第六十四條ニ依リ計算書ヲ作製シ第六十七條ノ證憑書ヲ添附シ八月二十日迄ニ提出相成度申添候

記

一　既ニ計算書提出濟ノ向ト雖モ本件通牒ニ依リ取扱ヲ爲スコト

二　物品出納簿ト各受入拂出證憑書ト對査スルコト

三　物品ノ出納ニ就キ不當又ハ法規ニ戻背ノ點ナキヤ否ヤヲ精査スルコト

四　物品出納簿ノ記帳方及證憑書ノ編纂及保存方適當ナリヤ否ヤヲ精査スルコト

五　現品ノ保管方適當ナリヤ否ヤヲ精査スルコト

六　檢査報告書樣式

年　月　日

專賣局長宛

物品出納檢査報告書

何廳物品會計官吏官氏名ニ對シ大正十年度自年月日至年月日取扱ニ係ル物品出納計算ニ就キ物品出納簿及證憑書ノ檢査ヲ執行候處左記ノ通ニ有之候條此段及報告候也

一　物品出納簿ト受入拂出證憑書ト其ノ符合ヲ認ム（符合セサルモノアルトキハ其ノ事實ヲ記スコト）

二　物品出納保管ハ正確ニシテ且總テ適法ノ取扱ト認ム（何々ニシテ適法ナラス）

以　上

何廳長官　氏　名

七　左記法規ノ條項ハ直接關係アルニ付參看スルコト

物品會計規則第十五條、第十八條ノ二

會計檢査法院法第十六條

計算證明規程第六十四條乃至六十八條及第四條

會計事務章程第二百四十三條、第二百三十五條、第二百三十六條

八　本局ニ於テハ專賣官ノ檢査報告書ニ基キ會計檢査院ニ檢査ノ成績ヲ報告シ且之ニ依リ責任ヲ解除スヘキ次第ナルニ付本件檢査ハ嚴格ニ之ヲ執行スルコト

（參照）

會計檢査院法中拔萃

第十六條　會計檢査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ檢査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ檢査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計檢査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計檢査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ檢査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第三項團體及公立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

物品會計規則中拔萃

第十八條ノ二　會計檢査院法第十六條ニ依リ委託檢査ニ附シタル物品ニ對シテハ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明セシメ第十五條ノ計算書ヲ省略スルコトヲ得

會計檢査院法第十六條ニ依リ檢査ノ委託ヲ受ケタル物品ノ檢査ハ右通牒ニ依リ執行シ來リタルガ該通牒中改正ヲ要スル事項アルヲ以テ昭和二年十月專庶第六五四號ヲ以テ之ヲ改正シ各支局長及出張所長ニ左ノ如ク通牒セリ

物品出納計算證明ニ關スル件（昭和二年十月十三日專庶第六五四號　支局長宛　庶務課長）

本府會計事務章程第二百四十三條ニ依リ專賣局長ニ檢査委託ニ係ル物品ノ出納計算證明竝ニ之カ檢査ニ關シテハ大正十一年七月專庶第四三六四號通牒ノ次第モ有之候處今般左記ノ通取扱方決定候條御承知相成度本件檢査ハ出納官吏ノ免責又ハ有責判定ノ資料タルヘキモノニ付嚴正ニ執行相成度候也

記

一　物品出納官吏朝鮮總督府及所屬官署會計事務章程第二百四十三條ニ依リ專賣局長ニ檢査委託ニ係ル物品ニ對シテハ物品出納簿ヲ以テ證明スヘシ

二　專賣支局長ハ專賣支局及其ノ派出所、專賣局又ハ專賣支局ノ出張所及其ノ派出所ニ於ケル前項ノ物品出納計算ノ檢査ヲ執行スヘシ

三　檢査ハ當該出納官吏ノ帳簿證憑書並ニ現物ニ就キ之ヲ行ヒ左記事項ヲ精査スヘシ

イ　物品出納簿ノ記帳ハ其ノ證憑證憑書並ニ現在高ト符合スルヤ否ヤ

ロ　物品ノ出納ハ適法又ハ不當ト認ムルモノナキヤ否ヤ

ハ　現品ノ保管ハ適當ナリヤ否ヤ

ニ　物品出納簿ニ違式又ハ誤謬ナキヤ否ヤ

ホ　證憑書ノ編纂並ニ保存ハ適當ナリヤ否ヤ

四　支局長及出張所長檢査ヲ執行シタルトキハ左記樣式ノ檢査報告書ヲ作リ年度經過後二月以內ニ本局ニ提出スヘシ

五　檢査報告書樣式

年　月　日

專賣局長　宛

何廳長官　氏名

物品出納檢査報告書

何廳物品會計官吏官氏名ニ對シ昭和何年度（自何年何月何日至何年何月何日）取扱ニ係ル物品出納計算ニ就キ物品出納簿證憑書並ニ現品ノ檢査ヲ執行候處左記ノ通ニ有之候條及報告候也

記

一　物品ノ出納ハ總テ其ノ證憑書ニ符合シ現在高ハ現存ス（不符合又ハ現在高不足ノ事實アルトキハ其ノ事實ヲ記載スルモノトス）

二　物品ノ出納保管ハ總テ正確ニシテ違法又ハ不當ト認メタルモノナシ（違法又ハ不適當ト認メタルモノハ何件其ノ要領何々）

六　第四項ノ期限ニ至ルモ檢査完了セサルモノアルトキハ其ノ事由及完結セシムヘキ期限ヲ定メ本局ニ報告スヘシ

七　檢査ヲ執行シタルトキハ檢査官吏當該物品出納簿ノ末尾ニ檢査濟ノ旨及其ノ年月日ヲ記入シ署名捺印スヘシ

會計檢査院法第十六條ニ依リ檢査ノ委託ヲ受ケタル物品ノ檢査ハ前揭ノ通牒ニ依リ執行シ來リタル所其ノ後煙草販賣制度ノ改正ニ依リ新ニ販賣所ヲ設置セラレ又從來一定ノ期限ニ檢査完了セサルモノニ對スル規定ヲ缺キ居ルガ故ニ之ヲ改正スルノ必要生ジタルヲ以テ昭和七年八月專賣第四九〇號ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

物品出納計算ニ關スル件（昭和七年八月十三日專賣第四九〇號　支局長、直轄出張所長宛　專賣局庶務課長）

本府會計事務章程第二百四十三條ニ依リ專賣局長ニ檢査委託ニ係ル物品ノ出納計算證明並之カ檢査ニ關シテハ爾今左記ノ通取扱方決定アリタルニ付御了知相成タシ

追テ昭和二年十月專庶第六五四號依命通牒首題ノ件ハ本文ニ依リ消滅シタル義ト御了知アリタシ爲念

記

一　物品會計官吏朝鮮總督府及所屬官署會計事務章程第二百四十三條ニ依リ專賣局長ニ檢査委託ニ係ル物品ノ證明ハ物品會計規則第十八條ノ二ノ規定ニ依リ物品出納簿ヲ以テスヘシ

二　專賣支局長及出張所長ハ其ノ廳及所屬ノ派出所又ハ販賣所ニ於ケル前項ノ物品出納計算ノ檢査ヲ執行スヘシ

三　檢査ハ當該官吏ノ帳簿證憑書及現品ニ就キ之ヲ行ヒ左記事項ヲ精査スヘシ

イ　物品出納簿ノ記帳ハ其ノ證憑書並現品ト對照シ符合スルヤ否ヤ

ロ　物品ノ出納ハ適法又ハ不當ト認ムルモノナキヤ否

ハ　現品ノ保管ハ適當ナリヤ否

ニ　物品出納簿ニ違式又ハ誤謬ナキヤ否

ホ　證憑書ノ編纂竝保存ハ適當ナリヤ否

四　檢査ヲ執行シタルトキハ檢査官吏當該物品出納簿ノ末尾ニ檢査濟ノ旨及其ノ年月日ヲ記入シ署名捺印スベシ

五　支局長及出張所長ハ別記樣式ノ檢査報告書ヲ作リ年度經過後二月以内ニ本局ニ提出スベシ

六　前項ノ期限ニ至ルモ檢査完了セザルモノアルトキハ其ノ事由及完結セシムベキ期限ヲ定メ本局ニ報告シ其ノ結了ニ從ヒ檢査報告書ヲ提出スベシ

七　別記樣式

年　月　日

專賣局長宛

何廳長官氏名

何年度物品出納檢査報告書

右官吏ニ對シ其ノ管理期間中取扱ニ係ル物品出納計算ニ就キ物品出納簿、證憑書及現品ノ檢査ヲ執行シタル處左記ノ通ニ付報告ス

記

一　物品ノ出納ハ總テ其ノ證憑書ニ符合シ現品ハ現在高ノ通現存ス（又ハ符合セザルモノ若ハ現品不足セルモノ何件其要領別紙ノ如シ）

二　物品ノ出納保管ハ總テ正確ニシテ違法又ハ不當ト認メタルモノナシ（又ハ違法若ハ不當ト認メタルモノ何件其ノ要領別紙ノ如シ）

管理期間		認	名	證明者職官氏名

第四章　國庫金出納機關及證明

第一節　日本銀行

新會計法第五條第一項ヲ以テ政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシムル旨規定シ從來ノ金庫制度ハ大正十一年四月ヨリ預金制度ニ改正セラレタリ

金庫制度時代ニ於ケル金庫ハ國庫金及國ノ有價證券ノ保管竝出納ヲ掌ル國家ノ機關ニシテ專賣制度ノ施行ニ付テ其ノ收入スル處支出スル處皆金庫ヲ經由セザルナシ而シテ收入ニ付テハ歲入徵收官ノ命令告知ニ依ル納付者ノ納付及出納官吏ノ拂込ニ依リ納入シ支出ニ付テハ仕拂命令官ノ仕拂命令書ニ依リ債權者又ハ出納官吏ニ拂渡ヲ爲シタルモノナリ

從來ノ金庫制度ハ初揭ノ如ク預金制度ニ改正セラレタルガ元來政府ノ財政ハ其ノ收支スル所ノ金額頗ル多大ナルガ爲之ガ運用如何ハ一般金融界ニ影響ヲ及スコト極メテ大ナルモノアリ然ルニ從來ノ金庫制度ニテハ兩者ノ調和ヲ圖ルコト困難ナルガ故ニ兩者ノ連絡調和上遺憾ナカラシメンガ爲之ヲ預金制度ニ改正セラレタルモノナリ

金庫制度ハ煙草專賣施行後僅ニ九箇月ニシテ廢止セラレタルヲ以テ金庫制度時代ノ事項ハ之ガ記述ヲ省略シ預金制度ト爲リタル以降ノモノニ付之ヲ記述スルコトトセリ

尙同條第二項ヲ以テ右規定ニ依リ日本銀行ニ於テ受入タル國庫金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ預金トスル旨規定セラレタリ之國庫金預金制度ノ根本法規ナリ而シテ從來金庫ニ於テ取扱タル事務ハ單ニ國庫金ノ出納ノミニ止ラズ其ノ他ノ諸般ノ財政的事務ヲモ行ハシメタルガ故ニ金庫ヲ廢止スルト共ニ此等ノ事務ノ所屬ヲ定ムルノ必要アリ是ニ於テ新會計法第四十條ヲ以テ政府ハ其ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱方ヲ日本銀行ニ命ズルコトヲ得ベキ旨ヲ定ムルト同時ニ從來金庫ヲシテ取扱ハシメ來リタル供託事務ハ新ニ司法大臣監督ノ下ニ供託局ヲ置キ之ニ掌理セシムルコトトシ供託局所在ノ地ニ日本銀行（支店代理店ヲ含ム以下同ジ）ノ存在スルモノハ供託物保管ノ完全ヲ期スル爲日本銀行ニ其ノ供託物ヲ提出セシメ保管セシムルコトトシ又政府ニ於テ保管スル公有金及私有金ハ從來保管物取扱規程等ニ依リ取扱タルヲ大正十一年大藏省令第五號ヲ以テ保管金取扱規程ヲ定メ之ニ依リ取扱フコトトナリ其ノ結果該現金ハ大藏省預金部ノ預金ニ預入ルコトトナリ右預金ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルコトトセラレタリ

第一款　國庫金ノ出納

日本銀行ニ於テ取扱フベキ會計的事務ノ主要ナルモノハ國庫金ノ出納ナリ前述ノ如ク日本銀行ハ國庫金出納ノ事務ヲ取扱フベク又其ノ受入タル國庫金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ預金トスルモノナルヲ以テ之ヲ政府ヨリ見レバ日本銀行ヲシテ國庫金ノ出納ヲ取扱ハシムルモノナルモ之ヲ日本銀行ノ立場ヨリ見レバ政府預金ノ出納ニ屬シ日本銀行ハ自己ノ取扱ニ係ル政府預金ニ屬スルノ出納トシテ之ヲ受授スルモノナリ換言スレバ政府ハ日本銀行ヲシテ政府預金ニ屬スル出納トシテ國庫金ノ出納ヲ取扱ハシムルモノナリ

日本銀行ニ於ケル國庫金出納ニ關スル原則ハ會計規則第一章第二節ニ規定シアリ其ノ詳細ハ大正十一年大藏省令第十號日本銀行國庫金取扱規程ヲ以テ之ヲ規定セリ右會計規則ノ規定ニ依レバ日本銀行ニ於テ受入タル國庫金ハ政府ノ預金トシテ大藏大臣ノ定メタル種別ニ從ヒ之ヲ整理スベク之ガ受拂ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ムルモノトシ又政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノニ限リ相當ノ利子ヲ附セシムルモノトセリ

預金制度ノ下ニ於テモ從來ノ金庫制度ニ於ケルガ如ク日本銀行ヲシテ國庫金ノ出納ヲ取扱ハシムルガ故ニ之ガ當然ノ結果トシテ同行ヲシテ歲入金收納ノ事務ヲ取扱ハシムル必要アリ而シテ租稅其ノ他ノ歲入ハ法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非ザレバ之ヲ徵收又ハ收納スルコトヲ得ザルヲ原則トスレドモ右ノ必要アルガ故ニ會計法第十二條第二項但書ヲ以テ其ノ例外トシテ日本銀行ニ於テ歲入ヲ收納スルコトヲ得ルノ途ヲ開カレタリ

稅外諸收入ヲ取扱フ歲入徵收官（歲入徵收事務分掌者ヲ含ム以下同ジ）歲入ヲ調定シタルトキハ適當ノ納期ヲ定メ納人ガ日本銀行所在地ニ在ルトキハ日本銀行ヲ納付ノ場所トシタル納入告知書ヲ發行スルヲ以テ納人ヨリ該告知書ニ現金又ハ證券ヲ添ヘ納付ヲ申出タルトキハ日本銀行ハ右現金又ハ證券ヲ收納シ之ニ對シ領收證ヲ交付スルモノトス又出納官吏（出納員ヲ含ム以下同ジ）歲入金ヲ收納シ其ノ現金ヲ日本銀行ニ拂込マントスルトキハ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ提出スルヲ以テ日本銀行ニ於テ右提出ヲ受ケタ

ルトキハ之ヲ收納シ拂込人ニ領收證ヲ交付シ同時ニ領收濟ノ旨ヲ歲入徵收官ニ報告スルモノトス

支出官經費ノ支出ヲ爲サントスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ振出ス小切手ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式所持人拂トス支出官ガ小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度之ヲ日本銀行ニ通知スルモノトス而シテ日本銀行ニ於ケル現金仕拂方ニ關シテハ會計規則第四章第三節ニ夫々規定シアルモ其ノ概要ヲ述ブレバ日本銀行ニ於テ小切手ノ呈示ヲ受ケタルトキハ其ノ小切手ガ法令ニ違フコトナキカ券面金額ガ支拂豫算各項定額ノ殘高ニ超過スルコトナキカヲ調査シタル後之ガ支拂ヲ爲スモノトス

會計規則ハ第一章第一節第二款ニ掲ゲタルヲ以テ玆ニ之ヲ再錄セズ

第二款　保管金及政府所有又ハ保管有價證券ノ取扱

政府ノ保管ニ係ル現金、政府ノ所有又ハ保管スル有價證券ニ關シテハ明治四十四年勅令第六十三號保管金規則ヲ朝鮮ニ施行スル件、大正十一年大藏省令第五號保管金取扱規程、大正十四年法律第二十五號預金部預金法、大正十一年大藏省令第六號預金部預金取扱規程、同年大藏省令第七號政府所有有價證券取扱規程、同年大藏省令第八號政府保管有價證券取扱規程、同年大藏省令第十號日本銀行國庫金取扱規程、同年大藏省令第十一號日本銀行政府有價證券取扱規程ニ依リ取扱フモノナリ今其ノ取扱ノ概要ヲ述ブレバ左ノ如シ

政府ノ保管ニ係ル現金ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大正十一年大藏省令第五號保管金取扱規程ニ依リ之ガ受拂保管ヲ爲スモノナルガ取扱官廳ハ保管金ヲ預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルルモノナリ而シテ右預入ヲ爲ス取扱官廳ハ其ノ所在地日本銀行ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スモノトス若其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ヲ以テ其ノ預金取扱店ト爲スコトヲ得

保管金ヲ提出スル者ハ保管金提出書ヲ添ヘ現金ヲ取扱官廳ニ提出スルヲ原則トスルモ便宜保管金提出者ハ保管金振込書ヲ添ヘ豫メ現金ヲ取扱官廳ノ預金取扱店タル日本銀行ニ振込ムコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本銀行ハ現金ヲ受領シ預金部預金振込濟通知書ヲ提出者ニ交付スルモノトス

取扱官廳ニ於テ保管金ヲ預金ニ拂込マントスルトキハ所定ノ預金部預金拂込書ニ現金ヲ添ヘ預金取扱店タル日本銀行ニ拂込ムモノナリ日本銀行ニ於テ右拂込ヲ受ケタルトキハ現金ヲ受領シ之ニ對シ預金部預金領收證書ヲ交付スルモノトス

取扱官廳ニ於テ保管金ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者ヨリ之ガ拂渡ノ請求ヲ受ケタルトキハ定期預金ト爲シタルモノニ在リテハ預金部預金拂戻請求書ヲ日本銀行ニ提出シ日本銀行ニ於テ之ガ提出ヲ受ケタルトキハ領收證ヲ徵シ之ガ現金ヲ拂戻スモノトス又其ノ他ノ預金ニ在リテハ受取人ニ於テ特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ヲ除クノ外現金ノ交付ニ代ヘ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出ス預金取扱店タル日本銀行ニ於テ右小切手ノ提出ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ現金ヲ拂渡スモノトス

各官廳ハ特殊ノ事由アルモノヲ除クノ外大正十一年大藏省令第七號政府所有有價證券取扱規程

ニ依リ政府所有有價證券ヲ其ノ所在地日本銀行ニ寄託シ若其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スルモノトス而シテ各官廳右寄託ヲ爲サントスルトキハ所定ノ政府所有有價證券寄託書ヲ添ヘ有價證券ヲ日本銀行ニ送付ス日本銀行ニ於テ右送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ受領シ政府所有有價證券受託證書ヲ當該官廳ニ交付スルモノトス

各官廳日本銀行ニ寄託セル有價證券ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ所定ノ政府所有有價證券拂渡請求書ヲ日本銀行ニ提出ス日本銀行ニ於テ右請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ有價證券ヲ拂渡スモノトス又各官廳寄託セル有價證券附屬利札ノ交付ヲ受ケントスルトキハ所定ノ政府所有有價證券利札請求書ヲ日本銀行ニ提出ス日本銀行ニ於テ右請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ當該官廳ニ有價證券附屬ノ利札ヲ交付スルモノトス

各官廳ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大正十一年大藏省令第八號政府保管有價證券取扱規程ニ依リ政府保管有價證券ヲ其ノ所在地ノ日本銀行ニ若其ノ地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ之ヲ寄託スルモノトス尤モ取扱官廳ハ保管有價證券ヲ提出スル者ヲシテ豫メ有價證券ヲ其ノ所在地ノ日本銀行ニ若其ノ所在地ニ日本銀行ナキトキハ最寄ノ日本銀行ニ於ケル取扱官廳ノ保管有價證券口座ニ拂込マシムルコトヲ得日本銀行ニ於テ取扱官廳ヨリ政府保管ノ有價證券寄託ノ申込ヲ受ケタルトキハ有價證券ヲ受領シ取扱官廳ニ對シ政府保管有價證券受託證書ヲ交付シ又提出者ヨリ振込ノ申込ヲ受ケタルトキハ有價證券ヲ受領シ提出者ニ對シ政府保管有價證券振込濟通知書ヲ交付スルモノトス

政府保管ノ有價證券ノ拂渡ヲ受クル權利ヲ有スル者其ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ所定ノ拂渡請求書ヲ取扱官廳ニ提出シテ拂渡ノ請求ヲ爲スモノトス取扱官廳ニ於テ右請求ヲ受ケタルトキハ政府保管證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ拂渡ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ請求者ニ交付ス日本銀行ニ於テ右請求者ヨリ該受託證書又ハ振込濟通知書ノ提出ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ有價證券ノ拂渡ヲ爲スモノトス

甲官廳ニ身元保證金トシテ有價證券ヲ提出シタル者乙官廳ニ保管替ヲ請求セントスルトキハ所定ノ保管替請求書ヲ甲官廳ニ提出スルモノトス右請求ヲ受ケタル場合ニ於テ日本銀行ニ寄託シタルモノニシテ保管替ノ理由アリト認メタルトキハ請求書ニ承認ノ旨ヲ記入シ之ヲ乙官廳ニ送付シ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ寄託替ヲ要スル旨ヲ記入シ之ヲ日本銀行ニ送付ス日本銀行ニ於テ之ガ送付ヲ受ケタルトキハ帳簿等ヲ夫々整理シ之ヲ乙官廳ニ送付スルモノトス

政府保管ノ有價證券附屬利札ノ交付ヲ受クル權利ヲ有スル者其ノ支拂期到來シタルモノノ交付ヲ請求セントスルトキハ所定ノ政府保管有價證券利札請求書ヲ日本銀行ニ提出シ日本銀行ニ於テ之ガ提出ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ請求者ニ利札ヲ交付スルモノトス

第三款　供託物ノ取扱

法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及有價證券ハ供託局ニ於テ之ヲ保管スルモノナルモ金錢ニ在

リテハ大藏省預金部預金ニ拂込マシメ有價證券ニ在リテハ日本銀行ニ寄託セシムルヲ保管上安全トスルヲ以テ供託官吏ガ供託ヲ受理スベキモノト認ムルトキハ預金部預金取扱規程又ハ供託有價證券取扱規程ニ從ヒ所定ノ預金部預金拂込書又ハ供託有價證券寄託書ヲ作成シ且供託書ニ供託受理ノ記載ヲ爲シテ之ニ捺印シ拂込書又ハ寄託書ト共ニ之ヲ供託者ニ交付シ供託者ヲシテ供託物ヲ日本銀行ニ納付セシムルモノトス日本銀行ニ於テ之ガ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ受領シ供託書ニ受領ノ旨ヲ記載シ之ヲ提出者ニ交付シ一面供託官吏ニ預金部預金領收證書又ハ供託有價證券受託證書ヲ送付スルモノトス

供託物ノ還付ヲ受ケントスル者ハ所定ノ供託局ニ提出スルモノトス而シテ供託官吏ガ供託金還付ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ供託物ガ現金ノ場合ニ在リテハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ記名式持參人拂ノ小切手ヲ振出シ供託書ト引換ニ請求者ニ之ヲ交付ス日本銀行ニ於テハ右小切手ニ依リ現金ヲ拂渡ズモノトス又供託物ガ有價證券ノ場合ニ在リテハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ請求者ニ交付シ之ヲ日本銀行ニ提出シテ還付ヲ受ケシム日本銀行ニ於テ右請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ有價證券ヲ還付スルモノトス

有價證券ヲ供託シタル者利札ヲ請取ラントスルトキハ所定ノ供託有價證券利札請求書ヲ供託局ニ提出シ供託官吏ガ右請求ヲ理由アリト認ムルトキハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ捺印シテ請求者ニ交付シ之ヲ日本銀行ニ提出シテ受領セシムル日本銀行ニ於テ右請求書ノ提出ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ利札ヲ交付スルモノトス

第二節　遞信官署

國庫ノ出納スル現金ニ付テハ原則トシテ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルモノナルモ納人又ハ償主ガ日本銀行所在地外ニ在ルトキハ之ガ例外ヲ設クルノ必要アリ故ニ是等ノ場合ニ於ケル國庫ノ出納スル現金ノ取扱ヲ各地ニ比較的普及セル遞信官署ヲシテ取扱ハシムルヲ利便トスルガ故ニ大正四年勅令第六號郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ取扱ハシムル件、大正四年大藏省令第一號郵便官署歲入歲出金取扱規程、本府會計事務章程、大正十一年四月本府府令第五十七號遞信官署現金受拂規則ヲ以テ郵便局所ニ於テ國庫ノ出納スル現金ヲ取扱フコトトセラレタリ今之ヲ歲入歲出ニ區分シテ其ノ取扱ノ概要ヲ述ブレバ左ノ如シ

歲入

遞信官署以外ノ官署ノ稅外諸收入ヲ取扱フ歲入徵收官會計規則第三十條ニ依リ歲入ヲ調定スル場合ニ於テ該納人ガ日本銀行（本支店代理店）所在地外ニ在ルトキハ規定ノ範圍內ニ於テ適當ノ納期ヲ定メ本府遞信官署現金受拂規則ニ定ムル書式ニ依リ遞信官署ヲ納付ノ場所ニ指定シタル納入告知書ヲ發行シ又遞信官署以外ノ官署ノ支出官日本銀行所在地外ノ郵便局所ニ歲出金ヲ返納セシメントスルトキハ所定ノ返納告知書ヲ發行シ尙歲入金ヲ納付スル義務アル者直ニ歲入金ヲ郵便局所ニ納付セントスルトキ若ハ收入官吏其ノ收納シタル歲入金ヲ拂込マントスルトキハ所定ノ納付書ニ現金ヲ添ヘ當該郵便局所ニ於テ之ガ提出ヲ受ケタルトキハ之ヲ提出ス而シテ郵便局所ニ於テ之ガ提出ヲ受ケタルトキハ

現金ヲ受領シ之ニ對シ夫々所定ノ領收證書ヲ交付スルモノトス

郵便局所ニ於テ右歲入金又ハ返納金ノ受入ヲ爲シタルトキハ毎日其ノ受入高ヲ精算シ京城貯金管理所ニ報告シ同所出納官吏ハ歲入金ニ付テハ所定ノ振替拂込書、受入金ニ付テハ所定ノ拂込書ヲ添ヘ振替計算ヲ以テ該歲入金又ハ返納金ヲ日本銀行ニ拂込ムモノトス

歲出

遞信官署以外ノ官署ノ支出官日本銀行所在地外ニ在ル債主ニ對シ歲出金ノ支拂ヲ要スルトキハ小切手及所定ノ歲出金繰替拂證票竝同通知書ヲ發行シ小切手及該證票ハ之ヲ日本銀行ニ又該通知書ハ之ヲ債主ニ送付ス日本銀行ニ於テ右小切手及歲出金繰替拂證票ノ送付ヲ受ケタルトキハ支拂ノ手續ヲ爲シタル上該證票ハ其ノ金額記載ノ下部ニ銀行印ヲ押捺シ之ヲ指定郵便局所ニ送付ス又指定郵便局所ニ於テ債主ヨリ歲出金繰替拂通知書ヲ提出シテ拂渡ノ請求ヲ受ケタルトキハ現金ノ拂渡ヲ爲シ該通知書ニ債主ノ受領證印ヲ徵スルモノトス

郵便局所ニ於テ右歲出金ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ毎日其ノ拂渡高ヲ精算シ之ヲ京城貯金管理所ニ報告シ同所出納官吏ハ拂渡濟歲出金繰替拂通知書ニ預託金拂込書ヲ添ヘ之ヲ日本銀行ニ提出シ振替計算ヲ以テ代リ金ヲ受領スルモノトス

日本銀行代理店所在地外ノ郵便局所ニ煙草賣上代金ヲ貨幣法第七條ノ通貨制限以上ニ補助貨ヲ以テ拂込方ノ件ニ關シ遞信局ト交渉ノ結果昭和九年三月專庶第一〇五號ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

日本銀行代理店所在地外ノ郵便局所ニ歲入金拂込方ニ關スル件

（昭和九年三月五日專庶第一〇五號　支局長宛　庶務課長）

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通遞信局長ト照覆シタルニ付右御了知ノ上從來誤解アリタル向ニ對シテハ其ノ他ノ實況ニ應シ此ノ際更メテ適宜協議ヲ遂ゲ實行上遺憾ナキヲ期セラレタシ

（昭和九年二月三日專庶第一〇五號　遞信局長宛　專賣局長）

當局各地方支所出納員ノ收納セル歲入金（主トシテ煙草收納金）ノ拂込ミヲ受ケタル出納官吏カ之ヲ國庫ニ納付ノタメ郵便局所ニ拂込ミヲ爲ス場合地方ノ郵便局所ニ於テハ貨幣法第七條ノ通貨制限規定ヲ引用シ得ルモノトシテ同規定制限額以上ノ受取リヲ拒否セラルル向往々有之趣ニシテ之カ爲メ當該支所ノ出納官吏ハ已ムヲ得ズ附近商店等ニ就キ紙幣ト兩替ノ奔走ヲ爲シ漸ク拂込ミヲ爲シ得ル狀態ナルカ官金ノ取扱ニ對シ如斯措置ヲ爲サザルベカラザルコトハ事業執行上種々ノ支障ヲ來シ弊害アルノミナラズ部外ニ對シ官ノ威信ニモ關スルカ故ニ將來出納官吏ノ拂込金ニ對シテハ郵便局所ニ於テ幣種別ノ額ニ異議ナク收納セラルル樣取扱方貴管下一般ニ御示達相煩度照會ス

（昭和九年二月八日遞監甲第五〇號　專賣局長宛　遞信局長）

煙草賣上代金ノ拂込ニ付テハ昭和六年二月十八日附專事第一三八號ヲ以テ御申越ノ次第モアリ昭和六年二月二十五日附遞監甲第八〇一號ヲ以テ回答シタル通特ニ便宜ヲ計ルコトニ郵便局所ニ通達シ之ヲ實行セシメ居リタルノミナラズ煙草賣捌制度改正後ニ於テハ歲入金ノ拂込ト爲ルヲ以テ處理シ來リタルモノナルカ今回御申越ノ次第モアリ或ハ一部郵便局所ニ於テ誤解シ居ルモノアルヤモ計リ難キニ付各郵便局所ニ對シ相當注意ヲ促スコトニ取計フベキニ付御了知アリタシ尤モ煙草賣捌代金ハ概シテ補助貨多キヲ以テ常ニ多數補助貨ノ拂込ヲ要スル向ニ在リテハ釐メ拂込郵便局所ニ就キ拂込時間ヲ協定シ置キ且補助貨ハ成ルベク其ノ種類別ニ區別シテ適宜ノ金額ニ結束スル等取扱ヲ便ナラシメ以テ相互ニ事務取扱ノ圓滑ヲ計ルヤウ致シタキニ付テハ貴見一應御回報相煩ハシタシ

（昭和九年二月十六日專庶第一〇五號　遞信局長宛　專賣局長）

歲入金ノ拂込方ニ關シ御照會ノ趣了承御來旨ノ通補助貨ヲ其ノ種類別ニ區分シテ適宜ノ金額ニ結束スルコトハ相方取扱上明確ヲ期スルタメ成ルベク貴意ニ副フコトト致シ度キモ出納員ニ於テ出張巡回途中拂込ヲ爲ス場合ノ如キハ其ノ措置ヲ爲シ能ハザルコト有之又拂込時間ヲ協定シ置クコトハ出張實渡巡回途中最寄郵便局所ニ拂込ヲ爲ス場合アルノ外多方面ニ巡回セル數多出納員ノ歸廳時限モ行程其ノ他ノ關係ニ依リ區々ニシテ殊ニ在勤廳所在地ニ郵便局所ノ設ケナキ販賣所ノ如キ從來ノ實績ニ徴スルニ却テ途中ニ於ケル盜難ノ危險ヲ招來スル虞レアル等種々ノ困難ナル事情アリ依テ之等ノ點ニ關シテハ地方ノ實狀ニ應シテ適宜地方支所ヨリ最寄郵便局所ニ打合セ御諒解ヲ求ムルコトト致シ度ニ付右ニ御了知ノ上可然樣御示達相煩シ度御取計濟ノ上ハ其ノ要旨御回報ヲ得度シ

（昭和九年二月二十三日逓監甲第七一號ノ二　專賣局長宛逓信局長）

御申越ニ係ル首題ノ件ニ關シテハ各管理事務分掌郵便局長ニ對シ別紙寫ノ通通牒シ管下各郵便局所ニ通達セシメ置キタルニ付御了知アリタシ

（昭和九年二月二十三日逓監甲第七一號ノ一　專賣局長宛逓信局監理課長）

專賣局出張所又ハ販賣所等ヨリ煙草賣上代金ヲ歲入金トシテ郵便局所ニ拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ貨幣法第七條ノ補助貨制限規定ヲ適用セザル義ナルニ拘ラズ一部郵便局ニ於テハ之ヲ誤解シ右歲入金ノ拂込ニ對シ補助貨ノ受入ヲ制限スルモノアル趣ナルニ付テハ右行違ナキヲ期セシムルト共ニ專賣局出張所又ハ販賣所等ヨリ常ニ多額ノ補助貨拂込アル向ニ對シテハ成ルベク拂込時間及補助貨ノ區分結束方等ニ關シ豫メ協議ヲ遂ゲ以テ相互ノ事務取扱ヲ圓滿ナラシムルノ必要アルト認メラルルニ付各局所ヲシテ相當措置セシメ尙出張實渡巡回途中ノ拂込等ニシテ右ノ方法ニ依リ難キ事情アル向ニ對シテハ適宜處理スルヤウ區內局所ニ通牒方取計ヒアリタシ依命

第三節　出納官吏

廣義ノ出納官吏トハ政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納保管ヲ掌ルガ爲特ニ任命セラレタルモノ全部ヲ云フ故ニ現金前渡ヲ受クル官吏、歲入歲出外現金ヲ取扱フ官吏、收入官吏、物品會計官吏皆之ニ包含セラル出納官吏ハ其ノ管掌ノ現金若ハ物品ニ關シ一切ノ責任ヲ負ヒ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クルモノトス而シテ物品ノ出納ニ關シテハ前章第四節ニ述ベタルヲ以テ玆ニハ現金出納官吏ニ關スル事項ノミニ付述ベントス

出納官吏ノ職分及責任ハ會計法及會計規則ニ於テ規定セラレ其ノ取扱手續ハ大正十一年大藏省令第二號出納官吏事務規程其ノ他本府府令及局訓令等ニ依リテ定マル今之ヲ類別シテ現金出納、任命及報告、身元保證ノ三項ニ分チテ述ベントス

第一款　現金出納

出納官吏ハ各廳ニ於テ取扱フ現金ノ出納ヲ掌理シ之ガ全責任ヲ負フ者ナリ凡ソ租稅其ノ他ノ歲入金ハ當該官吏ノ資格アル者ニ非ザレハ之ヲ收納スルコトヲ得ザルハ會計法第十二條ノ規定スル所タリ又各廳ニ於テ直接現金ノ仕拂ヲ爲シ得ル場合ハ會計法第十七條ニ規定スル所タリ而シテ出納官吏ハ是等ノ規定ニ基キ直接歲入ノ收納ヲ爲シ又ハ歲出ノ支拂ヲ爲ス特ニ命ゼラレタル現金出納機關トス

出納官吏ハ大正十一年大藏省令第二號出納官吏事務規程ニ依リ現金ノ出納ニ關スル事務ヲ處理スルモノナリ

今出納官吏ノ職務ヲ歲入ノ收納、歲出ノ支拂及前途資金ノ受入竝保管ニ分チテ次ニ述ベントス

歲入ノ收納

國ノ收入機關ハ收入官吏、出納員、日本銀行及郵便局所ナリ從テ歲入徵收官ハ如何ナル歲入ト雖右機關ニ對シテ歲入金ノ收納ヲ取扱ハシムルコトヲ得ルモノナリ然レドモ朝鮮ニ於テハ稅外諸收入ニ對シテハ本府會計事務章程第五十條ノ規定ニ依リ原則トシテ日本銀行所在地ノ納人ニ對シテハ同行ヲ又其ノ所在地外ノ納人ニ對シテハ郵便局所ヲ納付場所トシテ納入告知書ヲ發行スルモノトス而シテ歲入金ノ性質ニ依リ收入官吏ニ卽納セシムルヲ便宜ト認ムルモノニ付テハ納入告知書ヲ發行セズシテ口頭告知ヲ以テ收入官吏ニ收納セシムルモノトス又製造煙草賣渡代金ニ對シテハ昭和六年本府府令第八十三號本府專賣官署ノ分任收入官吏及出納員ニ關スル件第二條ヲ以テ煙草販賣所ノ分任收入官吏及出納員ニ於テ之ヲ收納スルコトヲ得尙右ノ外懲罰及沒收金等ノ行政處分ニ對スル通告ニ對シ被處分者ニ於テ卽時履行ノ場合ハ納付人ノ便宜ノ爲收入官吏ニ於テ收納スルモノトス

專賣官署ノ出納員ガ煙草賣捌受拂傳票ヲ以テ其ノ領收シタルトキハ煙草賣渡代金ヲ收納シタルト現金ヲ其ノ都度所屬分任收入官吏ニ拂込ムモノトス是等ノ手續ハ本府專賣官署ノ分任收入官吏及出納員ニ關スル件ニ詳細規定シアリ該府令ヲ揭グレバ左ノ如シ

本府專賣官署分任收入官吏及出納員ニ關スル件（昭和六年七月本府府令第八三號）

第一條　朝鮮總督府專賣局販賣所（以下單ニ販賣所ト稱ス）ニ分任收入官吏及出納員ヲ置キ現金出納保管ニ關スル事務取扱ニ付テハ出納官吏事務規程ニ依ルノ外本令ノ定ムル所ニ依ルベシ

第二條　販賣所ノ煙草賣渡代金ハ分任收入官吏又ハ出納員之ヲ收納スベシ

第三條　分任收入官吏又ハ出納員煙草賣渡代金ヲ收納シタルトキハ第一號樣式ノ煙草賣渡傳票及同領收書ヲ發行シ領收書ハ小賣人ニ交付シ傳票ハ原符トシテ保存スベシ

第四條　出納員ノ領收シタル現金ハ其ノ都度之ヲ所屬分任收入官吏ニ拂込ムベシ但シ出納員遠隔ノ地ニ駐在シテ其ノ都度拂込ヲ爲シ難キトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ拂込ハ第二號樣式ノ煙草賣捌受拂傳票ヲ以テシ其ノ原符ヲ以テ出納員ノ備フベキ現金出納簿ニ代用スルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

式樣號一第

煙草賣渡領收書（傳票）

巡回番號　第　號

昭和　年　月　日　出賣人氏名

種類	名品	賣渡數	賣渡量	日當現在	賣戻實數	賣定量 回數 次渡數	代金	單價
口付刻	鳥一日		包	包	包		圓	錢 2700
	朝日							2160
	風松							1320
	ジーシーシーンウ							3480
	コゴカイダ							2250
	ヒヨジン							2700
	マコーメプール							2700
	牡丹							2250
	白梅							1800
	サツキ							900
	アヤメ							945
	不老煙							720
	長壽煙㉕							576
	同 ⑦							090
	譚煙							135
								045
								090
入品檢								
特定番號	當月代金累計	圓	當日代金計	圓				

方面　町面　氏名

備考　（人賣小各ノ　域區持受ニ員納出各ハ　號番ノ外欄部上　號番賣ト爲スベシ　通追ヲ號番賣ト爲スベシ　チ一筒年度）

本用紙ハ複寫式トシ上ト書收領ヲ他テシト傳票ヲ爲ト

號番頁

人賣小　印認承

（出納員現金出納簿兼用）　（二枚複寫式）

第二號樣式

第「何」號

（傳票自第何號至第何號 何枚分）

煙草賣捌受拂票

本票收納金額ノ通リ拂込ノ爲授受ヲ了ス

昭和何年度　昭和　年　月　日

昭和何年　分任收入官吏煙草販賣所長　氏　名㊞

自何月何日

至何月何日　出納員　職　氏　名㊞

區分 / 品名	受							拂							
	販賣所	荷置場					計	小賣人へ賣渡		返納					計
								數量	金額	荷置場				販賣所	
敷島									圓						
朝日															
松風															
ジージーシー															
コンゴウ															
カイダ															
ヒジヨン															
マコー															
メープル															
牡丹															
水府															
白梅															
サツキ															
アヤメ															
不老煙															
長壽煙㉕															
同⑦															
囍煙㉕															
同⑫															
福煙															
計															

金額	本月計 累	圓	累計	圓	本回收納金何百何拾何圓何拾何錢也		
現品受領	印證	本日計金額內譯	現金	圓	審査	備考	
受（出納員）	納返		證券		㊞		
㊞	㊞						

何專賣支局　何出張所　何販賣所

備考

一　番號ハ各出納員毎ニ一箇年度ヲ通ジタル追番號トス

二　傳票（自第何號至第何號）トアルハ賣渡傳票（小賣人買受帳ノ控）ノ巡回番號ヲ記入ノコト

三　年度ノ下ノ月日ハ販賣所出發及歸著ノ日ヲ記入スベシ

四　「受」ノ部「販賣所」ニハ販賣所ヨリ受取リタル數量ヲ記入スベシ但シ補助人夫ヲシテ特定地點ニ直送セシムルモノハ之ヲ除外スベシ

同上「荷置場」ノ下空欄ニハ製品ヲ受入レタル荷置場名ヲ記入スベシ

又前號但書ニ依リ直送品ヲ受取リタルトキハ便宜本欄ニ「補助人夫」ト記入シ受入整理スベシ

五　小賣人ヘ賣渡ノ部計欄ハ總テ金額ノミ記入ノコト

六　「拂」ノ部「荷置場」ノ下空欄ニハ製品ヲ引渡シタル「荷置場」名ヲ記入スベシ

「荷置場」拂ハ持戻品ノ數量ヲ記入スルモノトス

七　「受」「拂」ノ計ハ一致スベキモノトス

八　數量ハ口付、兩切ハ盒（端數ハ左上方ニ包數ニテ記入）其ノ他ハ包裹數ニ依リ記入スベシ

九　現品受渡證印中受ハ物品出納員分任出納官吏ヨリ現品ヲ受領シタル證印ナリ

同返納ハ分任出納官吏物品出納員ヨリ現品ノ返納ヲ受ケタル證印ナリ

一〇　小計金額內譯ハ金額計ニ對スル現金ト各證券合計金額トヲ分配ノコト

一一　審査ハ本票中ノ計數ニ誤謬ノ有無ヲ檢査ノ上檢査者認印ノコト

一二　本票ハ出賣方面別日順ニ綴込ミ保存スベシ

收入官吏ニ於テ納人ヨリ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ガ現金ヲ收納シ納人ニ對シ領收證書ヲ交付シ一方之ヲ當該歲入徵收官ニ報告スルモノトス收入官吏納人ヨリ納稅告知書、納入告知書又ハ納付書ヲ添附セズシテ現金ノ納付ヲ受ケタルトキ又

ハ歲入徵收官ノ口頭告知ニ依リ現金ノ納付ヲ受ケタルトキモ亦右同樣取扱フモノトス

日本銀行所在地ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ所定ノ現金拂込書ヲ添ヘ現金領收ノ日又ハ其ノ翌日日本銀行ニ拂込ムモノトス尤モ其ノ領收シタル金額百圓未滿ナルトキハ每十日分ヲ取纏拂込ムコトヲ得ルモノトス

日本銀行所在地外ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタル場合ニ其ノ在勤地ニ郵便局所アルトキハ金額ノ多寡ニ應ジ其ノ翌日乃至十五日內（領收金高百圓未滿ナルトキハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シ十五日內、領收金高百圓以上二達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シ五日內、領收金高千圓以上ニ達シタルトキハ其ノ翌日限）ニ大正十一年本府府令第五十七號本府遞信官署現金受拂規則第八號樣式ノ納付書ヲ添ヘ當該郵便局所ニ拂込ムモノトス日本銀行又ハ郵便局所ナキ地ニ在勤スル收入官吏現金ヲ領收シ之ヲ拂込マントスル場合ハ內地ト交通狀態等ヲ異ニスル朝鮮ニ於テハ內地ノ例ニ依ルコト事實困難ナル場合存スルヲ以テ出納官吏事務規程第二十一條ニ依リ特ニ大藏大臣ト協議ヲ遂ゲ領收金高百圓未滿ナルトキハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シ三十日內、領收金高百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ十日內、領收金高五百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ翌日最寄ノ郵便局所ニ拂込ムコトニ取扱ハシムルコトトシ大正十二年七月官通牒第七四號ヲ以テ政務總監ヨリ各歲入徵收官及出納官吏ニ左ノ如ク通牒セラレタリ

郵便局所ノ設ナキ地ニ在勤スル收入官吏ノ現金拂込期限ニ關スル件

（大正十二年七月二十六日官通第七四號歲入徵收官出納官吏宛　政務總監）

郵便局所ノ設ナキ地ニ在勤スル收入官吏ノ現金拂込ニ關シテハ大藏大臣ト協議ノ上左記ノ通リ相定メ候條御了知相成度此段及通牒候也

記

一　郵便局所ノ設ナキ地ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ左記期限內ニ遞信官署現金受拂規則所定ノ納付書ヲ添ヘ最寄ノ郵便局所ニ拂込ムヘシ但シ第二號乃至第四號ノ場合ニ於テハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ三十日ヲ超ユルコトヲ得ス

一　領收金高百圓未滿ナルトキハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ三十日內

二　領收金高百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ二十日內

三　領收金高五百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ十日內

四　領收金高千圓以上ニ達シタルトキハ其ノ翌日限

二　前項ノ規定ハ郵便局所ヘノ距離カ三里未滿ナルトキハ之ヲ適用セス

三　甲年度所屬歲入金ヲ乙年度ニ於テ拂込ヲ爲ス場合ハ第一項ノ規定ニ拘ハラス五月十五日限トス

收入官吏ハ每月所定ノ現金拂込仕譯書ヲ調製シ翌月五日迄ニ之ヲ歲入徵收官ニ送付スルモノトス分任收入官吏ノ調製シタル現金拂込仕譯書ハ主任收入官吏ニ於テ之ヲ取纏メ歲入徵收官ニ送付スルモノトス尤モ歲入徵收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ分任收入官吏ヲシテ直接之ヲ送付セシムルコトヲ得ルモノトス

歲入歲出外現金出納官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ領收證書ヲ交付シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ

報告シ其ノ領收シタル現金ヲ預金部預金ニ拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ保管金取扱規程及預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ從ヒ所定ノ預金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込其ノ領收證ノ交付ヲ受クルモノトス又其ノ保管ニ係ル現金ヲ拂渡シタルトキハ受取人ヨリ領收證書ヲ徵シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スルモノトス

預金部預金ニ拂込タル場合ニ於ケル保管金ノ還付ニ關シテハ前節第二款ニ述ベタルヲ以テ玆ニハ之ヲ省略セリ

歲出ノ支拂

歲出ノ支拂ハ原則トシテ支出官ニ於テ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ振出スモノナルガ出張所ノ俸給ヲ除ク以外ノ經費及收納ノ際收納取扱所ニ於テ支拂フ葉煙草賠償金及包裝費人夫賃等ハ現場ニ於テ卽時支拂ヲ要スルヲ以テ是等ノ經費ニ付テハ會計規則第五十七條第六號及第六十一條ニ依リ其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡シ當該官吏ヲシテ其ノ支拂ヲ爲サシメ來リタルガ該規定ノ制限ヲ超過シテ支拂ヲ要スル場合アルヲ以テ豫メ會計檢查官ト協定シ現金支拂ヲ爲シ來リタリ

右ノ如ク俸給ヲ除クノ外一切ノ經費ヲ其ノ所屬出納官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムルコトニ取扱來リタルガ爲常ニ多額ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡シツツアリタルモ右ハ止ムヲ得ザルモノヲ除クノ外ハ會計規則第五十七條規定ノ精神ニ反スルノミナラズ最近不正事件ヲ惹起シタル事例モアリ將來從前通リ無制限ニ之ヲ認容スルコトハ妥當ナラズト思惟スルガ故ニ左記ノ經費ニ付テハ昭和六年度以降支出官ニ於テ支拂フコトニ取扱ハルベキ旨昭和五年十二月專庶第八一五號ヲ以テ各支局長ニ通牒セリ

一　囑託員及雇員給料竝其ノ賞與
二　葉煙草及鹽ノ包裝用材料代
三　鹽購買代
四　專賣品（鹽共）回送費
五　廠舍、倉庫及其ノ敷地借料
六　運搬費交付金
七　營繕ニ屬スル工事費

前述ノ如ク特ニ會計檢查官ト協定シテ會計規則第五十七條第六號ノ制限ヲ超過シテ出納官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシメ來リタルモ如斯取扱ハ一時的權宜ノ措置ニシテ永ク之ヲ存置シ得ザルガ故ニ第一章第一節第二款ニ述ブルガ如ク昭和六年七月勅令第百九十七號ヲ以テ本府特別會計規則ニ特ニ左ノ一條ヲ追加シ假令運輸交通ノ不便ナラザル地方ニ在リテモ現場ニ於テ卽時支拂ヲ要スル葉煙草賠償費、荷造費、人夫賃等ノ諸費及支所ノ經費ニ付テハ出納官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲スヲ得ルノ途ヲ開カレタリ

本府特別會計規則中改正（昭和六年七月勅令第一九七號）

朝鮮總督府特別會計規則中左ノ通改正ス

第十條ノ二　專賣官署ノ支出官ハ煙草又ハ水蔘ノ賠償及購買費、荷造費、職工人夫ニ給スル諸費竝支所ノ經費ニ限リ所屬ノ出納官吏ニ資金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

前渡資金ノ受入竝保管

前渡資金中ノ葉煙草賠償金ノ如キ巨額ニ上ルモノハ殖產銀行ト協議シ豫メ各收納場別收納回數每ノ所要金額ヲ通知シ置キ收納開始ノ際殖產銀行ヲシテ現金ヲ現地ニ回送セシメ主任收入官吏ヨリ分任收入官吏ニ殖產銀行ニ對スル領收證書又ハ委任狀ヲ交付シ分任收入官吏ヲシテ現地ニ於テ現金ヲ受領セシム葉煙草賠償金以外ノ常時要スル事務費及雜費ノ如キハ可成必要ニ應ジ分割シテ之ヲ交付セシムルコトニ取扱來リタリ

其ノ後次款ニ述ブルガ如ク分任資金前渡官吏設置ノ件通牒シタルヲ以テ之ガ事務處理方ニ關シ昭和四年十月專庶第七二九號ヲ以テ各支局長ニ左ノ如ク通牒セリ

分任資金前渡官吏事務處理方ノ件（昭和四年十月專庶第七二九號支局長宛　庶務課長）

分任資金前渡官吏ノ現金出納保管ニ關スル事務取扱方ハ出納官吏事務規程其ノ他成規ニ據ルノ外尙ホ左記事項御注意ノ上遺漏ナキ樣御取扱相成度

記

一　主任官吏分任官吏ニ資金ヲ交付セムトスルトキハ本府令計事務章程第十八號書式ノ甲ニ準シタル決議書ヲ作成スヘシ

資金ノ交付ヲ要スル事由ハ之ヲ明ニシ前項ノ決議書ニ添附シ置クヘシ

二　前渡資金ハ必要ニ應シ成ルヘク分割シテ之ヲ交付スヘシ

三　資金ヲ交付シタルトキハ領收證書ヲ徵スヘシ

四　葉煙草賠償金ニシテ協定ニ依リ朝鮮殖產銀行ヲシテ現地ニ回送セシムル資金ニ付テハ主任官吏ハ分任官吏ニ朝鮮殖產銀行ニ對スル領收證書又ハ領收ニ關スル委任狀ヲ交付シ分任官吏現金領收ノ日ヲ以テ現金出納簿ニ拂ノ登記ヲナスヘシ

五　分任官吏支拂ヲ爲ス場合ハ主任官吏ノ例ニ倣ヒ取扱フヘシ但シ出張先ニ於テ支拂ヲ爲ス場合ニ於テ監督ノ責任アル官吏同行シタルトキハ其ノ決定ヲ受クヘシ

六　分任官吏ノ備フル現金出納簿ハ簡單ナラシメ經費內譯簿ハ特ニ必要アル場合ノ外之ヲ省略スヘシ

七　主任官吏資金ヲ分任官吏ニ交付シタルトキハ現金出納簿拂ニ登記シ資金ヲ回收シタルトキハ同拂ニ朱書登記スルモノトス

八　分任官吏ヲ帳簿金櫃ノ檢查ハ主任官吏ノ例ニ依ルヘシ

九　主任官吏證明ノ爲其ノ分任官吏ノ取扱ニ係ル證憑書ヲ提出スルトキハ各分任官吏ノ分ヲ取纏メ一冊ニ編纂シ各分任官吏每界紙ヲ以テ區分スヘシ

（表紙ノ記載例）

昭和何年度昭和何年何月分

支拂證憑書

何冊ノ內第何號紙數何枚（主任官吏ノ證憑書ト通シ號數ヲ記入ス）

備考　分任官二名以上ナルトキハ表紙ノ裏面ニ左ノ樣式ノ金額區分表ヲ掲クヘシ

金額區分表

科目	金額	分任官官氏名
專賣局（款）圓		
事業費（項）		

煙草事業費(目)			
內		何官何某扱	
		何官何某扱	
何々(目)			
內		何官何某扱	
		何官何某扱	

(界紙ノ記載例)

經常部專賣局(款)　事業費(項)

金何程　煙草事業費(目)

金何程　何々(目)

分任官何官何某扱

昭和六年七月本府特別會計規則ヲ改正セラレタル結果會計規則第五十七條ニ定ムル制限外ノ資金前渡ヲ爲シ得ル根據ヲ定メラレタルヲ以テ從來ノ實蹟ニ徵シ支拂遲延ノ爲將來請負契約金額ニ相當ノ影響ヲ來シ不利ヲ生ズル虞アルモノ及販賣制度ノ改正ニ伴ヒ處理上著シク不便ヲ來シ事務停滯ノ嫌アルモノニ對シテハ葉煙草賠償金ヲ除クノ外日本銀行又ハ郵便局所ノ所在地ニ在リテハ一箇月分其ノ他ノ地ニ在リテハ二箇月分ノ支拂所要額以內ニ於テ前渡シ差支ナク又大口支拂ニ付テハ可成其ノ都度前渡スルコトニ取扱フベキ旨昭和六年八月專庶第五一五號ヲ以テ各支局長ニ通牒セリ

前渡資金ハ一般的ニハ常時小口ニ現金ノ支拂ヲ要スルモノヲ除クノ外日本銀行所在地ニ在勤スル出納官吏ハ其ノ地ノ日本銀行ニ預託シテ保管スルモノニシテ日本銀行ノ設ケナキ地ニ在勤スル出納官吏ハ郵便局所又ハ確實ナル銀行若ハ金融組合ニ預入レテ保管スルモノトス

出納員ガ其ノ保管金ヲ亡失シタル場合ノ事務處理方ノ件ニ關シ昭和七年四月專庶第二七六號ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

出納員保管金ヲ亡失シタル場合ノ事務處理方ノ件(昭和七年四月二十五日專庶第二七六號　支局長宛　庶務課長)

出納員保管金ヲ盜難其ノ他ノ事由ニ依リ亡失シタル場合ハ本府會計事務章程第十六條ノ三ニ準ジ速ニ報告ノ上帳簿及書類等左記ニ依リ處理相成タシ

追テ報告前職員服務規程第五條ニ依リ責任者又ハ第三者ニ於テ辨償補塡ヲ爲シ拂込ヲ了シタル場合ハ本文ノ處理ヲ要セザル義ニ付爲念申添フ

記

一　出納員ハ事故當日ノ賣捌受拂票ニ現金ヲ盜難其ノ他ニ依リ亡失シ依テ拂込不能ノ旨ヲ表示シタル現金亡失報告書ヲ添附シ分任官吏ニ提出ノコト

二　分任收入官吏ガ右賣捌受拂票及現金亡失報告書ニ基キ作成スル當日ノ賣渡日計表ニハ左ノ通表示ノコト

(一)　當日代金合計欄及本月累計欄ノ金額ハ上部ニ其ノ總額ヲ、下部ニ朱書內書ニテ出納員ノ拂込不能額ヲ記載ノコト

爾後ノ累計記載ニ付亦同シ

(二)　摘要欄ニハ「合計代金中朱書ノ金額ハ出納員何某盜難亡失(又ハ何々)ニ依リ拂込不能」ト記載ノコト

三　亡失金ノ未拂込ニ對スル補塡(缺損補塡及拂償等)ヲ受ケタルトキハ賣渡日計表ノ當月ノ累計欄ニハ朱書ノ記載ヲ止メ摘要欄ニ「代金合計額ノ外ニ出納員何某ノ亡失金何圓何錢ヲ補塡金トシテ別ニ領收濟」ト記載ノコト

四　出納員ノ作成スル賣捌受拂票ハ前二項ニ準ジ處理ノコト

五　分任收入官吏ノ現金出納簿ニハ實際出納員ヨリ拂込ヲ受ケタル額ノミヲ記入シ缺損補塡ヲ受ケタル際同金額ヲ別記受入ノコト

六　歲入徵收官又ハ歲入事務分掌者ハ當日ノ賣渡日計表ノ賣渡代金合計額(卽チ亡失額ヲ含ミタルモノ)ヲ收入濟トシテ整理ノコト

七　年度整理期間內ニ於テ亡失金ノ未拂込額ニ對スル補塡ヲ受ケザルモノアルトキハ分任收入官吏ヨリ主任收入官吏ニ提出スル收入金出納計算書ニハ現金出納簿ノ受ノ計ニ出納員ノ拂込ヲ了セザル右亡失金ヲ併算シ計算證明規程第五十四條ニ依リ作成セシムルコト

近時不正事件續發シ國庫ノ損失ハ勿論官規振肅上之ガ對策ヲ講ズルノ必要アリ而シテ從來行ハレタル非行事件中販賣所ノ分任官吏ニ係ルモノハ比較的被害額少額ナリ是ハ從來販賣所ノ分任官吏ニハ巳ムヲ得ザル場合ノ外手元現金ノ保管ヲ爲サシメザル扱トナシタルガ爲ナリ故ニ之ガ對策トシテハ人選ヲ愼重ニシ實地監査ヲ行ヒ正規ノ取扱ヲ厲行セシムルノ外良策ナシト認メラルルモ出張所ニ於ケル被害ハ前渡金ノ保管高比較的多額トナル關係上被害額モ亦多額ニ上リ且長期ニ亙リテ潛行セラレタルモノアリ是等ノ點ヨリ稽フルニ出納官吏及其ノ監督者タル所長ノ職務執行ヲ嚴重ニ厲行セシメ且被害ノ對象トナル預金ニ對シテハ出張所ト預金先ト善ク連絡ヲ執ラシムルコトトシ之ガ厲行ヲ期スル爲實地監査ヲ少クトモ毎年一回以上必行スルコトニ改ムルニ於テハ其ノ效果尠カラザルベシト信ゼラルルガ故ニ右ノ趣旨ニ依リ昭和八年一月局訓令第一號ヲ以テ左ノ如ク局出納官吏事務取扱細則ヲ定メタリ

局出納官吏事務取扱細則(昭和八年一月局訓令第一號)

第一條　出納官吏ノ取扱ニ係ル現金及有價證券ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ之ガ受拂保管ヲ爲スベシ

第二條　資金前渡官吏前渡金ヲ請求セントスルトキハ第一號書式ニ依リ資金前渡請求計算書ヲ作成シ所屬出張所長ヲ經テ之ヲ支出官ニ提出スベシ

出張所長前項ノ計算書ヲ進達セントスルトキハ現金出納簿及經費內譯簿其ノ他證憑書ニ對査確認ノ上欄外ニ認證ヲ施スベシ

第三條　出納官吏其ノ保管ニ屬スル現金ハ在勤廳所在地ニ郵便官署又ハ確實ナル銀行若ハ金融組合ノ設ナキ場合ノ外手許ニ之ヲ保管スルコトヲ得ズ但シ巳ムヲ得ザル事由ニ依リ一時手許保管ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ニ依リ現金ノ手許保管ヲ爲サントスルトキハ手許保管現金受拂決裁簿ヲ設ケ受拂ノ都度所長ノ決裁ヲ受クベシ

第四條　出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル現金及有價證券ノ出納保管ニ付他ノ職員ヲシテ左ニ揭グル事項ヲ取扱ハシムルコトヲ得ズ但シ巳ムヲ得ザル事由ニ依リ所長ノ承認ヲ受ケタルトキハ第三號ノ事項ニ限リ他ノ職員ニ之ガ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ト雖出納官吏ハ當日必ズ代行者ノ取扱ヒタル事績ヲ取纏メ檢査ヲ爲スベシ

一　小切手用紙、關係重要書類、印章及金櫃鎰ノ保管

二　小切手其ノ他重要關係書類ニ對スル內容ノ突合、署名及捺印

三　現金又ハ有價證券ノ受拂

四　預託金月計突合表、證明關係書類及關係帳簿トノ照合

五　小切手帳ト小切手受拂簿トノ照合

六　預金及現金ト現金出納簿トノ照合

第五條　日本銀行代理店ノ設ケナキ地ニ在勤スル資金前渡官吏其ノ他ノ銀行又ハ金融組合ニ預入セル預金中ヨリ債主ニ支拂ヲ爲サントスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ該預金ニ對スル小切手ヲ振リ出スベシ但シ廳中又ハ隔地ノ債主ニ對スル支拂若ハ一口十圓未滿ノ支拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

廳中又ハ隔地ノ債主ニ對スル數口ノ支拂ヲ取纏メ小切手ヲ振出サントスルトキハ小切手帳ノ原符ニ振出總額ノ外債主別支拂額ヲ內譯連記スベシ若シ連記スルニ餘白ナキトキハ裏面ニ亘リ詳記スベシ

第六條　出納官吏小切手ヲ振出サントスルトキハ小切手面ニ所長又ハ所長ノ指名スル所長不在ノ場合ニ於ケル代理官ノ認印ヲ受クベシ

所長ハ前項ノ場合ニ於テ照較ノ用ニ供スル爲メ出納官吏ノ保管金額託先ト協議ノ上小切手面認印ノ捺所ヲ定メ自己及不在ノ場合ニ於ケル代理官ノ印鑑ヲ屬ケ置クベシ

所長又ハ代理官出納官吏ノ振出ス小切手ニ認印セントスルトキハ支拂決議書類ト照合シ支拂ノ內容事實ヲ確ムベシ

第七條　出納官吏日本銀行代理店以外ノ銀行(以下單ニ普通銀行ト稱ス)若ハ金融組合ニ保管金ノ預入ヲ爲ストキ又ハ該預金ノ拂戻ヲ爲サントスルトキハ債主ニ小切手ヲ交付シタル場合ノ外其ノ都度預金通帳ニ記入ヲ受クルコト困難ナル場合ニ在リテハ毎月末日現在ニ依リ預金通帳ノ記入ヲ求ムベシ

第八條　小切手用紙、預金通帳及現金ノ出納ニ使用スル印章ノ保管及使用ニ付テハ常ニ取扱ヲ嚴重ニシ使用ノ都度直ニ帳簿ヲ施シタル容器ニ格納スベシ

第九條　出納官吏不在中他ノ職員ニ出納官吏ノ職務ヲ取扱ハシメントスルトキハ小切手用紙、預金通帳、現金及圖係簿書ト照査シ引繼ヲ受クベシ

出納官吏不在中他ノ職員ニ出納官吏ノ職務ヲ取扱ハシメントスルトキハ所長ニ依託シ監廳後直ニ所長立合ノ上小切手用紙、預金通帳、現金及圖係簿書ト照査シ引繼ヲ受クベシ

第十條　出納官吏日本銀行預託金月計突合表ニ證明ヲ爲ス場合ハ副本ヲ作成シ其ノ餘白又ハ裏面ニ第二號記載例ニ依リ照合事績ヲ記入シ所長ノ決裁ヲ受クベシ

第十一條　普通銀行又ハ金融組合ニ預入シタル預金ニ付テハ預金先ヨリ所長宛親展ニテ每月末日現在ニ依リ其ノ月分ノ受入、拂出及殘高ヲ記載セル預金月計證明書ヲ受クベシ

前項ノ預金月計證明書到達シタルトキハ所長之ヲ開封シ認印ノ上出納官吏ニ交付スベシ

出納官吏預金月計證明書ヲ受ケタルトキハ前條第一項ニ準ジ處理スベシ

第十二條　出納官吏出納計算書ヲ提出セントスルトキハ其ノ取扱ニ係ル保管金ヲ日本銀行代理店ニ預託セル場合ニ在リテハ預託金月計突合表ノ副本、普通銀行又ハ金融組合ニ預金セル場合ニ在リテハ前條ノ月計證明書ヲ計算書ノ原議(副本)ニ添附シ所長ノ決裁ヲ爲クベシ

所長前項ノ決裁ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ對査スベシ

一　出納計算書正副本ノ突合

二　前渡資金出納計算書ノ殘高ト預託金月計突合表又ハ預金月計證明書トノ突合

三　現金手許保管アリヌル場合ハ第三條ノ手許保管現金受拂決裁簿トノ突合

第十三條　金券又ハ有價證券ノ送付ヲ受ケタルトキハ所長自ラ之ヲ受授ヲ明ニシ出納官吏ヲシテ保管セシメ隨時之ヲ檢査スベシ

第十四條　會計規則第百三十六條ノ規定ニ基キ定期及臨時ノ檢査ニ於テハ必ズ檢査ニ立合シ關係帳簿、證憑書類、現金及預金通帳ノ對査檢算ヲ嚴密ニ行フベシ

第十五條　本令ニ定ムル所長ニ屬スル職務ハ專賣局又ハ專賣支局ニ在リテハ庶務課長又ハ其ノ指定シタル官吏ニ於テ之ヲ行フ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

所長
認證

昭和　年度經費資金前渡請求計算書

科目	豫算額	資金前渡受領濟額	支拂濟額 前月末日迄	支拂濟額 本月分	差引現金殘額	支拂見込所要額	今回前渡請求額
款	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
項							
款							
項							

摘要

一　事由別紙支拂見込所要額調ノ通リ

二　何々

右請求候也

年　月　日

支出官宛

第一號書式附屬

支拂見込所要額調

種別	支拂見込月日	金額	摘要
項		圓	
事業費			

何廳資金前渡官吏　官　氏　名㊞

目	備考
郵便事業費	
雇員給	何人分　月　何圓
包裝用吼	何枚分　單價何錢
郵便回送費	何月分　回送費
何々	
計	

備考

一　支拂見込月日ハ大口ノ支拂ニ對スル豫定日ヲ記入ノコト

二　主ナル種別ニハ其ノ算出基礎ヲ摘要欄記載例ニ依リ列記シ小額ナルモノハ何費一ケ月分トシテ計上スルコト

三　本調書ハ項毎ニ別紙トシ各目別ニ小計ヲ附スルコト

第二號記載例

保管金殘高照合事績

一　預託金何月末殘高　圓

一　現金出納簿何月末殘高　圓

一　差引殘額　圓

內譯

現金手元保管高　圓

小切手振出額中支拂未濟額　圓（小切手第何號何某渡）

何々　圓

小計　圓

參照

一　經費內譯簿何月末殘高　圓

一　收入簿何月末現在拂込未濟高　圓

小計（現金出納簿殘高ト符合スルヲ要ス）　圓

第三號書式

金券及有價證券處理簿

受授印		受						理				認印		處理		備考
所長	出納官吏	年月日	券種別	發行元	日附番號	券面額		差出人住所氏名	摘要	所長	出納官吏	年月日	顚末	
㊞	㊞	七、二、一	通常爲替	京城局	七、一〇、三〇何々番	二〇圓	一三	何々何某	何々・罰科金	㊞	㊞	七、二、一	收入官吏收納	

備考

一　本簿ハ實際ノ取扱ニ應シ適宜樣式ノ一部ヲ增補又ハ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ改正書式ヲ添ヘ本局ニ報告スベシ

二　從前本書式ニ準ジタル帳簿ヲ使用セル向ハ適宜增補ノ上使用スルモ妨ゲナシ

第二款　任命及報告

收入官吏、歲入歲出外現金出納官吏及資金前渡官吏ノ命免ニ關シテハ從來本府會計事務章程第九條及第十二條ニ規定シアリ而シテ其ノ概要ヲ述ブレバ收入官吏及歲入歲出外現金出納官吏ハ各廳ニ置キ各廳ノ長ハ部下ノ官吏中ヨリ收入官吏、分任收入官吏、歲入歲出外現金出納官吏、資金前渡官吏ヲ命免スルモノトス若其ノ長ノ外ニ官吏ナキ場合ニ於テハ其ノ廳ノ長ヲ以テ是等ノ官吏ト爲スモノトス尙各廳ノ長ニ於テ資金前渡官吏ヲ命免シタルトキハ本府會計事務章程第十四條ニ依リ卽日其ノ官職氏名ヲ支出官ニ報告スルモノトス

收納官署ニ於テ支拂フ葉煙草賠償金、煙草耕作者奬勵金ノ如キ數箇所ニ於テ同時ニ出張支拂ヲ要スル經費ノ支拂ハ從來主任出納官吏ノ責務負擔ヲ以テ他ノ出納官吏ニ其ノ事務ヲ代行セシムルヲ例トシタルモ右ハ主任官吏ノ責任ヲ苛重ナラシムルノミナラズ實際ノ事情ニ適應セザル取扱ナルヲ以テ之ヲ改メ分任資金前渡官吏ヲ設置シ之ガ事務ヲ分任セシムルコトニ取扱尙右分任資金前渡官吏ニ限リ其ノ都度本府會計事務章程第八條第二項ノ認可ヲ要セズ支局長限リ設置シ得ルコトニ本局ニ於テ本府ト協定濟ニ付任命ノ都度所屬廳名、主任出納官吏官氏名、分任官吏官氏名竝任命年月日ヲ卽報スベキ旨昭和四年四月專庶第二六五號ヲ以テ各支局長ニ通牒セリ

其ノ後昭和六年七月ヨリ煙草販賣ヲ政府ニ於テ直營スルコトト爲リタル結果同月本府訓令第二

十五號ヲ以テ本府會計事務章程第十三條ニ左ノ一項ヲ追加シ收入官吏、分任收入官吏、歲入歲出外現金出納官吏、賚金前渡官吏、分任賚金前渡官吏等ノ命免ハ專賣局長ノ定ムル所ニ依ルコトト爲レリ

第十三條第三項

專賣官署ニ於ケル前條第一項ノ官吏及現金又ハ物品ノ出納員ノ命免ハ專賣局長ノ定ムル所ニ依ル

右規定ニ基キ局長ニ於テ是等ノ官吏設置方ニ關シ左ノ如ク定メ之ニ依リ實施シツツアリ

收入官吏　販賣所ヲ除キタル各專賣官署(本局、支局、出張所)ニ一名宛其ノ廳ノ長之ヲ命ス

分任收入官吏　販賣所長ヲ以テ之ニ充テ直近上級廳ノ主任收入官吏ノ所屬トス

現金出納員　各販賣所分任收入官吏ノ所屬トシ各配給員ヲ以テ之ニ充ツ

賚金前渡官吏　各出張所ニ一名宛ヲ置キ出張所長之ヲ命ス又各支局ニ收納及奬勵金交付等ノ場合ニ臨時ニ任命ス

歲入歲出外現金出納官吏　各專賣官署ニ一名宛置クコトトシ其ノ廳ノ長之ヲ任命ス但シ販賣所ニハ之ヲ置カズ

第三款　身元保證

身許保證ノ制度ハ出納官吏ノ職務執行ノ保證トシテ一定ノ現金ヲ提供セシメ又ハ身元保證人ヲ立テシメ若職務執行上過誤アリテ賠償ノ事實ヲ生ジタルトキハ其ノ提供シタル物件ヲ以テ賠償ニ當テ又ハ身元保證人ヲシテ賠償ノ責ニ任ゼシメントスルモノナリ而シテ內地專賣局ニ於テハ制度施行當初ハ出納官吏ノ取扱現金又ハ保管物ノ價格ガ一定ノ額ニ達スルトキハ總テ身元保證金ヲ提供セシメタルガ其ノ後ノ實蹟ニ就テ見ルニ本制度タルヤ其ノ效果ノ大ナラザルヲ知悉シタリ卽チ此ノ職務ニ當ルノ官吏ガ管掌スル處ノ金額物件ハ頗ル巨大ナリ若之ニ關シ過誤アリテ辨償ノ事實生ジタリトスルモ此ノ寡少ノ保證金ヲ以テシテハ到底之ヲ辨償スルニ足ラズ若之ヲ辨償スルニ足ルノ保證金ヲ納付セシメントスルトキハ莫大ノ保證金ヲ要シ其ノ實行困難ナリ且身元ノ保證ハ出納官吏ガ一般官吏ノ負ハザル責任ヲ負フモノニシテ彼此權衡ヲ得ズ結局事ニ利益ナクシテ出納官吏ニ少カラザル苦痛ヲ感ゼシム故ニ明治三十五年勅令第二百五號ヲ以テ原則トシテ身元保證金ノ納付ヲ廢シ特ニ必要アル場合ニ於テノミ身元保證金ノ提供ヲ命ズルコトヲ得ルコトニ變更セラレタリ而シテ專賣局ハ特定ノ理由ヲ有スルモノナキヲ以ラ保證金ノ制度ハ全ク消滅ニ歸シタルモノナリト云フ尙其ノ後大正十一年勅令第一號ヲ以テ會計規則制定セラレ其ノ際右勅令ハ廢止セラレ身元保證ノ制度ハ全ク廢止セラレタリ

大正十年七月朝鮮ニ於テモ煙草ノ專賣ヲ施行スルコトト爲リタルモ會計規則ニ依リ出納官吏ノ身元保證ヲ爲サシムルニ及バザリシガ其ノ後昭和六年七月ヨリ煙草ノ販賣ヲ政府ニ於テ直營スルコトト爲リ從來煙草元賣捌會社ニ於テ全鮮三百有餘箇所ニ營業所ヲ設置シアリタル箇所ニ直營後政府ノ販賣機關タル販賣所ヲ設置スルコトト爲リ其ノ結果各販賣所長及配給員ハ出納官吏ト爲リ現金及物品ノ出納ヲ爲スコトト爲リタリ而シテ販賣所長ハ一般官吏ト異ナリ特殊ノモノタルヲ以テ假令會計法規上身元保證ヲ爲サシムル規定存セズト雖全然放任スルトキハ政府ニ於テ損害ヲ蒙

ルニ至ル虞ナキヲ保セザルヲ以テ昭和六年七月局訓令第九號ヲ以テ販賣所職員服務規程ヲ制定シ該規程中ニ販賣所長及配給員等ノ身元保證ニ關スル規定ヲ定メタリ其ノ詳細ハ該規定ニ明カナリト雖今其ノ概要ヲ述ブレバ販賣所長ハ實價二千圓以上ノ不動產若ハ記名國債證券ヲ常ニ所有スル者ヲ身元保證人ト爲シ一定ノ身元保證書ヲ提出スルモノトス若一人ノ有スル不動產若ハ記名國債證券ノ實價二千圓ニ滿タザルトキハ其ノ實價二千圓以上ヲ有スル二人ノ身元保證人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得又本人ガ現金二千圓以上ヲ確實ナル銀行又ハ金融組合等ニ預金シ其ノ預ケ先ヨリ其ノ預金ニ付所轄販賣監督官署長ノ承認ナキニ於テハ之ガ拂戻ヲ爲サザル旨ノ書面ヲ徵シ提出スルトキハ身元保證人ヲ免除スルコトヲ得ルモノトス

從來右ノ如ク取扱來リタルガ斯ル方法ハ擔保權ノ確保ヲ期スル上ニ於テ遺憾ナキ能ハズ且又販賣所長中不動產有價證券等ヲ所持スルモ之ヲ擔保トシテ利用スル途ナク已ヲ得ズ他人ニ保證ヲ依賴シツツアル狀況ナルヲ以テ斯ル向ニ對シテハ這回設立ノ販賣所長協會ニ擔保ヲ提供セシメ同會ヲシテ其ノ身元保證ヲ爲サシムルコトトセバ擔保權ノ確保ヲ期シ且販賣所長ニ於テモ利便少カラザルヲ以テ昭和九年六月局訓令第十八號ヲ以テ販賣所職員服務規程ノ件中改正セリ

販賣所職員服務規程ノ件中拔萃（昭和六年七月改正局訓令第九號昭和九年六月局訓令第一八號）

第五條　販賣所長故意又ハ過失ニ因リ政府ニ損害ヲ與ヘタルトキハ直ニ其ノ損害ヲ賠償スベシ

所屬屬員又ハ傭人ノ行爲ニ因リ政府ニ損害ヲ與ヘタル場合其ノ監督ニ付販賣所長ニ過失アリタルトキハ販賣所長ニ於テ直ニ其ノ損害ヲ賠償スベシ但シ販賣所長休職、廢官、退官又ハ在職中死亡ノ日ヨリ一年ヲ過ギテ發覺シタル事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　販賣所長專賣局販賣所長協會ノ身元保證アル場合ノ外第七條乃至第九條ニ定ムル資格ヲ有スル者ヲ以テ身元保證人ト爲スベシ

第七條　身元保證人ハ實價二千圓以上ノ不動產若ハ記名國債證券ヲ當ニ所有スルコトヲ要ス但シ一人ノ有スル不動產若ハ記名國債證券ノ實價格合計二千圓以上ヲ有スル二人ノ身元保證人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條　身元保證人ハ所轄專賣支局管內又ハ所轄專賣支局長ノ特ニ承認シタル地ニ居住スル者ナルコトヲ要ス

第九條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ身元保證人ト爲スコトヲ得ズ

一　無能力者
二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
三　破產者ニシテ復權ヲ得ザル者
四　懲戒處分ニ依リ官職ヲ免セラレタル者
五　現ニ專賣官署又ハ煙草耕作組合ニ對シ身元保證ノ責任ヲ負フ者

第十條　販賣所長自己ノ身元保證人ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ直ニ所轄專賣支局長又ハ專賣支局出張所ニ屆出テ變更手續ヲ爲スベシ

一　第七條ノ資格ヲ失ヒタルトキ
二　第八條ノ定ムル地以外ニ住所ヲ移轉シタルトキ但シ所轄專賣支局長ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ
三　前條各號ノ一ニ該當スル事實發生シタルトキ
四　辭任ヲ申出デタルトキ
五　所在不明トナリ又ハ死亡シタルトキ

第十一條　專賣支局長ニ於テ身元保證人ヲ不適當ナリト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第十二條　販賣所長ハ身元保證人ニ於テ住所氏名ヲ變更シ又ハ其ノ資產ニ著シキ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ所轄專賣支局長又ハ專賣支局出張所長ニ屆出ヅベシ

第十三條　販賣所長ハ身元保證人ヨリ第一號樣式ノ身元保證書ヲ徵シ所轄專賣支局長又ハ專賣支局出張所長ニ提出スベシ

第十四條　第五條第一項第六條乃至第十三條ノ規定ヲ販賣所ニ勤務スル雇員又ハ傭人ニ付之ヲ準用ス但シ九、六、一三調令十八號改正雇員又ハ傭人ニシテ相當資產ヲ有シ專賣支局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ身元保證人ヲ免除スルコトヲ得

身元保證人ノ資格及責任ニ付テハ專賣支局長ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第一號樣式

朝鮮總督府專賣局販賣所(長)(雇員)(配給員)身元保證書

原籍
現住所
【氏名】

朝鮮總督府專賣局販賣所長、雇員、配給員)

右ノ者(今般朝鮮總督府專賣局販賣所(長)(雇員)(配給員)ニ任用(採用)相成候ニ付テハ)在職中擔者(等)身元保證人ニ相立チ左記規約ヲ恪守シ(連帶ヲ以テ)誠實ニ其ノ責任ヲ盡シ可申候

原籍
現住所
職業
氏名
(連署)

宛名

朝鮮總督府專賣局販賣所長(雇員)(配給員)身元保證人規約

第一條　身元保證人ハ販賣所長)(雇員何某)(配給員何某)損害賠償ノ責任ヲ生ジタルトキハ本人ト連帶シテ直ニ辨償ノ責ニ任ズルモノトス但シ身元保證人ノ之ニ對スル辨償責任額ハ金三千圓ヲ限度トス

第二條　身元保證人ハ販賣所長)(雇員何某)(配給員何某)(休職、廢官、退官(退職)又ハ在職中死亡ノ後ト雖其ノ在職中ニ係ル事件ニ付テハ其ノ(休職、廢官、退官(退職)又ハ在職中死亡ノ日ヨリ一年ヲ過ギテ發覺シタル事件ニ非ザレバ前條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三條　身元保證人ハ販賣所長)(雇員何某)(配給員何某)ニ於テ更ニ身元保證人ヲ選定スル迄ハ其ノ責任ヲ辭スルコトヲ得ズ

第四條　身元保證人ハ身元保證人ヲ辭シタル後ト雖其ノ保證期間中ニ係ル事件ニ付テハ第一條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四款　出納官吏交替

出納官吏交替ノ場合ニ於ケル事務引繼ノ手續ハ大正十一年大藏省令第二號出納官吏事務規程第五十九條乃至第六十四條ニ夫々規定シアリ今該手續ノ概要ヲ述ブレバ出納官吏交替ノ場合ニ於テハ前任出納官吏ハ現金出納簿ニ締切ヲ爲シ引繼ノ年月日ヲ記入シ後任出納官吏ト共ニ記名捺印シ若前任出納官吏ガ日本銀行ニ預託金ヲ有スル場合ハ右締切ヲ爲シタル日ニ於ケル預金現在高ノ證明ヲ日本銀行ニ請求スルモノトス而シテ前任出納官吏ハ所定ノ現金現在高書又ハ現金及預託金現在高書竝其ノ引繼グベキ帳簿、證憑其ノ他ノ書類ノ目錄二通ヲ作リ後任出納官吏立會ノ上現物ニ對照シ受授ヲ爲シタル後現在高書及目錄ニ年月日及受授ヲ了シタル旨ヲ記入シ兩出納官吏ニ於テ記名捺印シ各一通ヲ保存スルモノトス右手續ヲ了シタル場合ニ於テ日本銀行ニ預託金アルトキハ前

任出納官吏ハ後任出納官吏ト共ニ記名捺印ノ上預託金現在高引繼通知書ヲ所屬官廳及日本銀行ニ送付スルモノトス若前出納官吏ノ振出シタル小切手ニシテ日本銀行ニ於テ未ダ支拂ヲ了セザルモノアルトキハ該通知書ニ其ノ金額ヲ區分記載スルモノトス尙前任出納官吏死亡其ノ他ノ事由ニ因リ引繼ヲ爲スコト能ハザル場合ハ所管大臣ノ命ジタル會計規則第百四十六條ノ規定ニ依リ計算書ヲ調製スベキ官吏ヲシテ右ノ手續ヲ爲サシムルモノトス

出納官吏退官シ後任官吏ニ引繼ヲ爲ス場合ハ辭令發令ノ日ヲ以テ引繼ヲ爲シ現金出納簿ノ締切ヲ爲スヲ至當ト認メラルルモ退官又ハ任用ヲ上局ニ於テ發令ノ場合辭令到着ガ二、三日後トナルコトアリテ現金出納簿ノ締切ガ發令月日ト符合セザル場合生ズルヲ以テ此ノ場合ノ現金出納簿ノ締切方ニ關シ全州支局長ヨリノ照會ニ對シ昭和八年七月專庶第四二八號ヲ以テ各支局長ニ左ノ如ク通牒セリ

出納官吏退官等ノ場合ノ現金出納簿締切方ノ件（昭和八年七月二十九日專庶第四二八號　支局長宛　庶務課長）

全州支局長伺出首題ノ件左記ノ通御了知相成タシ

記

問　出納官吏退官シ後任官吏ニ引繼ヲ爲ス場合ハ辭令發令ノ日ヲ以テ引繼ヲ爲シ現金出納簿ノ締切ヲ爲スヲ至當ト認メラルルモ退官又ハ任用ヲ上局ニ於テ發令ノ場合辭令到著ガ二三日後トナル爲現金出納簿ノ締切ガ發令月日ト符合セザル場合生ズルヲ以テ此ノ場合ノ現金出納簿ノ締切方ニ付何分ノ御指示相受ケタク照會ス

答　出納官吏ガ官金ノ出納保管ヲ爲スハ其ノ在職中ニ限ラルルヲ以テ從來退官等ノ發令ハ總テ電信電話ヲ以テ當日中ニ各支局ニ速達シ來リタリ將來ニ於テモ此ノ扱ニ變更ナキモ若勤務地ニ電信機關無キ場合ニ於テハ豫メ到達ニ要スル日時ヲ見込發令月日ヲ考慮スベシ依テ支局ニ於テモ時ヲ失セズ通達セラレタク萬一特殊ノ事由ニ依リ退官トナリタルコトヲ知ラズシテ離職後金品ノ出納ヲ爲シタルモノヲ生ジタリトセバ其ノ都度箇々ノ事情ニ應ジ善處スルコト尙大正二年本府ニ於テ裁判所及監獄會計主任會議ノ席上左ノ如キ問答アリタルモ右ハ離職後ノ出納ヲ爲シ得ルコトヲ認メタルモノニハアラザルベク要旨ハ實際引繼ノ日ニ於テ引繼ヲ爲スベキ日（原則的ニハ後任者發令ノ日卽チ前任者離職ノ翌日）ニ遡及シテ引繼ヲ爲スベキ意ト了知アリタシ爲念

大正二年裁判所監獄會計主任會議問答

問　出納官吏交替ノ場合ニハ辭令日付如何ニ拘ラズ實際引繼ヲ爲スベキ日ニ於テ明治二十三年四月大藏省訓令第五十四號ノ手續ヲ爲スベキヤ

答　辭令受領ノ日ヲ以テ區分ス

第四節　證明

證明ハ收入支出及現品ノ出納事跡ヲ明ニシ其ノ公正ヲ立證スル方法ナリ收入支出ヲ執行シ及現金物品ヲ出納スル官吏ハ其ノ職務上國庫ニ屬スル金錢物品ヲ收支スルモノニシテ必ズ公明正確ナルベク一點ノ過誤アルヲ許サズ故ニ其ノ之ヲ收入シ支出シ又ハ受入拂出ノ事跡ハ一々皆正當ノ規定ニ準據シテ計算ニ誤謬ナキコトヲ明ニセザルベカラズ若夫之ヲ明ニスルコトヲ得ズ又ハ計算ニ不突合ナルコトアリトセバ取扱官吏當然其ノ責ニ任ゼザルベカラズ

國家ハ會計檢査院ヲ置キ各官省ノ外ニ特立セシメ各官省一切ノ會計出納ニ關スル事項ノ監督ニ任ゼシム從テ政府ニ屬スル金錢物品ヲ出納スルモノハ均シク其ノ檢査ヲ受ク其ノ過誤ナキヲ證明スルノ責任アルモノトス依テ類別ニ依リ款ニ分チテ之ヲ說述セントス

第一款　歲入徵收額證明

歲入徵收額ノ證明ハ大正十一年三月會計檢査院　第一號計算證明規程（以下單ニ計算證明規程ト稱ス）ニ依リ提出スルモノトス同規程中歲入證明ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ但シ同規程中ノ總則ハ以下各款ニ共通スルモ便宜本款ニ併錄シ以下各款ニハ之ヲ省略スルコトトセリ

計算證明規程中拔萃（會計檢査院達第一號　其ノ後改正セラル　大正十一年三月　昭和十年三月末日現在）

第一章　總　則

第一條　計算書ハ改竄塗抹ヲ爲スヘカラス若誤記脫字等ニ因リ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ畫シ之ニ捺印スヘシ

第二條　證憑書類ハ原本ニ限ル若原本ヲ提出シ難キトキハ當該主任者ノ保證アル謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

外國文ヲ以テ記載シタル證憑書類ニハ譯文ヲ附スヘシ但シ會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三條　外國貨幣ヲ基礎トシ又ハ外國貨幣ヲ以テ收支ヲ爲シタルモノハ換算ニ關スル書類ヲ添附スヘシ但シ別ニ定メアル外國貨幣換算價格ニ依リタルモノハ證憑書類ニ其ノ換算價格ヲ附記シ本文ノ書類ヲ省略スルコトヲ得

第四條　證憑書類中既ニ他ノ計算證明上提出濟ノモノアルトキハ其ノ旨計算書ノ備考ニ記載スヘシ

第二章　歲　入

第一節　通　則

第五條　歲入徵收官ハ第一號書式ニ依リ每月歲入徵收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日限之ヲ提出スヘシ

但シ會計檢査院ニ於テ特ニ指定シタルモノハ年一回又ハ數回ニ提出スルコトヲ得

第六條　左ノ事項ハ最終徵收額計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ證明書ヲ添附スヘシ

一　年度、科目其ノ他ノ更正ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由

二　調定誤謬其ノ他ノ爲拂戻ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由

第七條　歲入徵收額計算書ニハ日本銀行月計突合表及別ニ指定スル明細書ヲ添附ス

第八條　證憑書類ノ編纂ハ左ノ區分ニ依ル

一　內國稅ニ在リテハ各目ニ區分シ尙準據シタル條項ノ異ル每ニ細分スヘシ

二　關稅、噸稅及稅關雜收入ニ在リテハ本關及各支署若ハ出張所每ニ各目ニ區分スヘシ

三　其ノ他ノ歲入ニ在リテハ各目ニ區分シ事ノ複雜ナルモノハ尙適宜細分スヘシ

證憑書類ノ表紙ニハ其ノ紙數及金額ヲ記載スヘシ

第二節　租　稅

第九條及第十條（省略）

第三節　租稅外歲入

第十一條　證憑書トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

一　物件ノ賣拂、貸付、製造、修繕其ノ他收入ニ關スル決議書、契約書、賣渡請求書等徵收ノ基礎ヲ證明スヘキ一切ノ書類

二　延納ヲ許可シタルモノアルトキハ其ノ關係書類

三　滯納處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類

四　不納缺損ニ係ルモノアルトキハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類

會計規則第八十七條第五號ニ依リ契約書ノ作成ヲ省略シタルモノハ其ノ事由ヲ證憑書ニ附記スヘシ

第十二條　物件ノ賣拂、貸付其ノ他ノ契約ニ付一般競爭ニ付シタルモノハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公告書案但シ公告ノ方法及公告期間ヲ短縮シタルモノハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

二　豫定價格調書及其ノ算出ノ基礎ヲ示セル書類

三　一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書

前項ノ規定ハ隨意又ハ指名競爭ニ依リタル契約ニ付之ヲ準用ス

第十三條　競爭ニ附スルモ入札者ナク又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナク若ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ競爭ニ付シタルトキハ尙前回ノ競爭ニ關スル書類若ハ其ノ概要ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ隨意契約ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ證憑書ニ附記シ尙競爭ニ關スル書類ヲ添附スヘシ

第十四條　豫定代價千圓ヲ超ユル財產ノ賣拂、豫定賃貸料年額又ハ總額五百圓ヲ超ユル物件ノ貸付及二千圓ヲ超ユル其ノ他ノ契約ニシテ一般競爭ニ付セサルモノハ其ノ適用シタル法令ノ條項ヲ證憑書ニ附記シ尙會計規則第十四條第一項第十九號乃至第二十一號ニ依リ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其ノ必要トセル事由ヲ證憑書ニ附記スヘシ

第十五條　國有財產ノ賣拂及貸付ニシテ隨意契約ニ依リタルモノハ其ノ賣拂價格又ハ貸付料ノ評定調書ヲ提出スヘシ

第十六條　物件ノ賣拂貸付其ノ他ノ契約ニシテ變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類ヲ提出スヘシ

第十七條　證憑書類ハ會計檢查院ノ承認ヲ經他ノ書類ヲ以テ代用シ又ハ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

（書式省略）

本府會計事務章程中ニ歲入徵收額計算書ニ關シ規定シアリ該規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月本府訓令第四二號　其ノ後屢次改正セラル）

第二百二十七條　歲入徵收官ハ計算證明規程ニ依リ歲入徵收額計算書ヲ調製シ左ノ通本府ニ提出スヘシ

一　朝鮮總督府特別會計所屬歲入

イ　專賣局、營林署、稅關、鐵道局ニ在リテハ每月トシ翌月十五日限

ロ　稅務官署ニ在リテハ年四回トシ左ノ每期終了後十五日限

第一期（自四月至七月）第二期（自八月至十一月）第三期（自十二月至三月）第四期（翌後出納閉鎖期迄ノ分

ハ　遞信局ニ在リテハ年一回トシ翌年度六月十五日限

ニ　前各號以外ノ官署ニ在リテハ年二回トシ左ノ每期終了後十五日限

第一期（自四月至十月）第二期（翌後出納閉鎖期迄ノ分

二　朝鮮鐵道用品資金特別會計所屬歲入ハ每月トシ翌月十五日限

三　朝鮮簡易生命保險特別會計所屬歲入ハ年一回トシ翌年度六月十五日限

四　一般會計所屬歲入ハ年一回トシ翌年度五月十五日限

會計檢查院長ヨリ本府所管歲入徵收額計算書ノ提出時期ヲ指定セラレ又同計算書ニ添附スヘキ證憑書類ノ提出省略承認ヲ受ケタル旨ヲ以テ大正十二年四月官通牒第三七號ヲ以テ政務總監ヨリ左ノ如ク通牒セラレタリ

計算證明上指定及省略ニ關スル件（大正十二年四月官通牒第三七號　其ノ後屢次改正セラル　昭和十年三月末日現在）

大正十二年度以降本府所管各廳ノ證明ニ關シ會計檢查院長ヨリ左記ノ通指定並承認相成度及通牒候也

記

指定事項

一　計算證明規程第五條ニ依ル歲入徵收額計算書ハ左ノ通提出スヘシ

（一）朝鮮總督府特別會計所屬歲入

イ　專賣局、營林署、稅關、鐵道局ニ在リテハ每月トシ翌月十五日限

ロ　（乃至ホ省略）

（二）乃至（四）省略

二　同第七條ニ依リ歲入徵收額計算書ニ添附スヘキ明細書ハ左ノ通リ指定シ別紙樣式ニ依リ關稅、噸稅、出港稅、稅關雜收入ハ每月其他ハ最終ノ歲入徵收額計算書ニ添附提出ノコト

地稅、鑛稅、關稅、噸稅、出港稅、驛屯賠收入、林野收入、官有物貸下料、稅關雜收入、驛屯土拂下代、雜入、貸付金、延納許可額

（三乃至六省略）

承認事項

一　同第十七條ニ依リ左記科目ニ就テハ別紙樣式ノ明細表ヲ以テ證憑書ニ代用シ最終歲入徵收額計算書ニ添附スルコト

郵便電信及電話收入、辨償及違約金

二　同條ニ依リ左記科目ニ就キ證憑書類ノ提出省略ヲ承認ス

印紙收入、度量衡收入、懲罰及沒收金、雜入、病院收入、恩給法納金

但シ

(一)　省略

(二)　懲罰及沒收金、雜入ニ在リテハ計算書備考ニ節別金額記入ノコト

(三)　省略

(様式省略)

每年度最終歲入徵收額計算書ニ專賣收入調定濟額內譯及物品出納計算書賣拂代價トノ對照調書ヲ調製添附セラレタキ旨會計檢査院ヨリ要求シ來リタルヲ以テ大正十三年十月專庶第一三七五號ヲ以テ各支局長ニ左ノ如ク通牒セリ

最終歲入徵收額計算書ニ調書添附ノ件(大正十三年十月二日專庶第一三七五號　支局長宛　專賣局長)

會計檢査院ヨリ要求有之候ニ付每年度最終歲入徵收額計算書ニ別紙様式ノ調書正副二通(副本ハ本局用トス)ヲ作リ添附相成度及通牒候也

追テ大正十一年度分ニ就テモ之ヲ作リ至急追提出相成度申添候

大正　年度專賣收入調定濟額內譯及物品出納計算書賣拂代價トノ對照調書

官署名	本年度調定額	調定額內譯 前年度收入未濟繰越額	調定額內譯 調定外誤納額	調定額內譯 調定超過額	調定額內譯 前年度調定不足ノ分	調定額內譯 前年度賣渡ノ分	調定額內譯 本年度賣渡ノ分	本年度賣渡中翌年度調定額	物品(專賣品共)出納計算書賣拂代價
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
計									

右「本年度賣渡分」ト「本年度賣渡中翌年度調定額」トノ合算額ト「物品出納計算書(專賣品、鹽共)賣拂代價」トノ不符合事由左ノ如シ

官署名	事由
	(不符合ノ事由別ニ其金額ヲモ記載スルコト)

以上

歲入徵收官　官　氏　名　印

各證明書類ノ調理ニ關シテハ漸次成績良好ニ向ヒツツアルモ大正十一年四月ヨリ改正計算證明規程施行セラレ爾來數次ニ亙リ證明書式ニ改正ヲ加ヘラレタル結果證明書式區々ニ涉リ處理上支障ヲ生ズルモノ又ハ計算其ノ他ニ誤謬アリテ之ガ照覆ニ多大ノ日子ヲ費シ延イテ會計檢査院ヘノ證明上支障ヲ來スモノ等少カラズシテ其ノ完璧ヲ期シ得ザルハ甚ダ遺憾ニ付爾今證明書類ノ調理ニ就テハ別冊各項注意ノ上提出期限ヲ格守スベキ旨大正十五年一月官通牒第三號ヲ以テ政務總監ヨリ通牒セラレタリ右通牒ノ別冊中歲入徵收額計算書ニ關スル事項ヲ拔萃スレバ左ノ如シ但シ該別冊中總則ハ第二款乃至第五款ニモ共通ノモノナルモ本款ニ併錄シ第二款乃至第五款ニハ省略セ

證明書類調理上注意ノ件（大正十五年一月官通牒第三號）

（別冊）

第一章　總則

一　計算書ノ用紙ハ必ス謄本引美濃紙ヲ用ユルコト

二　計算書ノ文字往往不判明ノモノアリ必ス明瞭且ツ叮嚀ニ記載スルコト

三　計算書ニハ當該證明官吏ノ捺印ヲ洩ラササルコト

四　計算書ノ表紙ニハ證憑書及附屬書ノ全冊數、枚數ヲ左ノ如ク記載スルコト

（冊）（冊）（冊）
證憑書
附屬書
計

五　計算書ニハ送付書ヲ添附セス其ノ表紙ニ發送月日、番號ヲ附シ提出ノコト

主管官廳ヲ經由スルモノニアリテハ主管廳ニ於テハ其ノ發送年月日ヲ計算書表紙ニ記載スルコト

六　計算書及證憑書ハ必ス檢査ヲ爲シ且責任者ヲ明ニスル爲表紙餘白ニ檢査濟ト記シ主任者ヲシテ捺印セシムルコト

七　計算書及證憑書ハ直接會計檢査院ニ送付セス主管官廳ヲ經テ本府ニ提出スルコト

八　計算書表紙ニ記載スル廳名ハ道名ヲ冠記スルコト但シ府郡島ノ分ニ限ル

九　計算書及證憑書ハ必ス各別ニ編綴スルコト但シ歲入歲出外現金出納計算書ニ添附スヘキ證憑書ニシテ保證書ヲ代用スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章　歲入徵收額計算書

第一節　通則

一　歲入徵收額計算書ハ年度內歲入徵收官交替シタル場合ト雖當該年度計算書ハ現任徵收官ニ於テ調理證明ノコト

二　一般會計ノ分ハ附屬明細書及證憑書提出ヲ要セス

三　計算書ハ一般會計、特別會計毎ニ調製シ其ノ會計名ヲ表紙ニ記載スルコト

四　計算書ニ添附スル日本銀行月計突合表ノ謄本ハ左記樣式ニ依リ美濃紙ニ調製シ計算書ト附屬明細書トノ間ニ編綴スルコト

大正　年度中　特別會計（一般會計）　月計突合表

備考	分ノ店理代	統統城京行銀本日
	四月分	
	五月分	
	六月分	
	七月分	
	八月分	
	計	
	分ノ店理代々何ハ又司門	
	二月分	
	計	
	分ノ行銀本日	
	三月分	
	計	
	總計	

上記謄本也

大正　年　月　日

徵收官歲入歲々何　氏名　㊞

備考

イ　日本銀行京城統轄代理店以外ノ分ハ必ス各代理店毎ニ區分揭記スルコト

ロ　總計金額ハ計算書ノ「收入濟額ト日本銀行領收濟額トノ對照」欄記載ノ日本銀行領收濟通知總額ニ必ス符合スヘキモノトス

ハ　月證明ノ計算書ニ添附スル月計突合表ノ謄本ハ從前ノ通ニシテ本樣式ニ據ルニ及ハス

第二節　計算書ニ關スル事項

一　計算書ニ揭クル員數ハ關係帳簿及年度最終ノ徵收報告書ニ照合シ其ノ符合ヲ確ムルコト尙科目ハ每年本府官報ヲ以テ公布（訓令）セラルル歲入歲出科目表ニ示ス順序ニ從ヒ記載シ該當事項ナキ科目ハ之ヲ除クコト

二　計算書調定濟額ハ各附屬明細書ト調定濟額ト對査ヲ行ヒ必ス符合ヲ確ムルコト

三　前年度繰越收入未濟額ニシテ本年度中收入ヲ了シ若ハ缺損處分ヲ爲シタルモノハ調定濟額ニ併算シ其ノ金額ハ收

入額、缺損額トニ各區分シ備考欄ニ附記スルコト但シ前整年度ニ於テ調定額ニ增減ヲ生シタルモノアル場合ハ其ノ金額モ併テ記載スルコト

四　收入未濟額內譯欄ニ記載スヘキ前年度繰越收入未濟額ニシテ本年度中尙收入ニ至ラサル額ハ所定書式ニ從ヒ每年度ニ區分揭記シ其ノ金額ハ本府會事務章程第六十九條ノ歲入繰越額計算表ノ金額ト符合ヲ確ムルコト

五　收入(出納)官吏現金領收額欄ニ記載スヘキ收入官吏拂及郵便局出納官吏領收濟通知額ハ收入官吏ノ領收報告又ハ出納官吏ノ領收通知書ニ基キ該日付ニ依リ三月三十一日迄ノ分ト爾後出納閉鎖期迄ノ分トヲ區分スルコト尙收入官吏ノ分三月三十一日迄ノ金額ハ當該官吏ヨリ會計檢査院ニ證明シタル收入金現金出納計算書所揭金額トノ對査ヲ行フコト而シテ收入官吏四月一日ヨリ出納閉鎖期迄ノ間ニ於テ前年度歲入金ヲ收入シタル場合收入官吏ノ計算書ニハ之ヲ兩年度ニ區分揭記證明アルニ歲入徵收額計算書當該欄ニハ本年度分ノミヲ記載スルコト

六　同欄ノ郵便局出納官吏領收濟通知額ハ收入官吏ヨリ拂込ミタル額モ併算スヘキモノニシテ收入官吏拂額ヨリ見レハ重複スルノ嫌ナキニアラサルモ各責任ヲ異ニスル官吏ナルヲ以テ重複スルモ差支ナキコト

七　收入濟額ト日本銀行領收濟額トノ對照欄ハ計算書收入濟額ト日本銀行代理店ノ證明金額トノ對査上必要ノ事項ヲ記載スヘキモノニ付左ノ事項注意ノコト

(イ)　收入濟額ト日本銀行領收濟通知總額ト差額ヲ生スル場合ハ主トシテ

(1)　收入官吏又ハ遞信官署出納官吏ノ拂込未濟

(2)　他年度歲入又ハ他ノ會計歲入ヘ誤拂込

(3)　他年度歲入又ハ他ノ會計歲入ヨリ本年度歲入ヘ誤拂込等ナルヲ以テ收入濟額ヨリ之等金額ヲ增減セハ日本銀行領收濟通知總額トスルモノトス故ニ此カ照合ヲ渡ラサルコト但シ五月三十一日迄ノ通知日付ヲ以テ區分スルコトシ直接代理店ニ拂込ミタル領收濟通知額及遞信官署出納官吏ノ領收通知額ヲ控除シタル額ト符合スルコト但シ五月三十一日迄ノ通知日付ヲ以テ區分スルコト

(ロ)　日本銀行同支店竝代理店ノ領收濟通知總額ハ其ノ年度四月一日ヨリ翌年度五月三十一日迄ノ通知日付ヲ以テ區分スルコト

(ハ)　日本銀行領收濟通知總額ハ代理店ヨリ證明ノ領收高ト對査セラルヘキニ付若シ朝鮮總督府歲入中日本銀行京城統轄店同所屬代理店以外ノ代理店ニテ領收シタルモノアルトキハ其ノ對査上不符合ヲ生スルヲ以テ所定樣式ニ從ヒ「日本銀行領收通知總額」ノ下欄ニ其ノ內譯ヲ必ス記載スルコト

八　歲入金ノ年度誤謬又ハ會計種別ノ誤謬等ハ出納閉鎖期卽チ翌年度五月三十一日迄ハ訂正シ得ヘキヲ以テ之カ訂正手續ヲ爲シ其ノ期間經過シタルモノハ誤謬ノ儘據置ノ整理ヲ爲シ其ノ事由及金額ヲ本府ニ報告スルコト(大正一一年四月大藏省令第三八號)

第三節　計算書附屬明細書ニ關スル事項

一　各附屬明細書書式備考欄ニ記載シアル事項ト雖特ニ注意ヲ要スト認メタル事項ニ付テハ本項ニ揭記セリ

二(省略)

地　稅
鑛　稅
罰屯賠收入
(省略)

官有物貸下料

一　前年度越高欄ニ於ケル金額ハ前年度越高數量ニ對スル當年度ニ於テ調定ヲ要スヘキ貸付料金額ヲ揭記スルコト從テ前年度明細書ニ記載シタル翌年度越ノ金額トハ彼此一致セサルコトアルモ(前年越ノ數量ハ一致スルモノトス)差支ナシ

官有物貸下料ハ契約書ニ基キ翌年分ヲ前納セシムヘキモノニ付每年十二月ニ於テ其ノ翌年分ヲ調定スルコト

二　增減各欄ニ於テハ年度內異動ノ數量金額ヲ記載スヘキコト但シ數量又ハ金額ノ一方ニノミ異動ヲ生シタルモノニ

付テハ其ノ異動ヲ生シタルモノノミヲ掲記スルコト

減欄ハ數量ノミヲ掲ケ金額ハ之ヲ記載セサルコト但シ四月一日ヨリ十二月末日迄ニ於テ契約解除等ノ原因ニ依リ減アルトキハ數量、貸付料ヲ記載シ其ノ事由ヲ備考ニ附記スルコト

三　貸付期限三月三十一日ノモノニシテ翌年度ニ貸下ノ繼續セサルモノハ備考欄ニ其ノ數量金額ヲ掲記スルコト

四　翌年後越高欄ノ數量金額ハ增減差引計ニ相當スル金額數量ニシテ當該年度調定濟額ニ符合スルモノトス

林野敎入

驛屯土拂下代

雜　入

（省略）

延納許可額

一　延納額ノ前年度越高ト前年度明細書ノ翌年度越高ト符合セサル場合ハ別ニ其ノ事由ヲ附記スルコト

生產品、製造品ノ賣下ハ物品出納計算書ニ對査ヲ要スルカ故ニ賣下拂出中代金ヲ翌年度ニ調定シタルモノハ物品出納計算書ノ備考ニ記載スルコト

第四節　證憑書ニ關スル事項

一　證憑書類ノ原本ヲ提出シ難キ爲謄本ヲ提出スル場合其ノ謄本ニ主任者ノ捺印ヲ洩ラササルコト

二　證憑面書類中既ニ他ノ計算證明上提出濟ノモノアルトキハ必ス其ノ旨計算書ノ備考ニ記載スルコト

三　證憑書類ノ表紙ニハ其ノ枚數及金額ヲ記シ金額ハ計算書所揭金額トノ符合ヲ確ムルコト

表紙記載例

大正何年度

地稅又ハ何々證憑書

金額……

紙數何枚（證憑書ヲ一冊ニ編纂スルトキハ其ノ總紙數ヲ玆ニ記載スルコト）

何冊第何號紙數何枚（證憑書ヲ二冊以上ニ編纂スルトキハ此ノ記入ヲ要ス）

廳　名

備考　紙數ハ表紙界紙ヲ除ク外一切ノ證憑書類ヲ一枚毎ニ計算スルコト

四　證憑書類ハ計算書附屬明細書トノ對査上便ナラシムル爲附屬明細書記載ノ順序ニ從ヒ增減各別ニ區分編綴スルコト

五　證憑書類ハ會計檢査院ノ指定ニ基キ提出スヘキモノナルヲ以テ證憑書トナルヘキ書類ハ平素科目毎ニ編綴シ何時提出ヲ命セラルルモ差支ナキ樣整理シ置クコト

六　證憑書ハ增減各區分毎ニ界紙ヲ挿入シ金額ヲ記載スルコト

七、八　（省略）

第五節　參考事項　（省略）

歲入ノ增減事由ヲ知悉シ其ノ適否ヲ判定スルト共ニ將來ノ對策ニ對スル資料ニ供スル必要アルヲ以テ翌年度六月十日迄ニ歲入增減計算書及之ガ內譯書竝增減事由表ヲ添附提出スベキ旨昭和二年七月專庶第四二一號ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

歲入增減計算書提出方ノ件（昭和二年七月二日專庶第四二一號支局長直轄出張所長宛　庶務課長）

昭和元年度以降左記樣式ニ依リ歲入增減計算書（內譯書及增減事由表ヲ添附ス）作成翌年度六月十日限リ御提出相成度候也

追書省略

樣式ノ甲

昭和何年度歲入增減計算書　（△印ハ朱書）

科目	豫算額	調定濟額	收入濟額	不納缺損額	翌年度へ繰越額	豫算額ニ對シ調定增△減	豫算額ニ對シ收入濟額增△減
歳入經常部	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
款　官業及官有財産收入							
項　專賣收入							
目　煙草收入							
目　蔘業收入							
目　鹽業收入							
項　官有物貸下料							
目　官有物貸下料							
土地							
家屋							
款　雜收入							
項　雜收入							
目　官有物拂下代							
目　辨償及違約金							
目　懲罰及沒收金							
目　小切手支拂未濟金收入							
目　雜入							
過誤拂返納金							
預金利子其他雜收							
經常部計							

備考　科目ハ凡例ヲ示シタルモノナルヲ以テ實際取扱ノ科目細別ニ依リ經常部、臨時部ニ區別掲上シ遺漏ナキヲ要ス

樣式ノ乙

昭和何年度歳入增減計算書内譯書

科目	調定濟額		收入濟額		不納缺損額		翌年度へ繰越額	
	本年度調定	前年度調定	本年度調定	前年度調定	本年度調定	前年度調定	本年度調定	前年度調定
歳入、、部	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
（款）何								
（項）何								
（目）何								
細別（何）								
以下此例ニ倣フ								

樣式ノ丙

昭和何年度歳入增減事由表　（減ハ朱書、細別毎ニ別紙ニ調製スヘシ）

科目（細別）	事由	金額	摘要
何	調定濟增減△減ノ部 前年度調定繰越額 調定外誤納額 調定内誤納額 豫算額ニ對スル增 何々	圓	何々ニ依ル（又ハ別紙説明書參照）

々	計增	
	豫算額ニ對スル減	何々ニ依ル（又ハ別紙說明書參照）
	何々	
	計減	
	差引增（又ハ△減）	（本欄金額ハ甲表ノ豫算額ニ對シ調定增（減）額ニ符合スルヲ要ス）
收入	收入濟額增△減ノ部	
	缺損額	時效完成（又ハ何々）ニ依ル
	翌年度ヘ繰越額	何々ニ依ル
	貸付金ヘ編入額	何々ニ依ル
	何々	
	計△減	
	再差引增（又ハ△減）	（本欄金額ハ甲表ノ豫算額ニ對シ收入濟額（減）額ニ符合スルヲ要ス）

備考　樣式ハ一部ノ例ニシテ其ノ大要ヲ示シタルモノナルヲ以テ其ノ科目及事由ノ異ナル毎ニ各別ニ掲載シ摘要ハ可成詳細ニシテ遺漏ナキヲ要ス

昭和二年五月官通牒第二五號ヲ以テ計算證明上指定竝省略ニ關スル件中改正セラレタル結果歲入徵收額計算書及同添附書類等ノ調理方ニ關シ昭和二年八月官通牒第四七號ヲ以テ財務局長ヨリ左ノ如ク通牒セラレタリ

計算證明上指定竝省略ニ關スル件（昭和二年八月二十五日官通第四七號　歲入徵收官宛　財務局長）

昭和二年五月九日官通牒第二五號ヲ以テ大正十二年四月官通牒第三七號首題ノ件改正セラレ昭和二年度ヨリ實施相成候ニ付テハ左記各項御留意ノ上證明上遺漏ナキヲ期セラレ度此段及通牒候也

記

一　歲入徵收額計算書（以下單ニ計算書ト稱ス）表紙ニ「何年何月分（自何年　月　至何年　月）」トアルハ「第何期分（自何年　月　至何年　月）」ト記載スルコト

二　計算書中「本月分、本月迄累計」ノ欄ハ「本回分、本回迄累計」ト記載スルコト

三　計算書中、收入（出納）官吏現金領收額、收入濟額ト日本銀行領收濟額トノ對照、收入未濟額內譯ハ最終ノ計算書ニ之ヲ附スルコト

四　日本銀行月計突合表謄本ハ左記樣式ニ依リ調製シ各期毎計算書ノ末尾ニ編綴提出ノコト但シ最終ノ計算書ニ添附スヘキ右謄本ハ大正十五年一月官通牒第三號ニ示シタル書式ニ依ルコト

樣式

昭和　年度自　月　至　月日本銀行月計突合表

一金　圓　錢也

右謄本也

年　月　日

何々歲入徵收官　氏　名㊞

備考　第一期分ハ自四月至九月分迄ノ累計金額第二期分ハ第一、二期分ノ累計金ヲ記載スルコト

五　第一期第二期分計算書ノ收入濟額本回迄累計ト其ノ期ニ於ケル日本銀行月計突合表金額ト符合セサル場合ハ其ノ差額竝差額ヲ生シタル事由ヲ計算書備考欄ニ記載スルコト

六　計算書ノ附屬明細書竝證憑書代用明細書（關稅、噸稅、出港稅、稅關雜收入ヲ除ク）ハ最終ノ計算書ニ添附提出スルコト

七　證憑書類ハ毎期毎ニ計算書ニ添附提出スルコト

八　昭和二年度證明上租稅ニ關スル證憑書類ハ大正十五年度指定ノ通トス（昭和二年三月三十日官通牒第一一號參照）

煙草小賣人ニ賣渡シタル製造煙草代金ノ歲入證憑書ハ賣渡傳票ヲ提出スベキモノナルモ該傳票

ハ其ノ數莫大ニ上リ相互ニ煩雜ナルノミナラズ一面販賣督勵上重要ノ資料トシテ保存ヲ要スルヲ以テ煙草日計表ヲ以テ代用スルコトニ本府ヨリ會計檢査院ニ交渉ノ結果右ノ如ク取扱フコトノ承認ヲ得タル旨昭和七年一月司第四號ヲ以テ政務總監ヨリ通牒アリタルヲ以テ同年二月專庶第一〇〇號ヲ以テ左ノ如ク各支局長ニ通牒セリ

製造煙草賣拂代金證憑書類省略ニ關スル件（昭和七年二月專庶第一〇〇號　支局長宛　庶務課長）

計算證明規程第十一條第一項第一號ノ規定ニ依リ歳入證憑書トシテ提出ヲ要スヘキ煙草賣渡傳票ハ其ノ紙數多キ爲便宜省略シ煙草賣渡日計表ヲ以テ之ニ代ヘ來リタル處今回會計檢査院ノ承認ヲ經更ニ左記ノ通取扱ヲ改メタルニ付昭和七年一月分ヨリ右ニ御處理相成タシ

追テ自七月至十二月分ニ對シテハ別ニ月計表及集計表ヲ右月別ニ作成折返シ御提出アリタシ

記

一　煙草賣渡日計表ハ販賣所毎ニ日附順ニ取纏メ之ニ各別紙第一號樣式ノ月計表ヲ添附シ第二號樣式ノ界紙ヲ以テ他ノ販賣所ノ分ト區分スルコト

二　歳入徴收官ハ前項ニ依リ取纏メタル證憑書ニ別紙第三號樣式ノ集計表ヲ添附シ第四號樣式ノ界紙ヲ以テ他ノ歳入證憑書ト區分スルコト

（別紙）（第一號樣式）

昭和　年度　月分

煙算賣渡月計表

何販賣所

名稱	裏分包區	數量		代金	
		盒	包	圓	
敷島					
朝日					
松風					
計					
ジーシーシー					
コンゴウ					
カイダ					
ヒジヨン					
マコー					
メープル					
牡丹					
計					
水府					
白梅					
さづき					
あやめ					
不老煙					
長壽煙大					
同小					
鷲煙大					
同小					
福煙					
計					
合計					
外ニ風位切捨額					

（第二號樣式）

一金　　也

何販賣所

分任收入官吏　何　　某　扱

備考　分任收入官吏月ノ途中ニ於テ交替シタルトキハ左記ノ通記載シ月計表ハ各別ニ作成ヲ要セス

記

一金　　也　　何　販　賣　所

內　譯

金　　也

取扱期間　自　月　日　前任分任收入官吏　何　　某　扱

至　月　日

金　　也

取扱期間　自　月　日　後任分任收入官吏　何　　某　扱

至　月　日

（第三號樣式）

何年度何月分製造煙草賣渡代金集計表

販賣所名	金額	備考
何々	圓	
小計		
何々		
小計		
合計		

備考　販賣監督官署毎ニ小計ヲ附スルコト

（第四號樣式）

一金　　也　　製造煙草賣渡代金

最終歲入徵收額計算書ニ於テ證明スベキ收入未濟額內譯記載方ニ關シ昭和九年一月官通牒第三號ヲ以テ財務局長ヨリ左ノ如ク通牒セラレタリ

歲入徵收額計算書ニ關スル件（昭和九年一月二十九日官通牒第三號　歲入徵收官宛　財務局長）

最終歲入徵收額計算書ニ於テ證明スベキ收入未濟額內譯（計算證明規程第一號書式）ニハ從來前年度收入未濟翌年度繰越額ノミ記載シ當該年度收入未濟額ノ揭記ヲ省略セル向アルモ右ハ全部記載ヲ要スベク尙同內譯備考欄收入未濟事由ハ洩ナク記載ヲ要スベキ儀ニ付昭和八年度分ヨリ御實行相成タシ

第二款　收入證明

收入證明ハ收入官吏ヨリ會計檢査院ニ對スル證明ナリ前款ト異ナル點ハ前款ハ歲入徵收官ヨリ證明スルモノナルガ本款ハ出納官吏タル收入官吏一箇ノ責任ヲ以テ證明スルニ在リ而シテ本證明モ計算證明規程ニ依リ提出スルモノトス該規程中收入證明ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ但シ第一章總則ハ前款ニ揭ゲタルヲ以テ之ヲ省略セリ以下各款亦同シ又計算證明規程第六章第一節通則中ニハ歲入歲出外現金出納計算書ニ關スル事項ヲモ併セ規定シアルヲ以テ便宜本款ニ併錄セリ

計算證明規程中拔萃（大正十一年三月會計檢査院達第一號　其ノ後改正セラル　昭和十年三月末日現在）

第六章　現金出納

第一節　通則

第五十條　收入官吏ハ第七號書式、歲入歲出外現金出納官吏ハ第八號書式縒若ハ拂出納官吏ハ第九號書式ニ依リ現金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ提出スヘシ

一　月證明ニ屬スルモノハ翌月十五日限

二　年證明ニ屬スルモノハ年度經過後若ハ出納官吏及出納員交替後三十日限

第五十一條　現金出納計算書ニハ會計規則第百三十八條ニ依ル檢定書ヲ添附スヘシ出納官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之カ證明ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期ヲ記載スヘシ

第五十二條　證憑書類ハ所屬年度毎ニ受入拂出ニ大別シ適宜區分編纂シテ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ

第二節　收入金

第五十三條　收入官吏ノ調製スヘキ收入金現金出納計算書ハ毎年度之ヲ提出スヘシ

第五十四條　左ノ事項ハ收入金現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ記明書ヲ添附スヘシ

一　現金ヲ亡失シ又ハ缺損補塡ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由

二　會計規則第百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

三　拂込未濟ノモノ又ハ後任官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第五十五條　證憑書トシテ提出スヘキモノハ日本銀行又ハ他ノ出納官吏ノ領收證書トス

（書式省略）

本府會計事務章程中ニ收入金現金出納計算書ニ關シ規定シアリ該規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月本府訓令第四二號　其ノ後屢次改正セラル　昭和十年三月末日現在）

第二百二十八條　收入官吏ハ計算證明規定ニ依リ收入金現金出納計算書ヲ調製シ翌年度四月十五日限歲入徵收官ヲ經テ之ヲ本府ニ提出スヘシ

收入官吏交替シタルトキハ交替後十五日內ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二百二十九條　分任收入官吏ハ主任收入官吏ニ準シ收入金現金出納計算書ヲ作リ證憑書類ヲ添ヘ翌年度四月十日迄ニ主任收入官吏ニ送付スヘシ

主任收入官吏前項ノ計算書ヲ受ケタルトキハ自己ノ計算書ニ併算シテ證明ノ手續ヲ爲スヘシ

前款ニ揭ゲタルガ如ク大正十五年一月官通牒第三號ヲ以テ計算證明書類調理上注意ノ件政務總監ヨリ通牒セラレタリ該通牒中收入金現金出納計算書ニ關スル事項ヲ拔萃スレバ左ノ如シ但シ第四章第一節通則ハ歲入歲出外現金出納計算書ト併セ規定シアルヲ以テ便宜本款ニ併錄セリ

證明書類調理上注意ノ件（大正十五年一月官通牒第三號）

第四章　收入金　現金出納計算書

歲入歲出外現金出納計算書

第五編　會　計　第四章　國庫金出納機關及證明　一五〇五

第一節　通則

一　收入官吏、歲入歲出外現金出納官吏ニ於テ證明スル收入金現金出納計算書、歲入歲出外現金出納計算書（以下單ニ計算書ト稱ス）ハ左記提出期限ヲ格守スルコト

記

イ　收入金

一　翌年度四月十五日限リ歲入徵收官ヲ經テ本府ニ提出スルコト

二　收入官吏交替シタル場合ハ交替後十五日内ニ歲入徵收官ヲ經テ本府ニ提出スルコト

ロ　歲入歲出外現金

一　翌年度四月十五日限リ其ノ庶ノ長ヲ經テ本府ニ提出スルコト

二　出納官吏交替シタルトキハ遲滯ナク前號ノ手續チナスコト

二　分任收入官吏ハ主任收入官吏ニ準シ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌年四月十日迄ニ主任收入官吏ニ送付シ主任收入官吏右計算書ヲ受理シタルトキハ自己ノ計算書ニ併算シ證明スルコト

三　管理期間中取扱事項ナキトキハ左記書式ノ皆無報告ヲ調製シ必ス期限内ニ提出スルコト

書式（省略）

四　計算書、取扱皆無報告書ニハ會計規則第百三十八條ニ依ル檢定書壹通（本府會計事務章程書式ノ部第六十二號書式甲、乙ナリ）ヲ必ス添附提出スルコト

五　檢定書ハ「ヒン」又ハ棚ヲ以テ添附スルハ脫落ノ虞アルニ依リ必ス計算書又ハ取扱皆無報告書ニ綴リ込ムコト

六　管理期間最終ノ日ト檢定書ノ日付トハ必ス一致スヘキモノニ付彼此必ス對査ノコト

七　出納官吏交替シ連名ヲ以テ證明スル場合ハ計算書表紙ニ各自ノ管理期間、計算書備考欄ニ後任官吏ニ引繼タル金額ヲ必ス記載スルコト

八　計算書所揭金額又ハ管理期間等ニシテ前年度又ハ前任官吏證明ノ計算書ニ關聯セル點ハ必ス之カ對査ヲ行フコト

九　計算書表紙ニハ「大正　年度」ノ次ニ管理期間ヲ洩ラササル樣記載スルコト

第二節　計算書ニ關スル事項

一　收入金

一　一般會計、特別會計ノ計算書ハ之ヲ別冊ト爲サス所定書式ニ從ヒ一冊ヲ以テ證明ノコト

二　計算書ハ每會計年度ヲ以テ區分即チ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ收入シタル額ヲ證明スヘキモノナルニ計算書ノ會計年度ト歲入金ノ會計年度トヲ混同シ收入金ノ證明區分ヲ誤ルモノアリ例セハ大正十四年度計算書ハ大正十四年四月一日ヨリ大正十五年三月三十一日迄ニ收入シタル金額ヲ證明スヘキモノナルニ大正十五年四月ニ至リ大正十四年度所屬歲入金ヲ領收シタル場合其ノ年度カ計算書ノ年度ト同一ナルカ故ヲ以テ當該金額ヲ大正十四年度ノ計算書ニ併算證明スルカ如シ

右ハ假令大正十四年度所屬歲入金ナリト雖大正十五年四月一日以降ニ於テ領收シタル金額ハ大正十五年度ノ計算書ヲ以テ證明ヲ爲スヘキコト

三　前任官吏ヨリ引繼ヲ受ケタル額ハ「前年度拂込未濟額」ノ欄ニ揭記スヘキモノニアラス「本年度領收濟額」欄ニ併算シ其ノ金額事由ヲ備考ニ附記スルコト

二　（省略）

第三節　證憑書ニ關スル事項

一　收入金現金出納計算書ノ證憑書

一　證憑書類ハ所屬年度每ニ適宜區分編纂シテ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載スルコト

二　證憑書類全部ヲ一冊ニ編纂スル場合ハ所屬年度ヲ區分スル爲界紙ヲ挿入シ表紙ニハ金額、紙數ヲ記載スルコト

表紙、界紙記載例（省略）

三　證憑書ノ紙數ハ表紙、界紙ヲ除ク一切ノ證憑書類ヲ一枚每ニ計算スルコト

四　證憑書トシテ提出スヘキ日本銀行又ハ他ノ出納官吏ノ領收證書ハ必ス月別日付順ニ編纂スルコト歲入科目別ニ區分スルニ及ハス

第三款　支出證明

支出證明トハ各廳支出官ヨリ會計檢査院ニ對シ其ノ支出ノ實蹟ヲ證明スルモノナリ而シテ本證明モ計算證明規程ニ依リ提出スルモノナリ該規程中本證明ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ但シ第一節通則ハ仕拂證明ト併セ規定シアルヲ以テ便宜本款ニ併錄セリ

計算證明規程中拔萃（大正十一年三月會計檢査院達第一號　其ノ後改正セラルル昭和十年三月本日現在）

第三章　歲　出

第一節　通　則

第十八條　支出官ハ第二號書式ニ依リ毎月支出計算書ヲ資金前渡官吏ハ第三號書式ニ依リ毎月前渡資金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日限之ヲ提出スヘシ但シ會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ年一回又數回ニ提出スルコトヲ得

資金前渡官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之カ證明ヲ爲スコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期ヲ記載スヘシ

第十九條　資金前渡官吏ノ分任官ニシテ特ニ計算ヲ證明スルトキハ主任官ヲ經由スヘシ

第二十條　證憑書類ハ各目ニ區分編纂シテ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載シ概算拂ニ係ルモノアルトキハ其ノ金額ヲ附記スヘシ但シ各目ニ區分シ難キモノハ其ノ關係書類ト共ニ區分編纂シ各目仕譯書ヲ添附スヘシ

概算拂ニ對スル精算證書ハ別ニ之ヲ編纂シ各目ニ區分スヘシ

資金前渡官吏ノ支拂ニ關シ領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ其ノ金額ヲ證憑書ノ表紙ニ附記シ爾後到達ニ從ヒ支拂ノ月ヲ以テ區分スヘシ

資金前渡官吏ノ分任官ノ取扱ニ係ル證憑書ハ別ニ之ヲ編纂シ其ノ各目金額、紙數及官氏名ヲ表紙ニ記載スヘシ

第二十一條　左ノ事項ハ支出計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ說明書ヲ添附スヘシ

一　年度、科目其ノ他ノ更正若ハ定額戻入ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由

二　誤拂、過渡其ノ他ノ返納ニ依リ歲入ニ編入スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由

第二十二條　受拂勘定ヲ爲スヘキ特別會計ニ屬スル最終支出計算書ニハ左ニ揭ケル書類ヲ添附スヘシ其ノ他ノ特別會計ニ在リテハ別ニ之ヲ指定ス

一　受拂勘定表竝物品會計官吏毎ニ區分シタル物品價格受拂仕譯書

二　年度末日計算表

三　固定資本價格增減表竝其ノ評價書類

四　物品ノ價格ヲ評定シ又ハ改定シタルモノアルトキハ毎件其ノ金額事由調書

五　支出未濟ニシテ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ毎件其ノ金額事由

六　代價收入濟ニシテ物品未渡ニ係ルモノ又ハ代價支出濟ニシテ物品未收ニ係ルモノアルトキハ毎件其ノ金額事由調書

七　既往年度代價收入濟ニ係ル物品ノ拂出ヲ爲シタルモノアルトキハ毎件其ノ數量金額事由調書

八　實渡代價確定未濟ニシテ物品ノ拂出ヲ爲シタルモノアルトキハ毎件其ノ數量金額事由調書

第二十三條　最終支出計算書提出ノ際概算拂、資金前渡ノ精算ニ至ラサルモノ、前金拂ニ係ル工事、製造又ハ物件ノ買入若ハ運送ニシテ完了ニ至ラサルモノ、年度、科目其ノ他ノ誤謬ニシテ處分未濟ニ係ルモノアルトキハ其ノ事由及完結スヘキ期限ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

最終支出計算書提出ノ後年度科目其ノ他ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ

前各項ノ事項ハ完結ニ從ヒ其ノ證憑書ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ

第二十四條　證憑書トシテ提出スヘキモノハ領收證書、請求書、契約書等支出ノ所由竝計算ノ基ク所ヲ證明スヘキ書類ト

ス但シ事ノ簡明ナルモノニ付テハ會計檢査院ノ承認ヲ經テ仕譯書、簿册又ハ證明書ヲ以テ代用スルコトヲ得

隔地者ニ支拂ノ爲日本銀行ニ資金ヲ交付シタル場合ニ在リテハ日本銀行ノ領收證書ヲ提出スヘシ

領收證書ニハ小切手ノ番號ヲ附記スヘシ

會計規則第八十七條第五號ニ依リ契約書ノ作成ヲ省略シタルモノハ其ノ事由ヲ證憑書ニ附記スヘシ

第二十五條　俸給其ノ他一定ノ給與ニシテ給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其ノ事由及年月日ヲ證憑書ニ附記スヘシ

年金又ハ恩給ノ領收證書ニハ年額及受領者ノ資格ヲ示シ遺族ノ受領ニ係ルモノハ其ノ權利ノ起因ヲ附記スヘシ

第二十六條　旅費ノ領收證書若ハ精算證書ニハ其ノ用務及旅行ノ年月日、日數、路程、汽車汽船賃、宿泊地等ヲ記載シタル仕譯書ヲ添附スヘシ但シ領收證書ハ精算證書ニ附記シテ仕譯書ヲ省略スルコトヲ得

旅行中迂路ヲ經過セシモノ、病氣滯在其ノ他ノ事故ニ因リ特ニ日數ヲ要シタルモノ又ハ實費拂ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第二十七條　渡切經費ニ付テハ最初支出證明ノ際其ノ領收證書ニ支給額決定ノ基礎ヲ明ニシタル仕譯書ヲ添附スヘシ

爾後支給額ヲ增減シタルトキ亦同シ

會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ前項ノ仕譯書ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條　工事、製造及物件ノ買入、借入其ノ他ノ契約ニ付一般競爭ニ付シタルモノハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　契約ニ關スル決議書類

二　公告書案但シ公告ノ方法及公告期間ヲ短縮シタルモノハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

三　豫定價格調書及其ノ算出ノ基礎ヲ示セル書類

四　一番札ヨリ五番札ニ至ル入札書

前項ノ規定ハ指名競爭ニ付シタル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十九條　競爭ニ付スルモ入札者ナク若ハ落札者ナク若ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナク若ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ競爭ニ付シタルトキハ前回ノ競爭ニ關スル書類若ハ其ノ概要ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ隨意契約ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ證憑書ニ附記シ尙競爭ニ關スル書類ヲ添附スヘシ

第三十條　五千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ三千圓ヲ超ユル財產ノ買入、借入及二千圓ヲ超ユル其ノ他ノ契約ニシテ一般競爭ニ付セルモノハ決議書類ヲ添附シ其ノ適用シタル法令ノ條項ヲ證憑書ニ附記シ尙會計規則第百十四條第一項第十九號及第二十二號ニ依リ隨意契約ヲ爲シタルモノハ其ノ必要トセル事由ヲ證憑書ニ附記スヘシ

第三十一條　豫定年額又ハ總額貳千圓ヲ超ユル物件ノ買入、運送及勞力供給ノ請負等ニ關シ單價契約ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ契約書類ヲ最初支出證明ノ際ニ提出シ爾後支出ヲ爲シタルトキハ領收證書ニ契約書類提出ノ年月ヲ附記スヘシ

第三十二條　貳千圓ヲ超ユル工事、製造及物件ノ買入、借入其ノ他ノ契約ニシテ變更解除又ハ違約處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ關係書類ヲ提出スヘシ

第三十三條　三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ關スル領收證書ニハ會計規則第九十二條第一項ニ依リ監督又ハ檢査シタル官吏若ハ技術者ノ作リタル調書ヲ添附スヘシ但シ物品ニ付テハ證憑書ニ檢收濟ノ年月日ヲ附記シ調書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

工事製造ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ヒタルモノハ其ノ領收證書ニ會計規則第九十二條第二項ニ依リ檢査官吏又ハ技術者ノ作リタル調書ヲ添附スヘシ

前項ノ部分拂ニシテ第二回以降ノ支拂ニ係ルモノナルトキハ前支拂ノ年月ヲ附記スヘシ

前各項ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條　總價額五千圓ヲ超ユル直營工事ニ付テハ最初支出證明ノ際起工ニ關スル決議書類、設計書、仕譯書、圖面及其ノ附屬書類ヲ提出シ設計ヲ變更シタルトキハ其ノ書類ヲ提出スヘシ

直營工事竣功シタルトキハ竣功報告書ヲ調製シ竣功後一箇月以內ニ提出スヘシ但シ二箇年度以上ニ亙ル工事ニ在リテハ當該年度內ニ於ケル既濟ノ部分ニ付竣功報告書ヲ調製シ最終支出計算書ニ添附スヘシ

竣功報告書ヲ提出スヘキ工事及其ノ報告書ノ樣式ハ別ニ之ヲ指定ス

第三十五條　直督ニ係ル製造其ノ他ノ作業ニ關シテハ會計檢查院ノ指定ニ從ヒ事業成績書ヲ調製シ最終支出計算書ニ添附スヘシ

第三十六條　請負ニ付シタル工事、製造等ニ付材料ヲ官給シ又ハ代價ヲ支拂ハスシテ物件勞力ヲ使用シタルトキハ其ノ種類、員數及價格ヲ記載シタル仕譯書ヲ證憑書ニ添附スヘシ但シ證憑書ニ附記シテ仕譯書ヲ省略スルコトヲ得

第三十七條　一工事ニシテ數廻ニ分ヲ起工スルモノニ在リテハ最初支出證明ノ際大體ニ關スル計畫書若ハ目論見書ヲ提出スヘシ

第三十八條　國有財產ヲ取得シタルトキハ之ニ對スル支出ノ證憑書ニ國有財產臺帳登錄濟ノ年月日、物品ヲ取得シタルトキ又ハ運送ヲ爲サシメタルトキハ之ニ對スル支出ノ證憑書ニ物品出納簿登記濟又ハ運送濟ノ年月日ヲ記載シ其ノ物品出納簿ニ登記シ難キモノハ受領濟ノ年月日ヲ記載スヘシ但シ前金拂又ハ概算拂ニ係ルモノハ其ノ完結スヘキ期限ヲ附記スヘシ

第三十九條　諸拂戻金、缺損補塡金、償還金ノ類ハ其ノ證憑書ニ支出ヲ要スル事由及事實ノ生シタル年月日ヲ記載スルノ外之カ支出ノ決定ヲ爲シタル年月日ヲ附記スヘシ

（書式省略）

本府會計事務章程中ニ支出計算書ニ關シ規定シアリ該規程ヲ拔萃スレハ左ノ如シ

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月本府訓令第四二號　其ノ後屢次改正セラル）（昭和十年三月末日現在）

第百二條　計算證明規程第二十三條ノ調書及報告書ハ第二百三十條　支出官ハ計算證明規程ニ依リ毎月支出計算書ヲ作リ證憑書類ヲ添ヘ翌月十日迄ニ本府ニ提出スヘシ最終支出計算書ハ總括ノ部ニ限リ副本ヲ添附スヘシ

第二十四號書式ノ甲

昭和何年度最終支出計算書提出ノ際前渡資金出納計算書

概算拂ヲ爲シタル年月	支出科目	金額	完結期限	官職氏名	事由
	款				
	項				
	目				

右ノ通ニ候也

年　月　日

何廳支出官官氏名印

（資金前渡官吏官氏名印）

第二十四號書式ノ乙

昭和何年度最終支出計算書提出ノ際前渡資金未精算調書

未精算額	完結期限	資金前渡官吏官氏名	事由

右ノ通ニ候也

年　月　日

何廳支出官官氏名印

第二十四號書式ノ丙

昭和何年度最終支出計算書（最終前渡資金出納計算書）提出ノ際前金拂未完了調書

前金拂ヲ爲シタル年月	支出科目 款	支出科目 項目	金額	期限	債主(官職)氏名	事由

右ノ通ニ候也

年　月　日

何廳支出官官氏名印
(資金前渡官吏官氏名印)

備考　工事製造及物件ノ買入ニ付テハ官公署ニ對シ支拂タル經費ニ限ル

第二十五號書式

昭和何年度最終支出計算書(最終前渡資金出納計算書)
提出ノ際年度科目其他誤謬未處分調書

支出科目 款	支出科目 項目	誤謬事項	金額	完結期限	債主氏名	事由
		年度違				
		科目違				
		誤拂				
		過渡				

右ノ通ニ候也

年　月　日

何廳支出官官氏名印
(資金前渡官吏官氏名印)

第二十六號書式

昭和何年度最終前渡資金出納計算書提出ノ際領收證書
未到達及支拂殘額返納未了調書

支出科目 款	支出科目 項目	整理ヲ要スル事項	金額	完結期限	債主氏名	事由
		領收證書未到達				
		支拂殘額返納未了				

右ノ通ニ候也

年　月　日

何廳資金前渡官吏　官　氏　名印

第二十七號書式

昭和何年度最終支出計算書(最終前渡資金出納計算書)
提出ノ際概算拂未精算完結報告書

概算拂額	精算額			官職氏名	精算年月日
	支拂額	歲入納付			
■	■	■			

右別冊證憑書ヲ添ヘ報告候也

年　月　日

何廳支出官官氏名印

（資金前渡官吏官氏名印）

會計檢査院長宛

第二十八號書式ノ甲

昭和何年度最終支出計算書提出ノ際前渡資金未精算完納報告

未精算額	歲入納付額	資金前渡官吏官氏名	完結年月日
■	■		

右別冊證憑書ヲ添ヘ報告候也

年　月　日

何廳支出官　官　氏　名印

會計檢査院長宛

第二十八號書式ノ乙

昭和何年度最終支出計算書（最終前渡資金出納計算書）

提出ノ際前金拂未完了完結報告書

前金拂額	前金拂ヲ爲シタル目的	債主（官職）氏名	完了年月日
■	何何運賃		
	何何工事費		

右及報告候也

年　月　日

何廳支出官官氏名印

（資金前渡官吏官氏名印）

會計檢査院長宛

第二十八號書式ノ丙

昭和何年度最終支出計算書（最終前渡資金出納計算書）

提出ノ際年度、科目其他誤謬未處分完結報告書

支出科目		誤謬事項	金額	債主氏名	完結年月日	備考
款	項	年度違	■			何年度ニ更正

			科目違				何款何項何目ニ更正
			誤拂				歳入納付
			過渡				過渡額何圓歳入納付

右別册證憑書ヲ添ヘ報告候也

年　月　日

何廳支出官官氏名印
(資金前渡官吏官氏名印)

會計檢査院長宛

第二十九號書式

昭和何年度最終前渡資金出納計算書提出ノ際領收書
未到達及支拂殘額返納未了完結報告書

支出科目 款	項	目	整理事項	金額		債主氏名	完了年月日
			領收證書未到達	圓			
			支拂殘額返納未了				

右別册證憑書ヲ添ヘ報告候也

年　月　日

何廳資金前渡官吏　官　氏　名印

會計檢査院長宛

局會計事務取扱規程中ニ計算證明規程ニ依リ提出スル支出證憑書ニ關シ規定シアリ之ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

局會計事務取扱規程中拔萃(大正十年十月局訓令第一八號　改正大正十一年三月局訓令第六號)

第十章　帳簿及證明

第百六十四條　計算證明規程ニ依リ提出スル證憑書ハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ

一　葉煙草ノ賠償金ニ對スル證憑書ハ第三十八號樣式ノ證明書ニ日計表(葉煙草收納事務取扱順序ニ依リ調製シタルモノ)ヲ添附スヘシ但シ此ノ場合ニ於テ債權者ノ領收書ハ別ニ編綴整理シ會計檢査院ノ指定アリタルトキ提出スヘシ

二　煙草賣捌規則第二十九條第二項及第三十條第二項ニ因リ買戻煙草ニ對シ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除シテ賣渡代金ヲ拂戻シタルモノナルトキハ檢査官吏ノ證明書ヲ添附スヘシ

三　煙草賣捌規則第二十四條ニ依リ引替ヲ爲シタルモノハ當初賣渡シタル年月日及其ノ官署名ヲ證憑書ニ附記スヘシ

四　宿直賄料ノ證憑書ニハ宿直ヲ爲シタル月別、回數、一夜當單價、金額、官職氏名等ヲ記入シ宿直ヲ爲シタル日ハ記入ヲ要セス

五　工場ノ職工日給及工賃ニシテ職工勤務點檢簿ニ依ルモノハ各人別內譯ヲ省略シ內譯ハ職工勤務點檢簿ノ通ト記入スルコトヲ得

六　金庫領收證ノ各目ニ關聯スルモノハ之ヲ別綴トシ證憑書ニハ「金庫領收證書ハ別册第何號ノ內證第何號」ト記載シ其ノ連絡ヲ明ニスヘシ

七　契約書又ハ原本ヲ提出シ難キ證憑書ハ主務者ニ於テ「原本ニ依リ謄寫ス」ト記載シ署名捺印シタル謄本ヲ作リ添附スヘシ

第百六十五條　支出又ハ仕拂計算書及證憑書ハ總テ袋綴ト爲シ之ニ契印スヘシ
第百六十六條　會計檢查院ニ提出シタル證憑書ニシテ保存ノ必要アルモノハ謄メ其ノ返付ヲ要求スヘシ
第百六十七條　現業員共濟組合ノ收支計算書ハ各支局ニ於テ之ヲ調製シ第三十九號樣式ノ保證書ヲ添附シ本局ニ送付スヘシ
（樣式省略）

局ニ於ケル職工ノ給料竝工賃ノ支出ニ對スル證憑書ノ省略ノ件ニ關シ會計檢查院ノ承認ヲ得タル旨ヲ以テ大正十年五月本府庶務部長ヨリ左ノ如ク通牒アリタリ

支出證憑書省略ニ關スル件（大正十年五年二十日）（庶務部長通知）

首題ノ件左記ノ通會計檢查院ノ承認ヲ得候條此段及通知候也

左記

一　本府專賣局ニ於テ職工ノ給料及工賃ノ支出ヲ證明スル場合ニ於テ別紙職工勤務點檢簿ニ依ルモノハ內地專賣局ノ例ニ倣ヒ各分業別ニ給領人員及出來高ノ集計ヲ表ハシタル仕譯書ヲ以テ證明シ各人別內譯ハ提出ヲ省略スルコト

二　本府專賣局ニ於ケル葉煙草賠償金ノ支出ニ付テハ收納當日集計シタル葉煙草ノ各等級別數量及賠償金額ヲ表シタル仕譯書ヲ以テ證明シ各人別領收書ハ提出ヲ省略スルコト

三　前二項ノ場合ニ於テ御院ヨリ點檢簿又ハ領收書ノ提出ヲ指定セラレタルトキハ直ニ之ヲ提出シ御檢了ノ上ハ返付ヲ受クルコト

（別紙省略）

會計檢查院長ヨリ各廳ノ證明ニ關シ指定及承認セラレタル旨大正十二年四月官通牒第三七號ヲ以テ政務總監ヨリ通牒セラレタリ該通牒中支出證明ニ關スル事項ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

計算證明上指定竝省略ニ關スル件（大正十二年四月其ノ後改正セラル官通牒第三七號昭和十年三月末日現在）

大正十二年度以降本府所管各廳ノ證明ニ關シ會計檢查院長ヨリ左記ノ通指定竝承認相成候條右ニ依リ御取扱相成度及通牒候也

記

指定事項

一乃至三省略
四　削除
五　計算證明規程第三十四條ニ依リ提出スヘキ竣功報告書左ノ如シ（其ノ樣式別紙ノ通）
（一）營繕及土木工事ハ一廉一萬圓以上
（二）省略
六　同條三十五條ニ依リ最終支出計算書ニ事業成績書ノ添附ヲ要スル事業左ノ如シ
（一）及（二）省略
（三）專賣事業
（四）及（五）省略
（三）（四）（五）ハ別紙樣式ニ依ル收支計算表ノ外資本ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ種類別增減竝現在額ヲ示シタル調書及事業ノ狀況ヲ明ニシタル事業成績書

承認事項

一及二省略
三　同第二十七條渡切經費ニ就テハ仕譯書ヲ省略シ科目及箇所別調書ヲ提出ノコト
（樣式省略）

第一款ニ揭ゲタルガ如ク大正十五年一月官通牒第三號ヲ以テ證明書類調理上注意ノ件政務總監ヨリ通牒セラレタリ該通牒中支出證明ニ關スル事項ヲ拔萃スレバ左ノ如シ但シ第一節計算書ニ關

スル事項一通則及第二節證憑書ニ關スル事項一通則ハ仕拂證明ニ關スル事項ト併セ定メアルヲ以テ便宜本款ニ併錄セリ

證明書類調理上注意ノ件中拔萃（大正十五年一月　官通牒第三號）

第三章　支出前渡資金出納計算書

第一節　計算書ニ關スル事項

一　通　則

一　計算書本月支出額又ハ本月(期)支拂額ハ證憑書類各目界紙記載ノ金額ト必ス符合スルモノナルコト

二　計算書前月(期)迄支出額又ハ支拂額ハ前月(期)分ト對照符合ヲ確メテ提出スルコト

三　計算書ハ經常部、臨時部及各款ヲ通シ一冊ニ調製ノコト

四　前渡資金出納計算書ニ添附スル檢定書ハ脫落ノ慮アルニ限リ必ス計算書ニ綴リ込ミ「ヒン」又ハ糊等ヲ以テ添附セサルコト

五　出納官吏期間最終ノ日ト檢定書ノ日付トハ必ス一致スヘキモノニ付彼此對査ヲ行フコト

六　計算書又證憑書ハ直接會計檢査院ニ送付セス會計事務章程第二百三十條及第二百三十一條所定ノ期限內卽チ月證明ハ翌日十日期證明ハ每期終了後十五日內ニ本府ニ提出スルコト

七　支出計算書及前渡資金出納計算書概算拂內譯ハ當月(期)ニ於テ概算拂ナキ場合ト雖前月期末未拂精算額アルトキハ必ス揭記ヲ要ス

八　概算拂內譯中概算額、本月概算拂額ハ當月(期)概算拂高ノ總額(其ノ月(期)精算ヲ爲シタルト否トヲ問ハス)ヲ記入スヘシ

九　同精算額ハ左記ノ通揭記スヘシ

一　支　拂　額

(1)　概算拂ニ對シ精算額多キトキ（追給ヲ要スルモノ）ハ概算拂額

(2)　概算拂ニ對シ精算額少キトキ（返納ヲ要スルモノ）ハ精算ニ依リテ確定シタル額

二　戻入額及歲入納付額

前號(2)場合ニ於テ其ノ過渡ニ係ルモノヲ處理シタル區分ニ從ヒ各其ノ欄ニ記入シ戻入額更ニ計算書支出額ノ部本月戻入額若ハ本月(期)回收額(其ノ月(期)概算拂ヲ爲シタルモノニシテ同月(期)中ニ精算回收ヲ爲シタルモノヲ除ク)欄ニ其ノ金額記入ヲ要ス

三　計ハ支拂額戻入額、歲入納付額ヲ合算シタルモノニシテ其ノ金額ヲ未拂算額ニ加ヘタルモノハ當ニ概算額、計ノ金額ニ符合スルモノトス

尙會計事務章程第四十二號書式記載例參照ノコト

（十乃至十三省略）

十四　計算書科目更正、定額戻入、歲入納付、過年度支出內譯欄ハ各處理ヲ了シタル事項ノミヲ記入スヘキモノニシテ處理未了ノモノハ記入スヘカラス

二　支出計算書

一　支出計算書ノ金額ハ支拂濟額報告書及日本銀行代理店ノ小切手支拂額計算表ト符合ヲ確ムルコト

二　同上計算書支出ノ部末尾(隔地ノ債主ニ支拂ノ爲日本銀行ニ資金交付高)必ス揭記ノコト

前渡ノ爲日本銀行ニ資金交付高及資金前渡ノ部末尾[隔地ノ出納官吏ニ資金前渡ノ部合算金額ト符合スルモノナルコト

三　會計事務章程第二百三十條第二項ニ依リ最終支出計算書ニ添附スヘキ總括ノ部ハ必ス正副二通ヲ提出ノコト

四　最終支出計算書總括ノ部支出額ト同計算書支出額ノ部及資金前渡ノ部合算金額ト符合スルモノナルコト

五　最終支出計算書總括ノ部各日ニ歲入納付シタル額又ハ納付セシムヘキ額ヲ割當記入シ尙其ノ備考ニ「內金何程何年度歲入ニ納付濟又ハ歲入ニ納付セシムヘキ分」ト記載スルコト

六　定額戻入ノ爲返納告知書ニ依リ四月中郵便局所ニ納付セルモノハ月末迄ニ日本銀行ニ拂込ヲ了セサル結果歲入トナリタルモノニ付テハ前號ノ例ニ依リ記入スルノ外尙最終支出計算書雜金前渡ノ部備考ニ其ノ事由竝金額ヲ記入スルコト

第二節　證憑書ニ關スル事項

一　通　則

一　支出計算書及前渡資金出納計算書ノ證憑書ハ大册ニ渉ラサル限リ合册スヘキモ概算拂精算證書及支出計算書委金前渡ノ證憑書ハ必ス別册ニ編纂スルコト

二　同上證憑書ハ別記記載例ノ表紙及各自區分ノ界紙ヲ附シテ科目順ニ合綴シ二册以上ノ場合ハ何册ノ内第何號ト追番號ヲ附スヘシ

三　證憑書ニ附記證明又ハ證明ヲ要スル事項ハ附箋ヲ用キス直ニ餘白ニ朱記シ主任官吏認印スヘシ

四　立替拂其ノ他正當債主ノ領收證書ヲ得難キ場合ハ當該官吏ノ請求書又ハ支拂書ニ直接事務ノ監督官吏之ニ認證ト記シテ認印スヘシ

五　領收證書ハ正當ナル受領者ノ捺印アルコトヲ要ス但シ印鑑ヲ所持セサル者ニ對シテハ其ノ正當受領者ナルコトヲ確メタル上拇印セシメ主任者其ノ事由附記ノ上證印スヘシ

六　委任狀ニ依リ代理人ニ支拂タル場合ニ於テ委任狀ヲ證明書類ニ添附セサルトキハ證明書類ニ「委任狀照合濟」ト附記シ主任者認印スヘシ

七　過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲ストキハ證憑書餘白ニ過年度支出ト附記スヘシ

八　工事ニ關スル支出ノ證憑書ニハ官有財産臺帳登記年月日ヲ記載スヘシ但シ合計事務章程第百五十二條第一號ニ該當スルモノニ在リテハ「購入ノ際直ニ消費ニ付物品出納簿ニ登記セス」ト附記スヘシ

九　工事ニ付テハ最切支出證明ノ際決議書類、設計書、仕樣書及圖面等ヲ提出シ設計變更アリタル場合ハ其ノ都度關係書類ヲ證明書類ニ添附提出ノコト

十　旅費精算書ノ官等及俸給欄ハ旅費額ノ區分ヲ知レハ足ルヲ以テ高等官ハ官等判任官ハ級俸雇託員雇員其ノ他ハ給額ノミヲ記載セシメ不要ノ部分ハ空欄トシ在勤廳又ハ住所欄ハ在職者ニ限リ在勤廳名請求者官氏名印及領收者官氏名欄ニハ何レモ事務官、屬、囑託、雇員何某ト簡明ニ記入セシムヘシ

十一　概算拂ニ依ル證憑書ニハ「概算拂」ノ印ヲ押捺シ日毎ニ其ノ金額ヲ界紙ニ別記スルコト

概算拂證憑書ハ旅行明細ハ省略シ單ニ内譯欄ニ日數、夜數、里數、哩數等ノ計竝之ニ對スル各金額及其ノ合計金額ヲ揭記スルモ差支ナシ

十二　旅費ヲ打切支給シタルトキト雖概算拂ノ場合ト同シク精算證書ヲ提出スルコト

十三　旅費ノ一部業權ハ旅費支出決議書ノ餘白ニ其ノ旨記入シ債主認印スヘシ

十四　證憑書類ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關シテハ大正十一年五月大藏省令第四十三號ニ依ルヘク支出及支拂決議書ニ記載シタル授受金額ハ絶對ニ訂正スルコトヲ得ス

二　支出計算書ノ證憑書

一　隔地者ニ支拂ノ爲及國庫納金竝相殺ノ爲ニ振出ス小切手ニ對スル支出ノ證憑書類トシテハ日本銀行ノ領收證書ヲ支出決議書ニ前ニ綴込ムヘシ日本銀行ノ領收證書紙數多キ場合ハ別記記載例ノ表紙ヲ附シテ別册トスヘシ

二　定額戻入ニ對スル決議書及日本銀行領收濟通知書ハ證憑書トシテ振出ノ必要ナシ

三　計算證明規程第二十三條ニ依ル最終支出計算書ニ添附スヘキ調書及報告書書式ハ會計事務章程第百二條ニ依ルヘシ

附記　一通則第十四中ノ大正十一年五月大藏省令第四十三號ハ第一章第一節第四款ニ揭ケタリ

大正十五年度分ヨリ計算證明規程第三十五條ニ依リ最終支出計算書ニ事業成績書ヲ添附提出方昭和元年會計檢査院ヨリ要求アリタル趣ヲ以テ最終支出計算書ノ提出ノ際事業成績書ヲ添附提出スヘキ旨昭和二年四月財務局長ヨリ通牒セラレタリ

第四款　仕拂證明

仕拂證明ハ現金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ヨリ會計檢査院ニ對スル證明方法ナリ而シテ本證明モ計

算證明規程ニ依リ提出スルモノトス該規程中本證明ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ但シ第一節通則ハ前款ト併セ規定シアルガ故ニ便宜前款ニ併錄シタルヲ以テ茲ニハ之ヲ省略セリ

計算證明規程中拔萃（大正十一年三月會計檢査院達第一號　其ノ後改正セラル　昭和十年三月末日現在）

第三節　資金前渡官吏ノ出納

第四十條　左ノ事項ハ前渡資金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ說明書ヲ添附スヘシ

一　年度、科目其ノ他ノ更正ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由

二　誤拂、過渡其ノ他ノ返納ニ付處分ヲ爲スヘキモノアルトキハ其ノ金額事由

三　現金ヲ亡失シ又ハ缺損補塡ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由

四　會計規則第百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

五　他ノ出納官吏ト現金ノ受授ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ氏名及金額

第四十一條　最終前渡資金出納計算書提出ノ際概算拂ノ精算ニ至ラサルモノ、前金拂ニ係ル工事、製造ハ物件ノ買入若ハ運送ニシテ完了ニ至ラサルモノ、領收證書ノ到達セサルモノ、年度科目其ノ他ノ誤謬ニシテ處分未濟ニ係ルモノ、支拂殘額ノ返納ヲ了セサルモノアルトキハ其ノ事由及完結スヘキ期限ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

最終前渡資金出納計算書提出ノ際振出小切手ニ對シ日本銀行ニ於テ支拂未濟ノモノアルトキハ振出日附、番號、科目、金額及債主名ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ

最終前渡資金出納計算書提出ノ後年度、科目其ノ他ノ誤謬ヲ發見シタルトキハソノ都度之ヲ報告スヘシ

前各項ノ事項ハ完結ニ從ヒ其ノ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ報告スヘシ

第四十二條　前渡資金出納計算書ニハ會計規則第百三十八條ニ依ル檢定書ヲ添付スヘシ

第四十三條　證憑書トシテ提出スヘキモノニ付テハ第二節ノ規定ヲ準用ス（第二節ハ前款ニ揭ケタリ）

本府會計事務章程中ニ資金前渡官吏ノ資金出納計算書ニ關シ規定シアリ之ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月本府訓令第四三號　其ノ後屢次改正セラル　昭和十年三月末日現在）

第二百三十一條　資金前渡官吏ハ計算證明規程ニ依リ毎月資金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十日限支出官ヲ經テ之ヲ本府ニ提出スヘシ但シ府郡島、警察官署、道慈惠醫院、營林署（惠山鎭、江界、渭原、中江鎭、厚昌、新智坡鎭、茂山及會寧ヲ除ク）、地方法院支廳及刑務所ノ支所ノ資金前渡官吏ノ調製スヘキ資金出納計算書ハ第一期（自四月至六月）第二期（自七月至九月）第三期（自十月至十二月）第四期（自一月至二月）ノ年四期ニ分チ毎期終了後十五日限、翌年四月分ハ五月十五日限之ヲ本府ニ提出スヘシ資金前渡官吏月ノ中途ニ交替シタル場合ニ於テ前任官吏ノ計算ハ成ルヘク後任官吏ノ計算書ニ併算シ連名ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

第二百三十三條　分任資金前渡官吏ハ主任資金前渡官吏ニ準シ計算書ヲ作リ證憑書類ヲ添ヘ翌月五日迄ニ主任資金前渡官吏ニ送付スヘシ

主任資金前渡官吏前項ノ計算書ヲ受ケタルトキハ自己ノ計算書ニ併算シテ證明ノ手續ヲ爲スヘシ

第一款ニ述ベタルガ如ク大正十五年一月官通牒第三號ヲ以テ政務總監ヨリ計算證明書類調理上注意ノ件通牒セラレタリ該通牒中前渡資金出納計算書ニ關スル事項ヲ拔萃スレバ左ノ如シ但シ第一節一通則及第二節一通則ハ支出計算書ト併セ定メアルガ故ニ便宜前款ニ併錄シタルヲ以テ茲ニハ之ヲ省略セリ

證明書類調理上注意ノ件中拔萃（大正十五年一月官通牒第三號）

第三章　支出前渡資金出納計算書

第一節　計算書ニ關スル事項

一及二　省略

三　前渡資金出納計算書

一　資金前渡官吏交替シ連名ヲ以テ證明ヲ爲ス場合ニハ前渡資金出納計算書ニ各自ノ管理期間及後任資金前渡官吏ニ引繼タル金額ヲ記入シ檢定書ト對照ノコト

二　前渡資金出納計算書殘高ニ付テハ備考欄ニ手許保管高若ハ日本銀行預託高又ハ郵便局所、銀行若ハ金融組合預入高ヲ揭記スヘシ

三　資金前渡官吏日本銀行ニ資金ヲ預託スル場合ニ於テ證明スヘキ前渡資金出納計算書備考ノ「振出小切手支拂未濟額」ハ必ス揭記シ且最終前渡資金出納計算書ニハ計算證明規程第四十一條第二項ニ依リ調書ヲ添附スヘシ

四　毎年三月分(第四期分及)臨時ニ帳簿金櫃ノ檢査ヲ爲シタル月(期)ノ前渡資金出納計算書ニハ會計事務章程第六十二號書式ニ依ル檢定書ノ添附ヲ要シ定期檢査ノ場合ハ檢定書記載ノ金額ハ必ス計算書殘額ト符合スルモノナルコト

五　會計事務章程第二百三十一條第一項但書ニ依リ毎期提出スル前渡資金出納計算書ハ計算證明規程第三號書式中月トアルヲ期ト修正シ證明ノコト

六　臨時資金前渡官吏ハ會計事務章程第二百二十一條第一項ニ依リ毎月證明スヘキモ支拂金少額ナルモノ任期三箇月ニ滿タサルモノニ限リ任務終了後一回ニテ差支ナシ

臨時資金前渡官吏ノ提出スル最終又ハ任務終了後提出スル出渡資金出納計算書ニハ必ス檢定書ノ添附ヲ要ス

第二節　證憑書ニ關スル事項

一及二　省略

三　前渡資金出納計算書ノ證憑書

一　資金前渡官吏日本銀行預金託中ヨリ小切手ヲ振出シ支拂ヲ爲シタルトキハ支拂決議書ニハ小切手番號ヲ附スヘシ但シ資金前渡官吏小切手ヲ以テ現金ヲ引出シ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テハ支拂決議書ニ小切手ノ內番號ヲ附スルモノトス

二　當月(期)ノ支拂金ヲ其ノ月(期)ニ於テ回收シタルトキハ界紙竝支拂決議書ニ其ノ金額ヲ朱書スルコト

三　領收證書ノ未到達ニ係ルモノアルトキハ證憑書相當科目ノ處ニ仕譯書ヲ綴込ミ其ノ金額ヲ各目界紙ニ記載スルコト未到達ニ係ル領收證書到達シタルトキハ其ノ月(期)ノ計算書ト同時ニ提出ノコト但シ支拂ノ月及各目毎ニ區分シ一冊ニ編纂スヘシ

四　同地ノ債主ニ支拂ヲ爲ス場合ニ於テ郵便爲替證書送達ノ方法ニ依リタルトキハ郵便局所ノ發スル爲替金ノ領收證書ヲ、振替貯金ニ依リタリトキハ郵便爲替貯金管理所ヨリ送付スル振替貯金拂出內譯票又ハ郵便局所ヨリ發スル受領票(振替口座ニ加入セサル資金前渡官吏カ債主ノ口座ニ拂込ミタル場合ニ限ル)ヲ以テ領收證書ニ代ヘ證明スヘク領收證書未到達ノ證明手續ヲ省略スヘシ但シ債主ノ正當領收證ハ其ノ廳ニ於テ保存スヘシ

五　回收ニ對スル決議書ハ證憑書トシテ提出ノ必要ナシ

六　計算書本月(期)還納額ニ對シテハ證憑書トシテ日本銀行領收證書又ハ郵便局所ノ領收證書ヲ提出スルコト

七　計算證明規程第四十一條第一項ニ依ル最終前渡資金出納計算書ニ附スヘキ調書及同條第三項及第四項ニ依ル報告書書式ハ會計事務章程第百二條ニ依ルヘシ

(表紙ノ記載例)(樣式省略)

第五款　歲入歲出外現金出納證明

歲入歲出外現金出納官吏ノ證明モ計算證明規程ニ依リ提出スルモノトス該規程中歲入歲出外現金出納官吏ノ證明ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ但シ計算證明規程第六章第一節通則ハ收入證明ニ關スル事項ト併セ規定シアルガ故ニ第二款ニ併錄シタルヲ以テ茲ニハ之ヲ省略セリ

計算證明規程中拔萃(大正十一年三月會計檢査院達第一號　其ノ後改正セラル昭和十年三月末日現在)

第六章　現金出納

第三節　歲入歲出外現金

第五十六條　歲入歲出外現金出納官吏ノ調製スヘキ歲入歲出外現金出納計算書ハ毎年度之ヲ提出スヘシ但シ會計檢査院ニ於テ特ニ指定シタルモノハ毎月又ハ年數回ニ之ヲ提出スヘシ

第五十七條　左ノ事項ハ歳入歳出外現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ說明書ヲ添附スヘシ

一　現金ヲ亡失シ又ハ現金ノ缺損ニ對シ補充ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由

二　會計規則第百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

三　後任官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第五十八條　振出小切手ニ對シ日本銀行ニ於テ支拂未濟ノモノアルトキハ其ノ振出日附、番號、種別、金額、債主名ヲ歳入歳出外現金出納計算書ノ備考ニ記載シ完結ニ從ヒ之ヲ報告スヘシ

第五十九條　證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一　受入ニ對シテハ其ノ金額事由ヲ證明スルニ足ルヘキ他ノ官吏ノ保證若ハ其ノ他ノ書類

二　拂出ニ對シテハ領收證書若ハ他ノ官吏ノ保證書

第五十六條但書ニ依リ毎月又ハ年數回ニ證明スヘキモノノ證憑書類ハ別ニ之ヲ指定ス

本府會計事務章程中ニ歳入歳出外現金出納計算書ニ關シ規定シアリ之ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月本府訓令第四二號　其ノ後屢次改正セラル　昭和十年三月末日現在）

第二百三十四條　歳入歳出外現金出納官吏ハ計算證明規程ニ依リ歳入歳出外現金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌年度四月十五日限其ノ廳ノ長ヲ經テ之ヲ本府ニ提出スヘシ但シ覆審法院及地方法院ノ歳入歳出外現金出納官吏ノ調製スヘキ歳入歳出外現金出納計算書ハ京城覆審法院ニ在リテハ毎月、其ノ他ノ覆審法院及地方法院ニ在リテハ第一期（自四月至六月）、第二期（自七月至九月）、第三期（自十月至十二月）及第四期（自一月至三月）ノ年四期ニ分チ毎期終了後十五日限之ヲ本府ニ提出スヘシ

歳入歳出外現金出納官吏交替シタルトキハ還滯ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第一款ニ揭ゲタルガ如ク大正十五年一月官通牒第三號ヲ以テ計算證明書類調理上注意ノ件政務總監ヨリ通牒セラレタリ該通牒中歳入歳出外現金出納計算書ニ關スル事項ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

但シ第一節通則ハ收入金現金出納計算書ニ關スル事項ト併セ定メアルガ故ニ第二款ニ併錄シタルヲ以テ玆ニハ之ヲ省略セリ

證明書類調理上注意ノ件中拔萃（大正十五年一月官通牒第三號）

第四章　收入金現金歳入歳出外現金出納計算書

第二節　證憑書ニ關スル事項

一　省　略

二　歳入歳出外現金

一　殘高（預金部預入）欄ニ記載スル金額ハ預金部預金取扱規程ニ基キ日本銀行ニ預入又ハ預託シタル金額ヲ記載スヘキモノトス從テ郵便貯金等ニ預入シタル金額ハ現金欄ニ記載スヘキコト

二　振出小切手ニ對シ日本銀行ニ於テ支拂未濟ノモノアルトキハ其ノ振出日附、番地、種別、金額、債主ヲ計算書ノ備考ニ記載ノ完結ニ從ヒ報告スルコト

第三節　證憑書ニ關スル事項

一　省　略

二　歳入歳出外現金出納計算書ノ證憑書

一　證憑書ハ計算證明規程第五十九條ニ定メアル左記書類ヲ提出スルコト但シ拂出ニ對シテハ必ス領收證書ヲ提出スルコト

記

イ　受入ニ對シテハ其ノ金額事由ヲ證明スルニ足ルヘキ他ノ官吏ノ保證書若ハ其ノ他ノ書類

ロ　拂出ニ對シテハ領收證書若ハ他ノ官吏ノ保證書

保證書書式（省略）

二　證憑書トシテ保證書ヲ提出スル場合ハ表紙ヲ附セス脫落又ハ紛失ノ虞ナキ樣計算書ニ綴リ込ムコト

三　歳入歳出外現金出納官吏、收入官吏ト雖モ保管現金ヲ歳入ニ納付スル爲收入官吏ニ交付シタルモノノ證憑書ハ收入官吏ノ領收證ヲ徴セス歳入ニ納付シタル證書ハ收入計算書ニ添附シタル旨計算書備考ニ疏明スルコト但シ本件ハ保證書ニ非サル證憑書ヲ提出スル場合トス

第六款　物品出納證明

物品出納證明ハ物品會計官吏ノ證明ナリ本證明モ計算證明規程ニ依リ提出スルモノトス該規程中物品出納計算書ニ關スル規定ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

計算證明規程中拔萃（大正十一年三月會計檢査院達第一號　其ノ後改正セラル　昭和十年三月末日現在）

第七章　物品出納

第六十四條　物品會計官吏ハ第十號書式ニ依リ毎年度又ハ會計官吏交替ノ際物品出納計算ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後又ハ會計官吏交替後二箇月限之ヲ提出スヘシ

物品會計官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之カ證明ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期ヲ記載スヘシ

主任物品會計官吏ノ計算書ニ分任物品會計官吏ヨリ提出シタル報告書ヲ添附スルトキハ其ノ出納計算ノ併算ヲ省クコトヲ得但シ該報告書ハ計算書ノ書式ヲ準用スヘシ

分任物品會計官吏ニシテ特ニ計算ヲ證明スルトキハ主任物品會計官吏ヲ經由スヘシ

第六十五條　物品出納計算書ハ物品ノ種類若ハ所要ノ目的ニ依リ類別シテ毎品之ヲ列記スヘシ

國有財産ニ編入セラレタル動産ニシテ國有財産增減計算書ニ品名數量ヲ揭記シタルモノニ在リテハ物品出納計算書各類別ノ備考ニ其ノ價額ヲ記載シ毎品ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第六十六條　左ノ事項ハ物品出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ說明書ヲ添附スヘシ

一　前年度ヨリノ繰高ニシテ前年度末現在高ニ比シ異動アルモノハ其ノ事由

二　物品會計官吏物品ノ亡失毀損ニ對シ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第六十七條　證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一　物品ノ出納ニ關スル命令書及領收證書但シ特ニ指定スルモノヲ除クノ外他ノ官吏ノ保證書ヲ以テ代用スルコトヲ得

二　亡失毀損拂ノ物品ニ對シテハ他ノ官吏ノ認定セル品目、數量、價格及其ノ亡失毀損ノ事實ヲ記載シタル證明書、辨償ニ係ルモノハ其ノ仕譯書

三　贈與拂等ノ物品ニ對シテハ其ノ價格事由ヲ記載シタル證明書又ハ決議書

四　作業、鐵道、海軍工廠資金及鐵道用品資金所屬其ノ他ノ事業用物品ニシテ不用物品ニ組換ヘタルモノアルトキハ每件其ノ事由及原價又ハ見積價格ヲ記載シタル仕譯書若ハ決議書

五　現在高ニ對シテハ監督ノ任ニアル官吏ノ保證書

（省略）

收入印紙及郵便切手類ニ對シテハ第一項ノ外左ノ書類ヲ提出スヘシ

一　交換渡ニ對シテハ其ノ事由竝種類、員數ヲ記載シタル決議書又ハ當該上官ノ認定書

二　（省略）

三　燒却拂ニ對シテハ其ノ事由竝種類、員數ヲ記載シタル當該上官ノ認定書及立會官吏ノ證明書

四　保管轉換及返納等ノ爲他ノ會計官吏トノ間ニ受拂ヲ爲シタルモノニ對シテハ其ノ科目及種類每ニ官署名、數量ヲ記載シタル明細書

第六十八條　證憑書類ハ受拂ニ大別シ物品出納計算書ニ揭クル區劃ニ從ヒ品目每ニ區分編纂シ其ノ表紙ニ數量竝價格ノ合計及證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但シ品目ノ證書僅少ナルモノハ計算書ニ揭クル品目ノ順次ニ從ヒ合綴スルモ妨ナシ

一ノ證憑書中數種ノ品目ヲ混記セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其ノ表紙ニ每品目ノ數量價格合計ヲ記載スヘシ

（書式省略）

本府會計事務章程中ニ物品出納計算書ノ件ニ關シ規定シアリ之ヲ拔萃スレバ左ノ如シ

本府及所屬官署會計事務章程中拔萃（大正三年八月本府訓令第四二號　其ノ後屢次改正セラル　昭和十年三月末日現在）

第二百三十五條　第三號表ニ揭クル物品ヲ取扱フ物品會計官吏ハ計算證明規程ニ依リ物品出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌年度五月十五日限其ノ廳ノ長ヲ經テ之ヲ本府ニ提出スヘシ

第三號表ニ揭クル物品ヲ取扱フ物品會計官吏交替シタル場合ニ於テ後任官吏ノ計算ニ併算セサルモノニ付テハ交替後二箇月限前項ノ手續ヲ爲スヘシ

計算證明規程第六十七條第一項第五號ノ物品現在高保證書ハ同條第一號ノ事項證明上提出スベキ本府會計事務章程第六十一號書式ノ保證書ニ物品出納計算書及同證憑書ノ調査ヲ遂グルニ出納ハ總テ命令書ニ適合シ其ノ拂ノ部消耗、生產ノ爲及保管轉換ニ係ルモノハ總テ領收證書ニ符合シ且現在高ハ計算書ノ通總テ現存セルコトヲ保證スル旨記載スルコトニ取扱フベキ旨大正十二年五月專庶第一二〇五號ヲ以テ各專賣官署長ニ通牒セリ

物品出納計算證明證憑書ニ關スル件ニ付右ノ如ク通牒シタルガ該通牒ニ係ル計算證明規程第六十七條第一項第一號但書及第五號ニ依ル保證書ハ本府會計事務章程第十二條第一項但書ニ依リ其ノ廳ノ長ガ物品會計官吏タルトキハ直近上級廳ノ長ニ於テ之ヲ作成シ物品會計官吏ヨリ提出スル物品出納計算書ニ添附提出スベキ旨大正十五年六月專庶第一二〇五號ヲ以テ各專賣官署長ニ通牒セリ

從來鹽ハ本府會計事務章程第三號表ニ揭グル專賣物品ニ包含セザルモノトシテ委託檢查ノ取扱ヲ爲シタルモ今般本府ヨリ專賣物品ト同樣委託檢查除外物品トシテ取扱フベキ旨通達アリタルニ付計算證明規程ニ依リ大正十一年度分以降物品出納計算書ヲ提出スベキ旨大正十二年六月專庶第一五二三號ヲ以テ鹽務ヲ管掌シ居ル各出張所長ニ通牒セリ

煙草、人蔘、鹽ノ物品出納計算書ニハ保管轉換及雜件受拂ニ對シ內譯書ヲ作成添附セシムル必要アリ依テ其ノ書式ヲ定メ正副二通ヲ添附スベキ旨及保管轉換ニ付テハ物品出納計算書提出ニ先チ年度締切ト同時ニ甲乙廳ノ相互間ニ於テ其ノ數量價格ノ對査ヲ行ヒ其ノ正確ヲ期スルノ必要アルヲ以テ保管轉換拂出官署ニ於テ之ガ對照表ヲ作成シ保管轉換受入官署ニ發送シ相互對照スルコトニ取扱フベキ旨大正十三年三月專庶第五三三號ヲ以テ各專賣官署長ニ通牒セリ

回送又ハ保管中ノ惡變煙草及引替受入ニ係ル惡變製造煙草ノ證明ニ關スル件昭和二年十一月專庶第七一二號ヲ以テ各煙草製造官署、收納官署、販賣官署ノ長ニ通牒シタルガ物品出納簿整理方ト共ニ通牒シ第三章第四節第二款ニ揭ゲタルヲ以テ玆ニハ之ヲ省略セリ

會計檢查院法第十六條ノ規定ニ依リ檢查委託ヲ受ケタル物品ノ出納計算證明ハ物品會計規則第十八條ノ二ノ規定ニ依リ物品出納簿ヲ以テスベキ旨大正十一年七月專庶第四三六四號、昭和二年十月專庶第六五四號及昭和七年八月專庶第四九〇號ヲ以テ各支局長及直轄出張所長ニ通牒シタルガ本件ハ該物品ノ檢查執行方ニ關スル事項ト共ニ併牒シアリ而シテ該通牒ハ第三章第四節第七款ニ併錄セルヲ以テ玆ニハ之ヲ省略セリ

第五章　專賣實蹟

專賣ノ要旨ハ專賣ノ目的物ニ附隨スル逋稅等ノ弊害ヲ除去シ普通ノ課稅方法ヲ以テシテハ困難ナル收入ヲ收納上毫モ脫漏ナカラシムルニ在リ抑モ朝鮮ニ於ケル專賣中最モ重要ナル地位ヲ占ムル煙草ノ專賣ヲ施行セシ以來既ニ十有餘年ヲ閱スス故ニ玆ニ其ノ間ニ於ケル專賣ノ實蹟ヲ示サントス而シテ其ノ實蹟ハ大體益金ノ計算又ハ手續ノ檢定等ノ狀態ヲ査察シテ之ヲ表明スルヲ得ベシ依テ節ヲ分チテ次ニ之ヲ述ベントス

第一節　專賣益金

毎年度ノ專賣益金ハ當該年度ノ總收入金額ノ中ヨリ前年度ヨリ繰越タル收入金額竝製品、半製品、原料、材料等ノ價額及翌年度ニ繰越タル收入金額竝製品、半製品、原料、材料等ノ價額ヲ增減シ又支出金額ニ固定資本ノ減耗額等ヲ加ヘ右收入金額ヨリ之ヲ控除シテ計算セザルベカラズ而シテ專賣事業ヲ經營スルニハ勿論他ノ企業ノ如ク固定及運轉資本ヲ要シ又固定資本ハ漸次減耗シ且更新ヲ要スルモノアリ運轉資本ハ手持ノ斂額常ニ一定セズ從テ固定資本ノ消却運轉資本ノ手持關係等ヲ漏レナク計算セザレバ眞ノ專賣益金ヲ知ルコト能ハズ然レドモ此ノ如キ益金ハ其ノ計算頗ル複雜ナルヲ以テ之ガ揭上ヲ見合ハセ本節ニ於ケル專賣益金ハ歲入總額ヨリ歲出總額ヲ控除シタル差額ヲ揭上スルコトトセリ大體其ノ差額高キトキハ利益多ク其ノ差額低キトキハ利益少ナキモノナルガ故ニ專賣制度ノ成績如何ハ之ヲ以テ略檢ズルコトヲ得ベシ今大正十年度以降昭和九年度迄ノ各年度毎ノ專賣事業總體ノ歲入歲出及益金ヲ示セバ左ノ如シ

專賣事業歲入歲出及益金

年度	歲入	歲出	益金	歲入ニ對スル益金ノ割合	歲出ニ對スル益金ノ割合
自大正十年度至昭和九年度	圓	圓	圓	圓	圓
大正十年度	一六、九六九、四七〇	一二、七二一、三七七	四、二四八、〇九二	二・五〇	三三・四
大正十一年度	二一、五三四、六四四	一五、〇〇九、二〇〇	六、五二五、四四四	三・〇三	四三・五
大正十二年度	一九、八八二、六六四	一四、七〇二、九九二	五、一七九、六七一	二・六一	三五・二
大正十三年度	二四、〇九七、五三四	一六、九三六、八〇二	七、一六〇、七三一	二・九七	四二・三
大正十四年度	二四、九一四、三五五	一五、四四七、六四七	九、四六六、七〇七	三・八〇	六一・三
大正十五年度昭和元年度	三一、八五二、四〇六	一九、一二二、八二八	一二、七二九、五七七	四・〇〇	六六・六
昭和二年度	三六、四〇〇、六〇六	二二、〇四九、六九五	一四、三五〇、九一一	三・九四	六五・一
昭和三年度	三六、八三八、三九五	二三、六八五、二五三	一三、一五三、一四二	三・五七	五五・五
昭和四年度	三八、五四七、〇一九	二二、八三六、三五五	一五、七一〇、六六三	四・〇八	六八・七
昭和五年度	三八、六七九、八七八	二一、〇九九、七七六	一七、五八〇、一〇二	四・五五	八三・三
昭和六年度	四六、二七五、九六八	二二、四〇五、二七九	二三、八七〇、六八八	五・一六	一〇・六五
昭和七年度	四〇、二一〇、四四四	二二、三一七、五〇四	一七、八九二、九四〇	四・四五	八・〇二
昭和八年度	四四、〇〇三、〇一〇	二四、〇〇五、〇七九	一九、九九七、九三一	四・五四	八・三三
昭和九年度	四七、八二〇、二三六	二八、九六九、四六二	一八、八五〇、七七三	三・九四	六・五一

一　昭和六年度ノ歳入及益金ノ著シク增加シタル理由ハ次ニ述ブル所ノ如シ

二　昭和七年度ノ內書ハ煙草、蔘業、鹽業、阿片ニ屬セザル專賣調査ニ對スル經費トス

前揭ノ如クニシテ專賣事業總體ノ益金ハ漸次增加シ來リ本府ノ財政上ニ寄與スル所少カラズ今囘テ事業別ニ其ノ益金等ヲ見ルニ煙草ハ左表ノ如クニシテ制度施行當初ハ民製持越品ノ夥多、販賣機關ノ不整頓、犯則ノ跋扈等ニ因リ豫期ノ益金ヲ擧ゲ難カリシモ極力販賣機關ノ整備ヲ圖リ一方機關ヲ充實セシメ取締ノ周到ヲ期シタル結果漸次益金增加シ大正十四年度以降漸ク豫期以上ノ益金ヲ擧グルヲ得ルニ至リタリ又昭和六年度ノ歳入及益金ノ著シク增加シタルハ主トシテ同年七月ヨリ煙草元賣捌ヲ政府ニ於テ直營スルコトト爲リタル結果從來煙草元賣捌人ニ對シ製品賣渡代ノ延納ヲ許セシモ制度改正後ハ政府ヨリ直接小賣人ニ現金ニテ賣渡スコトト爲リタル結果トス

自大正十年度至昭和九年度　**煙草專賣益金**

年度	歳入	歳出	差引益金	歳入ニ對スル益金ノ割合	歳出ニ對スル益金ノ割合
大正十年度	一三、五八〇、五三九圓	一〇、三六八、一五六圓	三、二一二、三八二圓	割二三七	割三〇一
大正十一年度	一八、二九五、〇二五	一二、五四九、七四五	五、七四五、二七九	三一四	四五八
大正十二年度	一七、〇二二、五六五	一二、二二六、四〇五	四、七九六、一六〇	二八二	三九二
大正十三年度	二〇、八三二、七六四	一四、六四一、九〇八	六、一九〇、八五五	二九七	四二三
大正十四年度	二一、〇二四、九九九	一三、三八四、三〇五	七、六四〇、六九三	三六三	五七一
大正十五年昭和元年度	二七、七六八、五九三	一六、九三一、一八四	一〇、八三七、四〇九	三九〇	六四〇
昭和二年度	三二、七三五、一八六	一九、五三七、四九二	一三、一九七、六九三	四〇三	六七六

年度	歳入	歳出	差引益金	歳入ニ對スル益金ノ割合	歳出ニ對スル益金ノ割合
昭和三年度	三二、二三三、四五八	二〇、五六四、二三八	一一、六六九、二二〇	三六二	五六七
昭和四年度	三四、四五八、九六五	一九、八四六、六五九	一四、六一二、三〇五	四二四	七三六
昭和五年度	三二、八六〇、六八五	一六、八二四、三三七	一六、〇三六、二四九	四、八八	九五三
昭和六年度	三九、七二三、九八八	一七、二一四、八九九	二二、五〇九、〇八八	五六七	一三、〇八
昭和七年度	三三、二二七、一五八	一六、六四〇、六八四	一六、五八六、四七四	四九九	九九七
昭和八年度	三六、三六八、八三二	一七、五七八、八一〇	一八、七九〇、〇二二	五一七	一〇六九
昭和九年度	三九、六五二、八五一	二二、三九〇、二六一	一七、二六二、五九〇	四三五	七七一

備考　大正十年度ノ歳入及益金等ノ著シク寡少ナルハ煙草專賣ハ同年七月ヨリ施行シタル結果トス

紅蔘專賣ハ左表ノ如クニシテ大正十年度ヨリ昭和元年度迄ハ漸次生產高增加シ之ニ伴ヒ益金モ亦增加シ來リタリ而シテ年度ニ依リ益金ニ少カラザル差ヲ示セルハ當該年度ニ生產シタル製品ヲ輸出先ニ於ケル消費ノ關係等ニテ該年度ニ賣渡スコトヲ得ズ製品ヲ持越シ翌年度ニ於テ賣渡シタルモノアルニ基因ス又昭和四年度以降歳入及益金ノ著シク減少シタルハ支那動亂又ハ滿洲事變ニ因ル日貨ノ排斥及爲替ノ低落等ニ因リ賣渡價格ヲ漸次低下シタル結果トス

自大正十年度至昭和九年度　**紅蔘專賣益金**

年度	歳入	歳出	差引益金	歳入ニ對スル益金ノ割合	歳出ニ對スル益金ノ割合
大正十年度	二、一〇四、七七〇圓	一、四八六、九一九圓	六一七、八五一圓	割二九四	割四一六
大正十一年度	二、二七〇、七三二	一、六二六、六七一	六四四、〇六一	二八四	三九六
大正十二年度	二、二二六、八五六	一、六〇六、六九三	六二〇、一六三	二七八	三八六

年度	歲入	歲出	差引益金	歲入ニ對スル益金ノ割合	歲出ニ對スル益金ノ割合
大正十三年度	二、一五六、四〇九圓	一、三三九、九六八圓	八一六、四四一圓	三・七九	六・〇九
大正十四年度	二、六九一、一八二	一、〇五七、八〇三	一、六三三、三七九	六・〇七	一五・四四
大正十五年度	二、七六九、六〇六	九九八、九七八	一、七七〇、六二七	六・三九	一七・七二
昭和二年度	二、四四四、七三〇	一、三六〇、二三七	一、〇八四、四九三	四・四四	七・九七
昭和三年度	三、〇六九、四六三	一、八〇七、九六七	一、二六一、四九六	四・一一	六・九八
昭和四年度	二、四八四、二九九	一、四六八、七一一	一、〇一五、五八七	五・〇九	六・九一
昭和五年度	二、四五五、一三三	一、五四七、六三七	九〇七、四九六	三・七〇	五・八六
昭和六年度	二、〇四〇、九三二	一、四六六、五一七	五七四、四一四	二・八一	三・九二
昭和七年度	二、一〇〇、九七四	一、五〇一、二七四	五九九、六九九	二・八五	三・九九
昭和八年度	一、三四三、二六三	一、二五四、四三二	八八、八三一	〇・六六	〇・七一
昭和九年度	一、五七三、三一二	一、二二四、一三三	三四九、一七九	二・二二	二・八五

鹽業ハ左表ノ如クニシテ大正十一年度ハ歲入及益金著シク減少シ大正十二年度ハ歲入減少シ損益計算ハ缺損ヲ示シ昭和二年度ハ益金著シク減少シ昭和三年度ハ歲入及益金增加シ昭和四年度ハ歲入增加シタルニ拘ラズ益金減少シ昭和五、六兩年度以降ハ歲入及益金著シク增加シタリ今年度別ニ其ノ增減ノ事由ヲ概述スレバ左ノ如シ

大正十一年度

歲入及益金ノ著シク減少シタルハ採鹽作業ハ前年度同樣行ヒタルモ當該年度ハ採鹽時期ニ降雨多カリシ爲豫定ヨリ採鹽量三割八分ヲ減少シタル結果ナリ

大正十二年度

歲入著シク減少シ又損益計算ハ缺損ヲ見ルニ至リタルハ採鹽時期ニ降雨多カリシト鹽田中ニ海嘯ノ被害ヲ受ケタルモノアリ之ガ爲採鹽量豫定ニ比シ五割一分減少シ搗テ加ヘテ海嘯ノ爲採取シタル鹽ヲ七百五十四萬餘莚流失シタル結果ナリ

昭和二年度

歲入及益金ノ減少シタルハ一般ニ鹽豐作ノ爲鹽價低落シタル結果ナリ

昭和三年度

歲入及益金ノ增加シタルハ鹽價ハ前年度ヨリ低落シタルモ鹽豐作ニシテ採鹽量著シク增加シタル結果ナリ

昭和四年度

歲入ハ增加シタルニ拘ラズ益金ノ減少シタルハ採鹽量增加シタルモ官鹽ノ供給ヲ普遍的ナラシムル爲運賃ヲ掛ケ奥地ヘノ供給ヲ增加シタル爲運賃ノ歲出著シク增加シタル結果ナリ

昭和五年度以降

歲入及益金ノ著シク增加シタルハ鹽政上昭和五年度ヨリ政府ニ於テ輸移入鹽ノ管理ヲ施行シタル爲從來民間ニ於テ自由ニ輸移入シタル鹽ヲ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非ザレバ輸移入スルヲ得ザルコトト爲リ又政府ノ命ヲ受ケ輸移入シタル鹽ハ全部政府ニ於テ之ヲ買收シテ官製鹽同

樣更ニ之ヲ民間ノ元賣捌人ニ拂下グルコトト爲リタル結果トス

自大正十年度至昭和九年度　鹽業益金

年度	歲入	歲出	差引益金	歲入ニ對スル益金ノ割合	歲出ニ對スル益金ノ割合
大正十年度	一、一六二、三八〇圓	七七五、八三一圓	三八六、五四九圓	三三・〇割	四・九八割
大正十一年度	八九八、二九〇	七七一、五六六	一二六、七二四	一・四一	一・六四
大正十二年度	五六七、五〇五	八一七、九三一	△二五〇、四二五	△四・四一	△三・〇六
大正十三年度	一、〇五四、一八九	九一三、七八〇	一四〇、四〇九	一・三三	一・五四
大正十四年度	一、一九八、一一三	一、〇〇五、五三七	一九二、五七五	一・六一	一・九二
大正十五年度昭和元年度	一、三一四、二〇六	一、一九二、六六六	一二一、五四〇	〇・九三	一・〇二
昭和二年度	一、二二〇、六九八	一、一五一、九六六	六八、七二三	〇・五六	〇・六〇
昭和三年度	一、五三五、四七二	一、三一三、〇四七	二二二、四二五	一・四九	一・六九
昭和四年度	一、六〇三、四八九	一、四六三、六〇七	一三九、八八一	〇・八七	〇・九六
昭和五年度	三、一六五、八五九	二、六四八、一二七	五一七、七三三	一・六四	一・九六
昭和六年度	四、二三五、四二一	三、四五三、一二七	七八二、二九三	一・八五	二・二七
昭和七年度	四、五九七、六六〇	三、八九〇、一五九	七〇七、五〇一	一・五三	一・八二
昭和八年度	五、五四〇、七二三	四、六九三、五五八	八四七、一六五	一・五三	一・八〇
昭和九年度	六、〇一〇、六三九	四、八四九、四二〇	一、一六一、二一九	一・九三	二・三九

阿片ハ取締上ノ必要及藥用阿片ノ需給ヲ圓滑ナラシムル爲大正八年ニ初メテ阿片取締令ヲ制定シ取締ニ關シテハ警察官憲ニ於テ管掌シ阿片ノ收納販賣等ハ專賣局（大正十年四月以前ハ本府財務局專賣課）ニ於テ管掌セシガ歐洲ノ平和克復ト共ニ價格下落シ南鮮ノ地味肥沃ナル地方ハ罌粟ノ耕作ヲ廢止シ產額極メテ寡少ト爲リシト中央政府ノ行政整理ノ方針ニ則リ大正十四年ニ阿片ノ專賣ヲ廢止スルト同時ニ專賣局官制ヲ改正セラレ阿片ニ關スル事項ヲ削除シ是等ノ事務ハ總テ警務局ノ主管ト爲リタリ大正十五年ニ主トシテ警察取締ヲ主眼トシテ再ビ阿片ヲ專賣ト爲シタル後モ引續阿片ニ關スル全部ノ事務ヲ警務局ニ於テ管掌シタリ而シテ其ノ當時「モルヒネ」ハ收納シタル阿片ヲ大正製藥會社ニ賣渡シ製造セシメタルガ「モルヒネ」ハ往々不正ノ授受行ハレ諸種ノ弊害ヲ生ズルノミナラズ「モルヒネ」中毒患者ヲ根絶セシメ難キヲ以テ昭和四年度ヨリ之ガ製造販賣ヲ官營トシ現在ノ「モルヒネ」中毒患者ノ對シテハ强制的ニ治療ヲ加ヘ以テ「モルヒネ」中毒患者ノ絶滅ヲ期スルコトト爲リタルヲ以テ「モルヒネ」ノ製造販賣ハ事業ノ性質上事業官廳タル專賣局ヲシテ管掌セシムルヲ適當ト認メ專賣局官制ヲ改正シテ阿片ノ收納醫藥用阿片及麻藥類ノ製造及販賣ニ關スル事項ハ專賣局ニ於テ管掌スルコトト爲リタリ

大正十年度以降ノ阿片事業ノ益金等ヲ示セバ左表ノ如クニシテ大正十三年度迄ハ前述ノ如ク收納シタル阿片ヲ收納後大正製藥會社ニ賣渡シタルヲ以テ每年度ノ益金等略大差ナカリシモ昭和四年度ニ於テ醫藥用阿片等ノ製造ヲ直營スルニ至リタル以降ハ收納シタル阿片ヲ以テ當該年度ニ醫藥用阿片等ヲ製造セズ其ノ儘翌年度ニ持越スコトアリ又臺灣ニ於テハ鹽酸「モルヒネ」、鹽酸「ヘロイン」ヲ製造スル際副產物トシテ生產セラルル粗製「モルヒネ」少カラズ存在シ而モ之ヲ消化スルノ途ナク之ガ處分ニ窮シ居レリ而シテ醫藥用阿片等ハ右粗製「モルヒネ」ニテ製造セバ有利ナルヲ以テ朝鮮ニ

於ケル收納阿片ト交換シ又ハ收納阿片ヲ其ノ儘臺灣ニ賣渡シ臺灣ヨリ粗製「モルヒネ」ヲ買入レ之ヲ以テ醫藥用阿片等ヲ製造ス是等ノ關係ニテ昭和四年度以降ハ益金常ニ異動シ表示ノ如キ結果ヲ示スニ至リタルモノトス

自大正十年度至昭和九年度阿片業益金

年度	歲入	歲出	差引益金	歲入ニ對スル益金ノ割合	歲出ニ對スル益金ノ割合
大正十年度	一二一、七七九圓	九〇、四七〇圓	三一、三〇九圓	二・五七割	三・四六割
大正十一年度	七〇、五九六	六一、二一六	九、三七九	一・三一	一・五三
大正十二年度	六五、七三六	五一、九六二	一三、七七四	二・一〇	二・六五
大正十三年度	五四、一七〇	四一、一四四	一三、〇二五	二・四〇	三・一七
大正十四年度	五九		五九	一〇・〇〇	
大正十五年度昭和元年度					
昭和二年度					
昭和三年度					
昭和四年度	二六四	五七、三七六	△五七、一一一	△二一五七・二七	△九九五
昭和五年度	一九八、二九八	七九、六七四	一一八、六二四	五・九八	一四・八九
昭和六年度	二七五、六二六	二七〇、七三四	四、八九二	〇・〇二	〇・〇二
昭和七年度	二八四、六五〇	二八五、三八六	△七三五	△〇・〇三	△〇・〇三
昭和八年度	七五〇、一九〇	四七八、二七八	二七一、九一二	三・六三	五・六九
昭和九年度	五八三、四三二	五〇五、六四七	七七、七八五	一・三三	一・五四

第二節　檢定

專賣ニ於ケル歲入歲出及益金ノ計算ニ付テハ前節ニ於テ之ヲ盡シ專賣ノ成績ヲ明ニシタリ而シテ其ノ歲入歲出ニ對スル法規上ノ當否ハ取扱ノ實況ニ依リテ之ヲ檢ゼザルベカラズ卽チ會計檢査院ノ檢查報告及之ニ對スル政府ノ辯明竝帝國議會ノ決議ヲ參看シテ始メテ之ヲ檢スルコトヲ得ベシ依テ大正十年度以降檢查報告ヲ提出セラレタル事項ノ決定ヲ揭ゲ其ノ實蹟ヲ明ニセントス

一　買收建物ノ價格ノ算定宜シキヲ得ズ國庫ニ損失ヲ及シタル件

右ニ關シ昭和五年一月會計檢查院ヨリ帝國議會ニ檢查報告トシテ左ノ如ク提出セラレタリ

昭和三年度
拓務省所管朝鮮總督府
歲出臨時部
第五款　營繕費
第九項　新營及設備費

(二)　朝鮮總督府專賣局ノ支出ニ係ル　一二、一二一、二一〇ハ慶尙南道密陽郡密陽面所在密陽煙草耕作組合外二組合共有ノ木造平家建荷造場、荷置場、鑑定室等百二十七坪餘ノ買收代價ナリ右ハ坪當九十五圓餘ニ當リ時價ニ比シ著シク高價ナルモノト認メ之ガ事由ヲ當該官吏ニ推問セシニ其ノ答辯ノ要旨ハ本件建物ハ煙草秘令ニ依ル葉煙草ニ對スル消費稅賦課ノ便宜上煙草耕作組合ヲシテ建築セシメタルモノニ係リ煙草專賣令ノ實施ニ際シ政府ニ於テ買收スルノ必要アリタルモ豫算ノ都合上本年度ニ於テ買收スルニ至レルモノニシテ買收價格ハ買收當時ニ於テ新築スル場合ノ建築費所要額ヲ一萬七千九百二十五圓ト算定シ耐久年限ヲ二十五年ト見込右建築費所要額ヨリ建築後經過年數八年ニ對

スル減耗見込價格五千七百三十六圓ヲ控除シ殘額一萬二千百八十九圓ヲ時價ト看做シ其ノ範圍内ヲ以テ決定シタルモノナリト謂フニ在リ然レドモ本件建物ハ大正九年物價昂騰ノ際一萬二千百餘圓ヲ以テ新築セシモノナルニ爾後八年ヲ經過シ一般物價著シク下落セル昭和三年十二月之カ買收ニ當リ新築費所要額ヲ一萬七千餘圓ニ見積リ買收價格ヲ決定セシカ如キハ失當ノ措置ト認メザルヲ得ズ現ニ大正十一年本件建物ノ一部ナル荷造場ニ繼足シ建設シタル同一用途ノ建物ハ坪當百圓ニシテ本年五月之カ實地ヲ檢査スルニ買收セル荷造場ハ寧ロ其ノ構造ニ於テ右繼足建物ニ劣レルノ實狀ナルニ買收當時之カ新築費ヲ坪當百二十四圓ト見積レルニ徴スルモ本件ハ高價ニ失セシモノト認メザルヲ得ズ又答辯ニ謂フカ如ク豫算ノ都合上買收遲延セリトスルモ其ノ期間ハ之ヲ借上建築費ニ對シ年一割五分餘ニ相當スル賃借料千八百三十六圓ヲ毎年支拂タルモノナルヲ以テ此ノ間組合ニ於テハ相當有利ナル計算ト爲レルモノナリ要スルニ本件ハ建物ノ買收ニ當リ時價ノ算定其ノ宜シキヲ得ズ國庫ニ損失ヲ及シタルモノニシテ不當ナリトス

本府ハ右檢定ヲ是認セズ其ノ不當ニ非ザル旨ヲ左ノ如ク辯明セリ

本件建物ハ葉煙葉鑑定場、荷置場竝荷造場等ノ設備ヲ包含スルモノニシテ大正七年度煙草稅令ノ改正ニ依リ新ニ葉煙草消費稅ヲ設ケラレ課稅上耕作者ノ葉煙草ニ對シ集合鑑定ノ必要アリタルヲ以テ當時政府ニ於テ設備スベカリシモノナリシモ便宜上煙草耕作組合ヲシテ建築セシメタルモノニシテ煙草專賣創始ト同時ニ如斯直接葉煙草收納ノ爲必要ナル建物ノ維持保存ハ之ヲ煙草耕作組合ヲシテ負擔セシムベキモノニ非ザルヲ以テ當然建築費相當額ヲ以テ買收スルヲ要セリト雖豫算ノ都合上本年度ニ於テ買收スルノ止ムナキニ至リタルモノニシテ此ノ間組合ニ對シ支拂タル借料ハ建築資金ニ對スル利子地代竝管理費ヲ見込タルニ過ギズ建物減價償却費ハ之ヲ見込マザリシヲ以テ當時ノ建築費ニ相當スル價格ヲ以テ購入スルノ已ヲ得ザルニ出デタルモノナリ

然ルニ帝國議會ハ政府ノ辯明ヲ是認セズ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スベキモノト認ムト議決セラレタリ

二　虛構ノ事實ニ對シ支拂ヲ爲シタル結果國庫ニ損失ヲ及ボシタル件

右ニ關シ昭和六年十二月二十八日會計檢査院ヨリ帝國議會ニ檢査報告トシテ左ノ如ク提出セラレタリ

拓務省所管朝鮮總督府

歲出經常部

第十六款　專賣局

第二項　事業費

（十二）　朝鮮總督府專賣局ノ支出ニ係ル　六、四四二、三四〇圓

ハ鹽包裝用繩及叺購入代トシテ證明シタルモノナルモ其ノ實同局鎭南浦出張所雇本田某ガ會計事務從事中昭和四年四月ヨリ五年四月ニ至ル間ニ於テ代金請求書其ノ他ノ書類ヲ僞造シ騙取シタルモノニシテ尙右ノ外同人カ翌年度ニ亙リ賃金前渡官吏ノ小切手用紙及印章ヲ盜用スル等ノ手段ヲ以テ現金ヲ騙取シタルモノ五千三百五十圓二十錢アリ右ハ虛構ノ事實ニ對シ支拂ヲ爲シタルモノニシテ不當ナリトス

右報告ニ對スル辯明書左ノ如シ

會計檢査院檢査報告ノ通　但シ被害金總額一萬一千七百九十二圓五十四錢ハ犯人本田喜藏ニ對シ附帶私訴ヲ提起シ判決アリタルヲ以テ日下辨償方處理中ナリ尙賃金前渡官吏西村秀一ノ責任ニ屬スル七千八百五十三圓五十四錢ニ對シテハ直ニ辨償命令ヲ發シタル所內七百四十五圓四十五錢ハ任意辨償ノ申出アリ同年十月二十七日歲入ニ納付シタリ而シテ關係責任者ハ夫々處分濟ナリ

議會ニ於テハ貴族院ハ「政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スベキモノト認ム」ト又衆議院ハ「虛構ノ事實ニ對シ支拂ヲ爲シタルモノニシテ不當ナリトス」ト決議セラレタリ

三　賚金前渡官吏官金橫領ノ爲國庫ニ損失ヲ及ボシタル件

右ニ關シ昭和八年一月二十四日會計檢査院ヨリ帝國議會ニ檢査報告トシテ左ノ如ク提出セラレ

タリ

拓務省所管朝鮮總督府

歲出經常部

第十六款　專賣局

第二項　事業費

(四)　朝鮮總督府專賣局ノ支出ニ係ル　二〇、九四四、三〇〇

ハ、同局慶源出張所資金前渡官吏朝鮮總督府專賣局屬下村某ニ對シ交付セル前渡資金ノ內返納ニ至ラザルモノナリ

右ハ前記下村某カ同出張所勤務中大正十三年十二月ヨリ昭和七年一月ニ至ル間ニ於テ關係書類ニ虛僞ノ記載ヲ爲シ前渡資金ヲ橫領費消シ支拂資金ニ窮スルニ至レバ資金殘額僅少ナルガ如キ前渡資金請求計算書ヲ作成シ支出官ヨリ資金ノ交付ヲ受ケ遞次差繰補塡シ遂ニ本年度ニ至リ前揭二萬九百餘圓ノ缺損ヲ生セシメ返納ニ至ラズ實際支拂ナキニ拘ラズ本費ニ決算セラルルニ至リシモノナリ右ノ外昭和五年度中同出張所鹽出納係雇溝口某及同事務補助事業手高橋某カ鹽仲買商李某ト共謀ノ上五年五月ヨリ同年八月ニ至ル間ニ於テ前記下村某カ物品會計官吏トシテ保管中ニ係ル在庫鹽八十七萬七百斤代價五千四百餘圓ヲ橫領シタルモノナリ依テ本件ハ不當ナリトス

右報告ニ對スル辯明書左ノ如シ

會計檢査院檢査報告ノ通　但シ保管金被害ニ對スル責任者下村某ハ昭和七年一月十二日自殺シ法定遺產相續人ハ相續權ノ抛棄ヲ爲シタルモノノ處昭和七年三月十一日同人ノ生前同棲者山岡ユウヨリ金一千五百圓ヲ任意辨納セリ尙官鹽被害ニ對シテハ加害者ニ對シ辨償方ニ關シ夫々相當處置濟

議會ニ於テハ貴族院ハ「政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スベキモノト認ム」ト又衆議院ハ「前渡資金ノ返納ニ至ラザリシモノニシテ不當ナリトス」ト決議セラレタリ

以上ノ如クニシテ大體ニ於テハ專賣局ニ於ケル出納ハ適正ニ執行セラレタリト謂フコトヲ得ベシ而シテ前揭一ハ出納上不當ノ取扱ナリト云フモ事業上已ヲ得ザルニ出タルモノナリ然レドモ議會ニ於ケル決議ノ趣旨ニ鑑ミ爾來煙草耕作組合ヨリ建物ヲ買收スル場合ノ價格算定ノ方法ヲ改メ決議ノ趣旨ニ背馳セザラシメタリ又二及三ハ出納上所揭ノ如キ不祥事件ノ發生ヲ見タルハ頗ル遺憾トスル所ナリ而シテ三ニ付テハ昭和七年一月下村屬全州支局ニ轉勤ヲ命ゼラレ事務ノ引繼ニ當リ其ノ發覺ノ免レザルヲ知リ引繼ヲ爲ス前日拳銃ヲ以テ自殺ヲ遂ゲ又二ニ付テハ發覺當時責任者ヲ夫々相當處分シタルヲ以テ極力將來是等ノ不祥事件ヲ未然ニ防遏スルノ方法ヲ講ゼリ

昭和十一年六月廿五日印刷
昭和十一年七月一日發行

朝鮮總督府專賣局

印刷者　東京市小石川區久堅町百八番地　大橋光吉

印刷所　東京市小石川區久堅町百八番地　共同印刷株式會社

1-24T-32